

第九十回帝國議會 臨時物資需給調整法案委員會會議錄(速記)第十回

付託議案(審査終了ノモノヲ除ク)
商工協同組合法案(政府提出)

昭和二十一年九月二十三日(月曜日)午
前十一時一分開議

出席委員

委員長 竹田 儀一君

委員 加藤 一雄君 渡部 小島 徹三君
渡部 堀田 十一郎君 渡部 健三郎君
渡部 宮前 進君 渡部 西村 榮一君
渡部 前田 榮之助君 渡部 石原 登君
渡部 足田 敏男君 渡部 福田 繁芳君
井田 友平君 飯田 三郎君
西村 久之君 厚東 常吉君
田中 源三郎君 田中 實司君
瀧澤 脩作君 山田 善三君
馬越 晃君 九鬼 紋十郎君
鈴木 明良君 坪川 信三君
川崎 秀二君 金子 益太郎君
竹谷 源太郎君 加藤 勘十君
大宮 三郎君 稻田 健治君
三木 武夫君 伊藤 恭一君
布 利秋君

九月二十一日委員小坂善太郎君辭任ニ
付其ノ補闕トシテ増井慶太郎君ヲ議長
ニ於テ選定シタ

出席國務大臣

商工大臣 星島 二郎君
運輸大臣 平塚 常次郎君

出席政府委員

商工事務次官 小林 銈君
商工事務官 吉田 佛二郎君
商工事務官 小出 榮一君

本日ノ會議ニ付シタ議案

商工協同組合法案(政府提出)

○竹田委員長 ソレデハ會議ヲ開キマ
ス、商工協同組合法案ニ關スル質疑ヲ
繼續致シマス——加藤 一雄君

○加藤(一)委員 先づ質問ノ順序ト致
シマシテ、法案ノ細部ノ問題ニ付キマ
シテハ、又別ニ順序ヲ經マシテ質問致
シタイト思ヒマス、大項ダケヲ先ヅ御
同ヒ致シマスソレカラ委員長ニ御願ヒ
致シマスルガ、運輸大臣ニ緊急質問ヲ
致シタイト思ヒマス、午後御出席ヲ御
願ヒ致シマス

我々ハ定刻十時ニ參集致シマシテ、
政府ノ來場ヲ待ツテ居ッタノデアリマ
スガ、中々オ見エニナリマセヌノデ、
一同申合セラシマシテ、十一時マデニ
御來場ガナカッタラ一時散會ト云フコ
トニ方針ヲ定メテ居ッタノデアリマス
ガ、タツタ二分間デ政府ノ助カッタノ
デアリマス、我々ハ雨ノ降ルノニ國民
ノコトヲ思ビマシテ一生懸命ヤツテ居
ルノデアリマスシ、政府ト致サレマシ
テモ、自分デオ立テニナリマシタ法案
ノ審議デアリマスカラ、十分其ノ點ヲ
御考ヘノ上デ、大臣ガ御出席デアラウ
ガナカラウガ、政府委員ト致シマシテ
ハ、陪席シテ十分審議ヲ致サレルノガ
至當ト思ヒマス、爾今ハ左様ナコトノ
ナイヤウニオ心掛ケテ願ヒタイ、質問
ニ先立チマシテ政府ニ警告ヲ發シテ置
キマス

ソコデ先ヅ第一ニ御伺ヒシタイ點
ハ、從來ノ組合法ヲ改正スル趣旨デア
リマス、其ノ趣旨ヲ簡單ニ御説明願ヒ
タイト思ヒマス

○竹田委員長 委員長ヨリモ警告ヲ發
シテ置キマス、大分オ待チニナツテ、
宥メテ、オ待チヲ願ッタヤウナ譯デ
アリマスカラ、ドウカ一ツ、モウ少シ
早目ニ來ラレシコトヲ嚴重ニ警告ヲ發
シテ置キマス

○小林政府委員 洵ニ申譯ゴザイマセ
ス、厚ク御詫ビラ申上ゲマス
只今加藤委員カラ御質問ガゴザイマ
シタ點ニ付キマシテハ本會議立ニ本委
員會ニ提案ノ理由ヲ説明致シマシタ中
ニ申上ゲテ居リマスル通り、從來ノ商
工組合法ト云フモノハ、戰時ノ統制ヲ
中心トシテ作ラレタ法律デアリマシ
テ、此ノ商工組合法ノ中ニハ、統制組
合ニ關スルモノト、施設組合ニ關スル
モノトガアリマシタケレドモ、大體ニ
於テ統制ト云フコトヲ中心ニサレテ居
リマス、隨テ是所謂戰時中ニ行ハレマ
シタ指導者原理ニ依リ獨裁的ナ基礎觀
念ノ下ニ作ラレタ法律デアリマシテ、
終戰後ノ今日、特ニ民主主義ニ徹底シ
ヨウトスル今日ニ於キマシテハ、非常
ニ其ノ基本的理念ニ於テ相容レナイモ
ノガゴザイマス、即チ是等ノ從來誤ッ
タ統制ニ陷ツタ觀念ヲ根本ノニ切換ヘ
マシテ、サウシテ民主主義政治ニ徹底
シタ自治的ナ、下ヨリ盛上ツタ組合ト
云フモノヲ作リタイト云フコトカラ、
本案ノ提案ガサレタノデゴザイマス

又一方、終戰後ニ於キマスル我が國
ノ經濟産業狀態ガ、御承知ノ如ク財閥
ハ解體セラレ、軍需工業ハ其ノ根柢カ
ラ覆ヘサレ、殆ド我が國ノ從來ノ産業
組織ト云フモノガ根柢ニ於テ其ノ基礎
ヲ失ヒマシテ、是カラ先澤山ナ賠償施

設ガ取ラレ、將來日本ガ立ツテ行ク
道ニ於テハ、此ノ中小商工業ト云フモ
ノヲ基本ニシテ日本ヲ再建シテ參ラナ
ケレバナラス、ソレニハ極メテ民主
的ナ組合ヲ作ツテ、サウシテ中小商工
業ノ人々ガオ互ニ協力シ合ツテ、共同
施設ニ依ツテ産業ノ合理化ヲ圖ツテ、
サウシテ中小商工業者自體ノ發展ヲ圖
ルト同時ニ、我が國ノ産業組織ヲ根本
的ニ建直サナケレバナラス、從來動モ
スレバ中小商工業者ガ、資材ガ足ラヌ
トカ、或ハ不當ニ競争ノ爲ニ粗悪品
物ガ出ルト云フヤウナコトカラ、永續
シテ行カナイヤウナ狀態デアツタ、サ
ウシテ弊害ヲ根本的ニ建直シマシテ、
ヲ補ツテ、中小商工業者ノ健全ナル發
達ヲ圖ツテ參ラナケレバナラス、斯ウ
云フヤウナ點ヲオ互ニ綜合考慮致シマ
シテ、サウシテ今回ノ商工協同組合法
案ト云フモノヲ立案致シマシテ、皆サ
ンノ御贊同ヲ得ル爲ニ提案シタ次第
デアリマス、大體只今ノ御質問ニ對シ
テハ、甚ダ簡單デアリマスカレド
モ、サウ云フヤウナ意味ニ於テ提案サ
レタモノデアリマス

○加藤(一)委員 ソコデモウ一ツ關聯
シテ御伺ヒ致シテ置キマスガ、從來重
要輸出品工業組合ト云フモノガアリマ
シタ、ソレト此ノ協同組合法案ハドウ
云フ關係ニナリマセウカ、モウ一ツハ
從來ノ商業組合トノ關係デアリマス

○小出政府委員 只今御尋ネノ、工業
組合及ビ商業組合ト、今度ノ商工協同
組合トノ關係デゴザイマスガ、御承知

ノヤウニ、工業組合法ハ、最初重要輸
出品ダケニ付キマシテ出來タ組合法デ
アツタノデアリマスガ、其ノ後工業一
般ニ之ヲ擴張マシテ、工業組合法トシ
テ制定セラレマシタ、是ガ大正十四年
デアツタカト思ヒマス、ソレニ引續キ
マシテ、大體此ノ工業組合法ト同ジ内
容ヲ持ツタ法律ヲ、商業關係ニ付キマ
シテ制定スル必要ヲ生ジマシテ、商
業組合法ヲ昭和七年ニ制定致シタノデ
アリマス、此ノ二ツノ法律ヲ戰時中更
ニ廢止致シマシテ、之ニ代リモノト致
シマシテ商業、工業全體ヲ包括致シマ
シテ新ナル統制組織ヲ作りマシタモ
ノガ、昭和十八年ニ出來マシタ、商工
組合法デアリマス、隨ヒマシテ、商工
組合法ガ出來マシタ際ニ、工業組合及
ビ商業組合ノ制度ハナカナリマシタ、
今度此ノ商工組合法ヲ更ニ協同組合法
ニ改メル、斯ウ云フヤウナ關係ニナツ
デ居リマス

○加藤(一)委員 ソコデ御伺ヒ致シマ
スガ、從來ノ重要輸出品工業組合ト商
業組合ヲ見マス、第一條ノ目ノ項
ニ於キマシテモ、事業ノ點ニ於キマシ
テモ、本協同組合法案ト全ク一致シテ
居ルヤウニ考ヘマス、其ノ點ハドウ云
フコトニ相成ツテ居リマスカ、昔ノモ
ノヲ復元シテソコニ協同ト云フ字ヲ付
ケタノガ、今回出ス協同組合法デア
ルヤウニ私ハ考ヘマス、其ノ間ノ事情ヲ
御説明戴キタイト思ヒマス

○小出政府委員 昔ノ商業組合、工業
組合ノ制度ト、今度ノ商工協同組合法
トノ内容ニ付キマシテ異ナル點デゴザ

イロハ、將來日本ガ立ツテ行ク
道ニ於テハ、此ノ中小商工業ト云フモ
ノヲ基本ニシテ日本ヲ再建シテ參ラナ
ケレバナラス、ソレニハ極メテ民主
的ナ組合ヲ作ツテ、サウシテ中小商工
業ノ人々ガオ互ニ協力シ合ツテ、共同
施設ニ依ツテ産業ノ合理化ヲ圖ツテ、
サウシテ中小商工業者自體ノ發展ヲ圖
ルト同時ニ、我が國ノ産業組織ヲ根本
的ニ建直サナケレバナラス、從來動モ
スレバ中小商工業者ガ、資材ガ足ラヌ
トカ、或ハ不當ニ競争ノ爲ニ粗悪品
物ガ出ルト云フヤウナコトカラ、永續
シテ行カナイヤウナ狀態デアツタ、サ
ウシテ弊害ヲ根本的ニ建直シマシテ、
ヲ補ツテ、中小商工業者ノ健全ナル發
達ヲ圖ツテ參ラナケレバナラス、斯ウ
云フヤウナ點ヲオ互ニ綜合考慮致シマ
シテ、サウシテ今回ノ商工協同組合法
案ト云フモノヲ立案致シマシテ、皆サ
ンノ御贊同ヲ得ル爲ニ提案シタ次第
デアリマス、大體只今ノ御質問ニ對シ
テハ、甚ダ簡單デアリマスカレド
モ、サウ云フヤウナ意味ニ於テ提案サ
レタモノデアリマス

○加藤(一)委員 ソコデモウ一ツ關聯
シテ御伺ヒ致シテ置キマスガ、從來重
要輸出品工業組合ト云フモノガアリマ
シタ、ソレト此ノ協同組合法案ハドウ
云フ關係ニナリマセウカ、モウ一ツハ
從來ノ商業組合トノ關係デアリマス

○小出政府委員 只今御尋ネノ、工業
組合及ビ商業組合ト、今度ノ商工協同
組合トノ關係デゴザイマスガ、御承知

ノヤウニ、工業組合法ハ、最初重要輸
出品ダケニ付キマシテ出來タ組合法デ
アツタノデアリマスガ、其ノ後工業一
般ニ之ヲ擴張マシテ、工業組合法トシ
テ制定セラレマシタ、是ガ大正十四年
デアツタカト思ヒマス、ソレニ引續キ
マシテ、大體此ノ工業組合法ト同ジ内
容ヲ持ツタ法律ヲ、商業關係ニ付キマ
シテ制定スル必要ヲ生ジマシテ、商
業組合法ヲ昭和七年ニ制定致シタノデ
アリマス、此ノ二ツノ法律ヲ戰時中更
ニ廢止致シマシテ、之ニ代リモノト致
シマシテ商業、工業全體ヲ包括致シマ
シテ新ナル統制組織ヲ作りマシタモ
ノガ、昭和十八年ニ出來マシタ、商工
組合法デアリマス、隨ヒマシテ、商工
組合法ガ出來マシタ際ニ、工業組合及
ビ商業組合ノ制度ハナカナリマシタ、
今度此ノ商工組合法ヲ更ニ協同組合法
ニ改メル、斯ウ云フヤウナ關係ニナツ
デ居リマス

○加藤(一)委員 ソコデ御伺ヒ致シマ
スガ、從來ノ重要輸出品工業組合ト商
業組合ヲ見マス、第一條ノ目ノ項
ニ於キマシテモ、事業ノ點ニ於キマシ
テモ、本協同組合法案ト全ク一致シテ
居ルヤウニ考ヘマス、其ノ點ハドウ云
フコトニ相成ツテ居リマスカ、昔ノモ
ノヲ復元シテソコニ協同ト云フ字ヲ付
ケタノガ、今回出ス協同組合法デア
ルヤウニ私ハ考ヘマス、其ノ間ノ事情ヲ
御説明戴キタイト思ヒマス

○小出政府委員 昔ノ商業組合、工業
組合ノ制度ト、今度ノ商工協同組合法
トノ内容ニ付キマシテ異ナル點デゴザ

イロハ、將來日本ガ立ツテ行ク
道ニ於テハ、此ノ中小商工業ト云フモ
ノヲ基本ニシテ日本ヲ再建シテ參ラナ
ケレバナラス、ソレニハ極メテ民主
的ナ組合ヲ作ツテ、サウシテ中小商工
業ノ人々ガオ互ニ協力シ合ツテ、共同
施設ニ依ツテ産業ノ合理化ヲ圖ツテ、
サウシテ中小商工業者自體ノ發展ヲ圖
ルト同時ニ、我が國ノ産業組織ヲ根本
的ニ建直サナケレバナラス、從來動モ
スレバ中小商工業者ガ、資材ガ足ラヌ
トカ、或ハ不當ニ競争ノ爲ニ粗悪品
物ガ出ルト云フヤウナコトカラ、永續
シテ行カナイヤウナ狀態デアツタ、サ
ウシテ弊害ヲ根本的ニ建直シマシテ、
ヲ補ツテ、中小商工業者ノ健全ナル發
達ヲ圖ツテ參ラナケレバナラス、斯ウ
云フヤウナ點ヲオ互ニ綜合考慮致シマ
シテ、サウシテ今回ノ商工協同組合法
案ト云フモノヲ立案致シマシテ、皆サ
ンノ御贊同ヲ得ル爲ニ提案シタ次第
デアリマス、大體只今ノ御質問ニ對シ
テハ、甚ダ簡單デアリマスカレド
モ、サウ云フヤウナ意味ニ於テ提案サ
レタモノデアリマス

○加藤(一)委員 ソコデモウ一ツ關聯
シテ御伺ヒ致シテ置キマスガ、從來重
要輸出品工業組合ト云フモノガアリマ
シタ、ソレト此ノ協同組合法案ハドウ
云フ關係ニナリマセウカ、モウ一ツハ
從來ノ商業組合トノ關係デアリマス

○小出政府委員 只今御尋ネノ、工業
組合及ビ商業組合ト、今度ノ商工協同
組合トノ關係デゴザイマスガ、御承知

ノヤウニ、工業組合法ハ、最初重要輸
出品ダケニ付キマシテ出來タ組合法デ
アツタノデアリマスガ、其ノ後工業一
般ニ之ヲ擴張マシテ、工業組合法トシ
テ制定セラレマシタ、是ガ大正十四年
デアツタカト思ヒマス、ソレニ引續キ
マシテ、大體此ノ工業組合法ト同ジ内
容ヲ持ツタ法律ヲ、商業關係ニ付キマ
シテ制定スル必要ヲ生ジマシテ、商
業組合法ヲ昭和七年ニ制定致シタノデ
アリマス、此ノ二ツノ法律ヲ戰時中更
ニ廢止致シマシテ、之ニ代リモノト致
シマシテ商業、工業全體ヲ包括致シマ
シテ新ナル統制組織ヲ作りマシタモ
ノガ、昭和十八年ニ出來マシタ、商工
組合法デアリマス、隨ヒマシテ、商工
組合法ガ出來マシタ際ニ、工業組合及
ビ商業組合ノ制度ハナカナリマシタ、
今度此ノ商工組合法ヲ更ニ協同組合法
ニ改メル、斯ウ云フヤウナ關係ニナツ
デ居リマス

○加藤(一)委員 ソコデ御伺ヒ致シマ
スガ、從來ノ重要輸出品工業組合ト商
業組合ヲ見マス、第一條ノ目ノ項
ニ於キマシテモ、事業ノ點ニ於キマシ
テモ、本協同組合法案ト全ク一致シテ
居ルヤウニ考ヘマス、其ノ點ハドウ云
フコトニ相成ツテ居リマスカ、昔ノモ
ノヲ復元シテソコニ協同ト云フ字ヲ付
ケタノガ、今回出ス協同組合法デア
ルヤウニ私ハ考ヘマス、其ノ間ノ事情ヲ
御説明戴キタイト思ヒマス

○小出政府委員 昔ノ商業組合、工業
組合ノ制度ト、今度ノ商工協同組合法
トノ内容ニ付キマシテ異ナル點デゴザ

イロハ、將來日本ガ立ツテ行ク
道ニ於テハ、此ノ中小商工業ト云フモ
ノヲ基本ニシテ日本ヲ再建シテ參ラナ
ケレバナラス、ソレニハ極メテ民主
的ナ組合ヲ作ツテ、サウシテ中小商工
業ノ人々ガオ互ニ協力シ合ツテ、共同
施設ニ依ツテ産業ノ合理化ヲ圖ツテ、
サウシテ中小商工業者自體ノ發展ヲ圖
ルト同時ニ、我が國ノ産業組織ヲ根本
的ニ建直サナケレバナラス、從來動モ
スレバ中小商工業者ガ、資材ガ足ラヌ
トカ、或ハ不當ニ競争ノ爲ニ粗悪品
物ガ出ルト云フヤウナコトカラ、永續
シテ行カナイヤウナ狀態デアツタ、サ
ウシテ弊害ヲ根本的ニ建直シマシテ、
ヲ補ツテ、中小商工業者ノ健全ナル發
達ヲ圖ツテ參ラナケレバナラス、斯ウ
云フヤウナ點ヲオ互ニ綜合考慮致シマ
シテ、サウシテ今回ノ商工協同組合法
案ト云フモノヲ立案致シマシテ、皆サ
ンノ御贊同ヲ得ル爲ニ提案シタ次第
デアリマス、大體只今ノ御質問ニ對シ
テハ、甚ダ簡單デアリマスカレド
モ、サウ云フヤウナ意味ニ於テ提案サ
レタモノデアリマス

イマスガ、第一條ノ目的ニ於キマシテハ、御話ノヤウニ何レモ大體中小商工業者ノ復興、振興ト云フコトヲ主眼トシテ居リマシテ、其ノ爲ノ共同事業、共同施設ヲ行フト云フ點ニ於テハ大體一致シテ居ルノゴザイマスガ、昔ノ工業組合或ハ商業組合ノ制度ハ、單ニ共同ニ共同仕入トカ、或ハ共同販賣ト云フヤウナ經濟事業ヲ行ヒマスノミナラズ、之ニ併セマシテ統制事業ガ或ル程度出來ルコトニナツテ居ルノゴザイマシテ、例ヘバ工業組合等ニ於キマシテモ必要ガアリマスレバ「アウトサイド」ニ對シマシテ、組合ノ統制ニ從フヤウナ強制的ナ統制命令ト云フモノガ出セルヤウニナツテ居ルノゴザイマス、商業組合ニ於キマシテモ統制事業ト云フコトガ「ツ」重要ナル事業ノ内容ニナツテ居リマシテ、經濟事業ト統制事業ガ併セテ行ヘルト云フコトガ、昔ノ組合制度デアッタノデアリマスガ、今度ノ協同組合制度ハ統制事業ハ行ヒマセヌノデ、純然タル經濟事業ダケデゴザイマス、其ノ點ガ根本的ニ從來ノ組合ト違フコトニナツテ居リマス

○加藤(一)委員 今政府ノ御話デ「ツ」重要ナル問題ガ出テ參リマシタガ、「アウト・サイド」ヲ「コントロール」スルト云フノガ從來ノ觀念、今度ノ協同組合ハソレガ出來ヌト云フコトニナリマス、然ラバ臨時物資需給調整法ニ於キマシテモ、同僚ノ方カラ伺フタノデアリマスガ、從來アツタ統制會社トカ、戰時中ニ出來マシタ各種ノ統制會社ト云フモノガ廢止セラレテ、民主主義的ニ組織セラレル團體ニ依ツテ將來ハ運營業ヲ行ク、所ガソレニ「アウト・サイド」ガアルコトハ分リ切ツテ

居ル、行ク「ハ」此ノ協同組合モ、臨時物資需給調整法ニ於キマシテハ指定セラレルモノガアルト云フコトヲ、商工大臣ガ御指摘ニナツテ居ル、ソコデ「アウト・サイド」ニ強力ナルモノガアツテ、此ノ組合ニ入ツテ居ルモノガ非常ニ貧弱ナモノデアアル、斯ウ假定致シマス、物ノ割當、配給、運搬等ニ付キマシテ產業界ニ摩擦ガアルコトハ分リ切ツテ居ル、ソレヲ如何ニシテ政府ハ民主的ニ統制セラレル御考ヘデアルカ、是ハ重要事項デスカラ掘下ゲテ「ツ」承ツテ置キタイト思ヒマス

○小出政府委員 臨時物資需給調整法ト今度ノ協同組合トノ關係デゴザイマスガ、御話ノヤウニ商工協同組合ト云フモノハ、純然タル民主的ニ組織セラレタ經濟團體デゴザイマシテ、臨時物資需給調整法デ謂ツテ居リマスル所ノ、民主的ニ組織セラレマシタ產業團體ノ觀念ノ中ニ入ルモノト考ヘテ居リマス、隨ヒマシテ物資需給調整法ノ所謂物資ノ割當團體ヲ致シマシテ、民主的ニ組織セラレマシタ產業團體ヲ指定致シマスル場合ニ、協同組合モ其ノ團體ノ一ツトシテ指定ヲ受ケル場合ガアリ得ル譯デゴザイマスガ、物資需給調整法ニ於ケル物資需給調整ノ指定ニ當リマシテハ、需給調整法ノ審議ノ際ニ申上ゲタカト思ヒマスガ、大體ニ於キマシテ、全國の生産者團體ト云フモノガ中心ニナリマシテ、全國の生産者團體ガ、自分ノ所デ生産致シマスルニ必要ナ資材ノ割當ヲ行フ爲ニ指定ヲ受ケルノガ、通則デゴザイマシテ、隨ヒマシテ協同組合ノヤウナ、主トシテ中小企業者ヲ中心トシタ任意の團體、是ガ全國の生産者團體ト云フ形ニ於テ現ハレル場合ハ、寧ろ例外デア

ラウカト思ヒマス、併シナガラ例外デハアリマスルケレドモ、勿論指定ヲ受ケ得ル譯デゴザイマシテ、其ノ場合ニハ御話ノヤウニ「アウト・サイド」トノ關係ト云フコトガ出テ參ル譯デゴザイマス、併シナガラ是ハ協同組合ニ限ラズ、統制會社ガ改組シテ出來テ居リマスル何ハ協議會ト云フヤウナ任意團體等ニ於キマシテモ、勿論加入脱退ハ自由デゴザイマシテ、「アウト・サイド」ノ存在ガ前提トナツテ居ル譯デゴザイマス、是ハ民主的ニ組織セラレマシタ團體デアリマスル以上ハ、或ル程度已ムヲ得ナイノデゴザイマスガ、「アウト・サイド」トノ摩擦ト云フ問題ニ付キマシテハ、大體指定ヲ受ケマシタ團體ナリ、組合ガ物資ノ割當ヲスル權限ヲ與ヘラレル譯デアリマスノデ、ドウシテモ其ノ組合ノ方ガ中心ニナツテ「アウト・サイド」ノ分モ割當ヲスルコトニナリマスノデ、結局組合ニ入ツテ發言權ヲ持タナケレバ、非常ニ「アウト・サイド」ガ弱イ、斯ウ云フ結果ニナリマスルシ、又割當ガ公正ニ行ヒマスル爲ニハ、出來ルダケ多クノ人ガ組合ニ入ツテ協同デ審議シテ、割當ヲ行フト云フコトガ好マシイ譯デアリマスノデ、實際問題トシテハ「アウト・サイド」ノ方ガ強力デ、團體ノ方ガ弱體デアルト云フヤウナ事態ハ、餘リ起ツテ來ナイノデハナイカ、斯様ニ豫想致シテ居ル譯デゴザイマス

○加藤(一)委員 今ノ御答辯デ略々了スガアリ、協同組合ニ加入シテ居ルモノガアル、斯ウ云フ場合ノ割當等ニ付テハ、組合加入者ヲ中心ニ實行シテ行ク、隨テ「アウト・サイド」ハ組合ニ入ラナケレバナラヌト斯ウ私ハ了承致シ

マシテ、又ノ質問ニ進ミタイト思ヒマス、政府モ其ノヤウニ御考ヘノ上デ組合ノ運營業處置セラ、ヤウニ希望致シテ置キマス

ソコデ協同組合ハ任意組合デアアルカラ入ラヌモノガアル、今ノ場合ト裏腹デアリマスガ、サウ云フ場合ニ政府ハ、ドノヤウニシテ協同組合ヲ發展セシムルヤウナ政策ヲ御執リヨナリマスカ、強制的加入ハ出來ナイカラ、何カ準則デモ設ケテ、協同組合ニ入ルコトガ利益デアルト云フコトヲ宣傳スル必要ガアルヤウニ私ハ思ヒマスガ、サウ云フ點ノ御方針ハドウナツテ居リマスカ

○小出政府委員 協同組合ハ全ク業界ノ自發的ナ意思ニ基キテ、利害關係ノ密接ナ業界ノ方ガオ互ヒニ手ヲ繋イデ、共同ノ事業ヲ行ツテ行クト云フノガ主眼デアリマスノデ、政府ノ方カラ斯ウ云フ風ニ組合ヲ作レトカ、或ハ組合ニ加入シナケレバナラヌト云フコトヲ強制シナイ積リデゴザイマス、併シナガラ御話ノヤウニ協同組合ト云フモノハ、主トシテ中小企業者ガ立直ツテ行キマス上ニ、極メテ適切ナ制度ト認マシテ立案致シマシタ以上ハ、此ノ組合制度ハ出來ルダケ中小企業者ノ間ニ普及發達セシメマスコトガ望マシイ譯デアリマス、其ノ意味ニ於キマシテ組合制度ト云フモノヲ活カシテ使ツテ行クト云フコトノ爲ニ、或ル程度普及、宣傳、啓蒙ト云フヤウナコトヲ行フ積リニ致シテ居リマス、隨ヒマシテ組合ニ對シマシテ、組合ヲ作ツタ爲ニ色々ナ利益ガアルト云フ風ナコト、例ヘバソレガ立派ナ法人格ヲ持チマシテ、政府ノ公認ノ團體ト致シマシテ各種ノ組合事業ガ出來ルト云フ風ナ問題、ソ

レカラ資材ノ割當等ヲ致シマス場合ニ於キマシテモ、ヤハリ好イ加減ナ團體デナシニ、協同組合ト云フ風ナ立派ナ團體デアリマスレバ、之ヲ出來ルダケ活カシテ行クト云フ風ナコトニ依リマシテ組合制度ヲ作ルコトガ、中小業者ヲ風ナ方向ニ之ヲ指導シテ行クト云フコトハ、勿論考ヘテ居ル譯デゴザイマスガ、併シナガラ畫一的ニ斯ウ云フ風ニ組合ヲ作レトカ、或ハ此ノ組合ニ入レト云フヤウナコトハ、強制的ニシナイ積リデ居リマス

○加藤(一)委員 ソコデ次ニ御伺ヒ致シマスガ、此ノ協同組合ノ協同ト云フ字ハ、英國ノ「ロバート・オーエン」綜合組合主義デアリマスガ、又戰爭前カラ「デンマーク」、「スエーデン」等ニ於テ實施セラレテ、今日非常ニ盛ンナリマシテ戰後ノ世界ノ「ツ」動向ニナツテ居リマス協同組合主義デアリマスガ、何レヲ御採リニナツテ居リマスカ、私ノ見ル所デハ「ロバート・オーエン」主義ヲ一歩モ出テ居ラヌヤウニ思ヒマスガ、政府ハ最近世界各國ニ擴ガリツ、アリマス協同組合主義ト云フモノヲ參酌セラレテ、本法案ヲ制定セラレテ居リマスルカドウカ、立法ノ基礎ノ觀念ヲ何ツテ置キタイト思ヒマス

○小出政府委員 協同組合ト云フ言葉カラ出テ來ル問題デゴザイマスガ、今日各方面ニ於キマシテ、一般ニ協同組合主義ト云フコトガ色々ノ角度カラ言ハレテ居リマス、併シハ必ズシモ其ノ協同組合ト云フ言葉ナリ、觀念ニ付キマシテ、之ヲ用ヒテ居ル人ニ依リマシテ統一ナ思想ガナイヤウニ考ヘラレテ居リマス、今ノ御指摘ノヤ

ウニ、「ロバート・オーエン」式ノ勞働組合ト云フモノアリマスレバ、色々ノ角度カラ性格ノ違フモノガ混同サレテ使ツテ居ラレルヤウニモ考ヘラレルノデアリマスガ、今度私共ノ方デ考ヘマシタ商工協同組合ノ協同ト云フ觀念ニ付キマシテハ、所謂生活協同組合ト云フ風ナ觀念トハ違フ譯デゴザイマシテ、丁度組合國家トデモ申シマスカ、全體ノ生活ト云フモノヲ、總テ協同組合化シテ行カウト云フ風ナ考ヘ方ノモノモ一部ニナル譯デゴザイマス、サウ云フ協同組合ノ觀念ハ主トシテ組合ノ日常ノ消費生活或ハ計經濟ノ合理化ヲ圖ル爲ノ一種ノ協同組織デゴザイマシテ、サウ云フ風ナ所謂生活協同組合ト云フモノトハ、之ヲ區別シテ考ヘテ居ラシメテアリマシテ、商工協同組合ハ、サウ云フ風ナ生活協同組合ト云フ風ナモノデハゴザイマセマデ、企業者ノ自體ノ中小商工業者共同施設、共同事業、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ラシメテデゴザイマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ協同組合ト云フ文字ヲ用ヒタ譯デゴザイマス

○加藤(一)委員 然ラバ此ノ協同ガ將來發展スルコトガアルト思ヒマスルガ、其ノ發展形態ハドノヤウニ政府ハ御考ヘニナツテ居ラレマスルカ
○小出政府委員 協同ノ發展形態ト申シマス、結局、此ノ協同組合ト云フ風ナ組織ガ、商工業ノ社會ニ於テノミナラズ、農業方面ニ於キマシテモ、或ハ日常ノ消費生活、一般「サラリーマン」ノ階級等ニ於キマシテモ、凡ニ爾面ニ於テ此ノ協同組合化ガ行ハレテ行クト云フ、發展ト云フ風ナコトモ考ヘラレルノデゴザイマスガ、商工省ト致シマシテ考ヘテ居リマスルノハ、單ニ

中小商工業者ガ大資本ト對抗致シマシテ、經營ノ合理化ヲ圖ツテ行ク爲ニハ、中小業者ノ共同ノ力ヲ協ハセテ、協同ノ事業ヲ行ツテ行クト云フノガ望マシイト云フ程度ノモノデアリマシテ、之ヲズツト押擴ゲマシテ、社會全般ノ基礎構造ト致シマシテ、協同組合制度ト云フモノヲ理想トシテ掲ゲテ居ルト云フ風ナコトハ、考ヘテ居ラナイノデアリマス

○加藤(一)委員 此ノ點ニ付キマシテ少シ意見ガマシイコトニナルカモ知レマセマデ、是ハ重要事項デアリマスカラ、モウ少シ掘下ゲテ私ハ伺ヒタイト恩ツテ居リマス、今日ノ日本ノ經濟ノ再建ハ、明治御一新ノ比デゴザイマセヌト云フコトハ、私が申上ゲルマデモナイコトデアリマス、御破算デゴザイマシテ、新タニ建設ヲヤリ直スト云フ底ノ問題デアルト私ハ思ツテ居ル、ソノコト將來、此ノ御指摘ニナツテ居リマスル中小工業ノ問題デアリマス、是ガ發展ヲシテ行キマスル其ノ基礎ノ再建構圖ハ、何ト申シマシテモ日本ノ貿易ガ世界ノ市場ニドレダケ發展ガ出來ルカト云フ、一ツノ大キナ前提ガ要ルト思ヒマス、左様致シマスレバ、日本産業ノ構造ト云フモノガソコデ決マル譯デアル、私ハ斯ウ考ヘテ居ル、ソコデ日本産業ノ構造ガ決マルト云フコトハ、工業ト農業、又商業モソコニ加ハツテ參リマスガ、ソレノ組合セガドウナルカト云フコトニ依リマシテ、日本ノ産業ガ可能デアルト云フ結論ニ到達スルト私ハ考ヘルノデアリマス、所ガ今ノヤウニ商工協同組合ハ、單ニ商工業者ノ組合ニ止マルノデ、農業其ノ他ノ關係ニハ關係ガナイ、斯ウ云フ御説デアリマスレバ、從來ノ如ク「セクシヨ

ナリズム」ヲ一步モ出ナイ日本再建計畫ニナルト思フ、要スルニ農林省方面ニ於キマシテハ、將來農山漁村協同組合一本デ行クヤウニ、此ノ間ノ委員會ニ於テモ御話ガアツタ譯デアリマス、ソコデ其ノ協同組合、農林方面ノ協同組合ト、此ノ商工協同組合ト云フモノハ十分ニ提携シナケレバ、日本産業ノ再建ハ覺束ナイ、私ハ左様ニ考ヘテ居リマス、ソコデ發展形態如何デアリマスガ、政府ハ今ノ所農林方面ニ對シテハ、商工業協同組合ハ何等關係ヲセシメズ、斯ウ云フ御方針デアルヤウデアリマス、モウ一度御考ヘ直シ戴ケルナラ御考ヘ直シ戴キマス、飽クマデモ農業方面ニハ商工協同組合ハ關係セシメヌ方針進ムノドト云フ御話デアリマスレバ、我々同僚ハ違ツタ角度カラ政府ニ相當辛辣ナ質問ヲ致サナケレバナラヌ、其ノ點ハハツキリト、今ノ御答辭ニ拘ラズ、御問違ヒヲ訂正ガ出來ルモノデアツタ御訂正ヲ戴キタイト考ヘマス

○小林政府委員 只今御質問ニリマシタコトニ付テ御答ヘヲ致シマス、今商工協同組合ニ付テノ法案ガ出テ居ルノデアリマスガ、加藤サンノ仰シヤルヤウニ、將來農業方面ニモ組合法案ガ出ルコトデアラウト思ヒマス、併シ只今加藤サンカラモ御心配ニナリマシタヤウニ、將來日本ノ農業或ハ工業、商業ト云フヤウナモノガ、ドウ云フ風ニ再組織サレテ行クベキモノカト云フヤウナコトハ、是ハ根本ノ二考ヘナケレバナラヌコトダト思ヒマス、今日主食糧ニ於テ非常ニ缺乏シテ我々困ツテ居ルノデアリスガ、併シナガラ各方面ニ於テ心配サレテ居リマスヤウニ、近キ將來ニ米ノ生産過剰ト云フヤウナコトガ起ラナイトモ言ヘナイシ、或ハ南

ト方面、或ハ「ビルマ」、「マレー」方面カラ米ガ輸入サレルト云フコトニナレバ、日本ノ農業ノ狀態モ大分變ツテ來ナケレバナラヌ、斯ウナレバ此ノ議會ニ於テモ各方面ニ色々論議サレマシタ如ク、將來日本ノ農業ノ中ニ工業化シタカラ加ヘテ參リマシテ、サウシテ農村ノ經營ガ機械化サレタモノニサレテ行クナケレバナラヌト云フコトハ、御異議ハナイコト考ヘルノデアリマス、サウナリマス、將來農村方面ニモ、相當工業ノ方面ノ經營ガ加味サレテ參リ、隨テ又商業ノ作用モ、或ル程度深クナツテ參ルモノ知レマセマデ、斯ウ云フコトカラ、差當リ農村ガ工業化サレテ參ルト云フコトニナレバ、農村ノ中ニ工業化ノ力ガ加ハリ、工業ノ生活狀態、事業ノ經營形態ト云フモノガハツキリ此ノ商工協同組合ノ中ニ、農村ノ中ノ人モ加ハツテ實ハナケレバナナイヤウナコトニモナツテ參ルデアラウ、隨テ成程農業方面ノ協同組合ト、商工協同組合トハ別ナ法律ガ出來テ居リマシテモ、ソコニオヒヒニ錯綜關聯スル部分モアリ得ルコトニナルノデアリマシテ、サウ云フコトニ依ツテ、將來加藤サンノ御心配ニナルヤウナ點ハ、十分救ツテ參レルデアラウ、或ハ將來斯ウ云フ組合法案ノ實施カラ、次第ニ此ノ組合ノ發達育成ト云フモノガ達成サレテ、非常ニ好イ結果ヲ來タシテ來ルヤウナコトガアルノデアラウ、或ハサウ云フコトカラ次第ニ進ンデ行ツテ、農業モ商工業モ同ジ形態ニ於ケル一本ノ協同組合ト云フ法案ガ出來テ來ルト云フコトモ、豫想サレナイモノデハナイト思ヒマスガ、何ヲ申シマシ

テモ、今日終戦後ニ於ケル此ノ時代ニ於テハ、一應此ノ緊急對策トシテ是ダケノ法案ヲ出シテ置イテ、近イ將來ニ於テ、出來テ來ル農業協同組合ト云フモノ、或ハ工業協同組合ニ依リマシテ、

テモ、今日終戦後ニ於ケル此ノ時代ニ於テハ、一應此ノ緊急對策トシテ是ダケノ法案ヲ出シテ置イテ、近イ將來ニ於テ、出來テ來ル農業協同組合ト云フモノ、或ハ工業協同組合ニ依リマシテ、

○加藤(一)委員 將來ハサウ云フヤウニナルコトハ、今政務次官カラ訂正ノ御趣旨デ御辯明ガアリマシタカラ分リマシタガ、私ハ現状デス、日本ノ再建ニ當リマシテ民主主義デ行カナケレバナラヌ、其ノ民主主義ハ、一應商工業ニ關シテハ商工組合民主主義デ行クンダ、斯ウ云フ形ヲ茲ニ御示シマシタノデスカラ、現狀ニ於キマシテ、日本政府ノ内部ニ於キマシテハ、日本ノ民主主義ト云フモノハ、殊ニ商工業經濟會議廢止ノ時、農林方面ノ政府委員カラ話ガアリマシタ通り、自分ノ方デモ協同組合一本デ行クンダ、斯ウ云フ話ガアツタデスカラ、協同組合民主主義一本デ行クト云フコトハ、今日モウ政府内部デモ話ガ付イテ居ルト私ハ思ツテ居ル、ソコデ今日民主主義ノ型ヲ商工業ニシロ、農山漁村ノ民主主義ノ型ニシロ、一應一定シテ置キマセマデト、農林省ノ言フコトハ違フノダ、商工省ノ民主主義ハ違フノダ、斯ウ云フコトニナリマシテハ、國民コソ迷惑デアリ、健全ナル民主主義ト云フモノハ日本ニ發達セタト云フコトニナリマス、又其ノ間隙ヲ縫ヒマシテ、外ノ方面ノ民主主義ノ型モ出テ參リマセウシ、旁々以チマシテ、中々民主主義ト云フモノハ巧ク行カヌト云フコトニナ

テモ、今日終戦後ニ於ケル此ノ時代ニ於テハ、一應此ノ緊急對策トシテ是ダケノ法案ヲ出シテ置イテ、近イ將來ニ於テ、出來テ來ル農業協同組合ト云フモノ、或ハ工業協同組合ニ依リマシテ、

リマスレバ、商工組合ト云フモノ、發展モセヌト云フコトニナリマス、其ノ間ノ事情ヲ私ハ十分斟酌シテ質問致シテ居ル譯デス、ソコデ古イ話デアリマスガ、第一次滿洲事變ガ起リマシテ、日本ガ滿洲ノ經營ニ參劃スルヤウニナリマシテ、櫻桃ヲ滿洲ニ移植スルコトニナリマシタ時ニ、御案内カモ知レマセヌガ、山形、青森方面ノ櫻桃栽培者ハ、ドレダケ日本政府ニ陳情モシ、之ニ反對シタカト云フコトヲ、今御想起願ヒタイト思ヒマス、櫻桃ノ罐詰ヲ日本ガ作ルト云フコトニナリマシテ、今日滿洲ノ櫻桃ガ非常ニ盛ンニナツテ居リマスガ、日本ノ櫻桃ヲ罐詰工業ニシナケレバナラヌト云フ要請ガアリマスレバ、ドンノ山形、青森方面ニ櫻桃ヲ栽培セシメマシテ、之ヲ安價ニ、而モ技術的ニ巧ク工業化シテ、ソレヲ海外ニ輸出センケレバナラヌ、サウシテ滿洲ノ櫻桃ヲ根コソギ日本ノ櫻桃ニ依ツテ拂拭スルヤウナ方策ヲ執ルナケレバ、日本ノ櫻桃ハ成立タヌ、ソコデ私ハ農業ト商工業トノ關係ニ於キマシテハ密接ナ關係ガアル、又此ノ關係ヲ拔キニ致シマシテハ、日本ノ商工業ノ再建モ、農業ノ再建モ斷ジテ罷リナラヌ、マダ外ニ相當例ヲ持ツテ居リマスガ、先ヅ此ノ櫻桃ニ付テ次官ノ御考ヘヲ承リタイト思ヒマス

○小林政府委員 御答ヘ致シマス、御質問ノ意味ガ能ク分リマセヌガ、今日ノ提案中ノ商工協同組合法ニ於キマシテモ、例ヘバ農村ニ於テ櫻桃ナラ櫻桃ガ取レル、此ノ櫻桃ニ加工ヲシテ、或ル物ヲ生産ヲシテ之ヲ賣ルト云フヤウナ場合ニハ、工業的經營素質ガ入ルノデアリマシテ、サウ云フ場合ニハ商工協同組合法ノ中ニ組合員トシテ加ハル

コトモ出來ルノデアリマスカラ、其ノ點ハ御心配ノヤウナコトハ起リ得ナイダラウト思ヒマス
 ○加藤一委員 私ハサウ云フ點ヲ質問シテ居ルノデヤゴザイマセヌノデ、サウ云フ例モアルカラ、農業ト商工業ノ關係ト云フモノハ今日密接デハナカラウカ、此ノ關係ヲ拔キニシマシテハ、商工協同組合一本デハ、將來日本ノ再建ハ難カシイ、サウ云フコトヲ聽イテ居ルノデアリマス、又速記録ヲ見テ、少シ御研究ノ上デ此ノ點ニ付テハ御答辯戴キタイト思ヒマス、ソコデ又ニ伺ツテ置キタイ點ハ、此ノ商工協同組合ノ運営ハ商工省單獨ニ爾今オヤリニナリマスカ、經濟安定本部ガ上ニノシ掛ツテ此ノ運営ガ左右セラル譯ニナリマスカ、其ノ點ヲ一應伺ツテ置キタイト思ヒマス
 ○小林政府委員 御答ヘ致シマス、加藤サンノ御質問ノ前段ノ部分ニ付テモウ一應申上ゲテ置キマス、現在商工協同組合ト云フモノガ假ニ出來、又一方農林省方面カラ農業協同組合ト云フモノガ出來ルコトニナツテ居ルノデアリマスカ、商工業ノ方面ハ商工協同組合法、レレカラ農業ノ方面ハ農業方面ノ協同組合法ト、自ら其ノ分野ガアリマスノデ、此ノ點ハ同ジ民主主義精神ニ徹底シテ、下カラ盛リ上ル民主主義的ナ組合ヲ作ルト云フヤウナ、オ互ニ協同シテ行クト云フヤウナ意味ニ於テハ同一ナモノデアリマスカ、其ノ仕事ノ形態ニ於テハ異ツテ居リマス、但シ農業ノ方面ノ工業ノ部面ニ加ハツテ居ル部分ハ、先程モ申上ゲマシタル通りニ商工協同組合ノ方ニ加入シテヤルコトガ出來ルノデアリマスカラ、其ノ點ハマダ私御質問ノ意味ヲ取違ヘテ居ル

カモ知レマセヌガ、十分補ヒヨ付ケテ
行クコトガ出来ルモノト考ヘテ居リマ
ス、ソレカラ商工協同組合法案ノ適用
ニ於テハ、何處ガ主トナリテヤツテ行
クカト云フコトデアリマスガ、是ハ關
係スル部面ニ於キマシテ、或ハ商工省
ガ主務大臣デアアルコトガアリ、或ハ厚
生大臣、或ハ農林大臣ノ關與スル部分
モアラウト思ヒマス、經濟安定本部ハ
固ヨリ、總テノ經濟政策ノ一番ノ中心
ニナツテ方策ヲ定メルノデアリヤスカ
ラ、固ヨリ其ノ計畫ソ下ニ、其ノ同意
ヲ得テヤルト云フコトニナルノデアリ
マシテ、此ノ點ハお互ニ縱ト横トノ關
聯シテ、助ケ合ツテ行クベキモノト考
ヘテ居リマス

○加藤(一)委員 其ノ點ハハツキリ致
シテ置キタイノデアリマスガ、從來我
我ガ官廳ニ參リマス時ニ、例(ハ)「ア
ルミ」ニ付テ參リマスレバ商工省ノ「ア
ルミ」ノ所ニ參リマスシ、陸軍、海軍
ガアリマス時ハ陸軍、海軍ノ「アルミ
」ノ所ニ參リマス、又企畫院ノ「アルミ
」ノ所ニ參リマス云フヤウニ、四ツモ
五ツモ「トシネン」ヲ通ラナケレバ「ア
ルミ」ノコトハ分ラナイノガ日本ノ理
狀デアリマス、又地方ノ府縣廳ニ參リ
マス、現在石油ノ問題ニ付キマシテ
モ、多イ所ハ六ツノ「セクシヨン」ガア
ル、協同組合法案ニ關シマシテハ或ル
モノハ商工省ニ、或ルモノハ農林省
ニ、或ルモノハ經濟安定本部ト云フヤ
ウニ、何處ヘ行ツテ止メガ付クノカ、
ハツキリ分ラヌヤウナ現狀デアリマシ
テ、是レ亦協同組合ノ發達ニ非常ナ阻
碍ニナルカト私ハ思フ、サウ云フ點ハ
今此ノ席上デハツキリ致シテ貰ヒタイ
ト思フ、原則ハ商工省デ、商工省ハ斯
ク云フ所ヲヤルノダ、經濟安定本部ハ

斯ウ云フ所ヲ上カヲ見テ貰フ、斯ウニ
フ大綱デモハツキリ此ノ席上デシテ聲
イテ戴キマシテ、速記録ヲ讀ム國民全
部ガ納得ノ上デ、將來商工協同組合ニ
發達育成ノ爲ニ、心カラ盡力スルヤウ
ニ仕向ケテ戴キタイト思ヒマス

○小林政府委員 御答ヘ致シマス、經
濟安定本部ハ基本的ノ政策ニ關スルモ
ノデアリマシテ、其ノ他ノ各省大臣ガ
主務大臣タル場合ハ、產業別ニ依シテ
各々違フデアリマスカラ、具體的事
項ノ起ツタ場合ニ決定スルヨリ外ハナ
イト考ヘテ居リマス

○加藤(一)委員 ソコ第十二條、
「組合員の取扱品の仕入、保管、運搬、
加工、販賣その他組合員の事業に關ス
る共同施設」、「組合員の取扱品又は
その生産若しくは加工の設備に對する檢
査」、「組合員の事業に關する指導、研
究、調査その他組合の目的を達する爲
めに必要な事業」是ダケシカ事業ガナ
イノデス、全般的モ相對的モアツタチ
ノデハナイノデス、之ニ付テ御説明戴
キマスレバ、例ヘバ仕入ハ商工省ガ監
督ヲヤル、保管ハ、斯ウ御明記戴
キマスレバ、ハツキリ分ル、何モ難カ
シイコトヲ政府ニ聽イテ居ルノデハア
リマセス、納得ノ行クヤウニ國民ニ知
セテ置イテ戴キタイ、之ヲ聽イテ居ル
ノデス、例ヘバ運搬ト云フコトニナリ
マスレバ商工省ガ先ニヤルガ、運輸省
方面ニ於テモ關係ガアルノデゴザイマ
スカラ、或ル場合ハ運輸省ニ行ツテ貰
ハナケレバナラヌト云フ結果ニナリマ
セウ、サウ云フ點ヲ聽イテ居ルノデア
リ、此ノ點ヲ明カニシテ置イテ戴キタ
イト私ハ考ヘテ居リマス

○小出政府委員 此ノ商工協同組合ニ
對スル監督指導等ノ問題ニ付キマシテ

ハ、ソレハ主務大臣ガナサレル場合
ガアルノデアリマシテ、結局此ノ協同
組合ヲ組織シテ居リマス組合員、ド
ウ云フ事業ヲ行ツテ居ルカト云フコト
ニ依ツテ、先ヅ決マツテ來ルノデアリ
マス、例ヘバ一般ノ中小ノ機械工業者
ガ作リマシタ協同組合デアリマスレ
バ、是ハ機械工業ト云フモノノ所管ガ
商工省デゴザイマスカラ、其ノ主務大
臣ハ商工大臣、サウ云フコトニナリマ
シテソレカラ食料品ノ加工ヲ致シマス
ルトカ、或ハ薪炭ノ販賣ヲスルヤウナ
業者ノ組織シテ居ルモノデアリマスレ
バ、是ハソレハノ事業ガ農林省ノ所
管デアリマスカデ、其ノ組合員ノ事業
ヲ所管致シテ居リマスル主務大臣ガ其
ノ組合ヲ監督致シマス、斯ウ云フコト
ニナルノデゴザイマス、尙ホ今御話ノ
ヤウニ、此ノ出來マシタ協同組合ガ、
例ヘバ運輸事業ヲヤル、ソレカラ保管
事業ヲヤル、倉庫ヲ持つテ保管事業ヲ行
ヒマシテ、倉庫證券ヲ發行スルト云フ
コトニナツテ参リマス、御指摘ノヤ
ウニ此ノ倉庫證券ノ發行ト云フコトニ
付キマシテハ、運輸省トノ關係モ出テ
來ルノデアリマス

○加藤(一)委員 能ク分リマシタ、ソ
コデ大臣ニ御伺ヒ致シタイノデアリマ
スルガ、大臣ガ御出席アリマセヌカ
ラ、腑ニ落チマセヌケレバ、他ノ機會ニ
大臣ニ再質問スルコトニ致シマシテ、
今日ハ、是ハ私本會議デモ質問致シ
シタガ、日本ノ商工業ノ再建ニ當リマ
シテハ、東亞ノ關係ガ一番重要デア
ルト考ヘテ居リマス、臨時物資需給調
整法ニ於キマシテ、政府ハ第一次ニ紡
績ヲ主ニ致シマシテ産業ノ再建ヲ圖
ル、斯ウ云フコトヲ陸國務大臣モ、星
島商工大臣モ、口ヲ揃ヘテ此ノ席デ御
發言ニナ

ツテ居リマス、ソコデ政府ニ於キマシ
テハ、今日ハ聯合軍ノ配慮ニ依リマシ
テ、棉等ガ輸入サレテ居リマスカラ、
一應其ノ業態ハ成立ツヤウニ考ヘマス
ガ、國交調整ヲシテ曉ニ於キマシテ、
原料ノ何處カラ御求メニナリマシテ、
ドノヤウニ日本ノ紡績ヲ育成シヨウト
ナサツテ居リマスカ、其ノ點ニ付テ先
ヅ御伺ヒ致シマス

○吉田(暢)政府委員 物資需給調整法
ノ委員會ノ席上デ、商工大臣ハ纖維產
業ニ重點ヲ置クト云フコトヲ言ヘタ
ノデアリマス、殊ニ其ノ中心ヲ成シマ
ス所ノ綿業ハ、勿論我ガ國ノ産業ノ中
心デアリマス、又中小商工業ト致シ
マシテ其ノ他加工工業ノ關係デ、非
常ニ廣イ範圍ニ我ガ國ノ中小商工業
分野ヲ占メテ居リマシテ、非常
ニ重要ナモノデアリマス、ノミナラズ
輸出品ト致シマシテモ從來非常ニ廣イ
實績ヲ持ツテ居リマス、又海外ノ他
ノ國ニ比ベマシテ、我ガ國ガ非常ニ有
利ナ地歩ヲ占メテ居リコトモ御承知ノ
通りデアリマス、隨ヒマシテ此ノ纖維
産業、特ニ綿業ノ育成ト云フコトハ重
點視シテ行カケレバナラヌデアリ
マスガ、其ノ原料ハ御言葉ノ通り國內
ニハゴザイマセヌ、無論海外ニ全部仰
グ譯デアリマス、戰前ドウ云フ徑路デ
之ヲ得テ居リマシタカト申シマス、ト
ヤハリ是ハ天然ノ產物デゴザイマスノ
デ、ドウシテモ出來ル地域ト云フモノ
ガ世界ノ二限ラレテ居リマス、無論一
番多イノハ北米デ、「インド」及ビ「ア
フリカ」、其ノ他南米方面ニ若干ゴザイ
マスガ、大部分ハ北米、「インド」
「アフリカ」方面デゴザイマス、隨ヒマ
シテ、是ハ將來ノコトハ餘リ計畫的ニ、
サウ詳シク分ラナイと思ヒマスガ、此

ノ生産地ト我ガ國トノ結付キヲ考ヘル
以外ニナイと思ヒマス、勿論最モ重要
視スベキモノハ米棉デゴザイマセウ
シ、又短纖維デ、割合値段ガ安イト云
フ關係カラ、我ガ國ハ從來「インド」棉
ヲ使用致シテ居リタノデアリマス、勿
論ソレ等ノ地方ニモ戰爭中相當綿業ノ
勃興ガアツタト考ヘルノデアリマス、
レドモ、其ノ消費ヲ十分生産シ得ル程
ノ能力デハナイト考ヘマス、最近ノ數
字ハ存ジマセヌガ、天然物ノ増產ト云
フコトハ、工業品ノ増產ヨリ更ニ斯ウ
云フ地域ニハ容易デアラウト考ヘマス
ノデ、ヤハリ戰爭ガ濟ミ、平和ガ克復
致シマシテ、我ガ國モ是等從來ノ輸出
國ト交易ノ狀態ニ入ルコトガ出來マス
レ、ヤハリ是ハ從前通り輸入シテ賣
ヘルモノト考ヘテ居リマス、隨ヒマシ
テ是等ノ地域ニ對シテ相當ノ物ヲ輸出
スル、製品ヲ輸出スル、其ノ見返リニ
原料ノ輸入ヲシテ賣フト云フコトガ出
來ルモノト考ヘマス、隨ヒ「アメリカ」
「インド」、「アフリカ」、「ブラジル」ト

云フヤウナ方面ニ對シマシテノ製品ノ
輸出ヲ考ヘマシテ、綿布ノ原料デア
ル所ノ棉花ヲ入レ、斯ウ云フコトガ可
能デアラウト考ヘテ居リマス
○加藤(一)委員 私モ將來ハ左様ニア
ツテ欲シト思ヒマス、米棉ノ輸入ガ
ドンノ日本ニ來ルヤウニ米國ガ日本
ニ好意ヲ向ケテ戴カケレバ、日本ノ
紡績ハ成立タヌト思ヒマス、ソレデ成
立タヌ前ニ、政府トシテ今日カラ肚
ヲ決メテ考ヘテ置イテ戴キタイ點ガ一
ツアリマス、ソレハ御指摘ニナツテ居
リマスヤウニ、戰時中「インド」ニ於テ
ハ、私ノ調査ニ依レバ、相當「ランカ
シア」ノ紡績ガ働イテ居リマシタ、又
戰後ニ於テモ「インド」ノ復興ト云フコ

トハ、英國モ第一次歐洲戰後ノ狀況ニ
比較シテ深刻ニ考ヘテ居リマシマス
ス、此ノ方面ノ輕工業ノ勃興ト云フコ
トハ私ハ當然ダト考ヘマス、而モ隣國
中華民國ニ於テハ御案内ノ通り上海、
青島、滿洲ヲ中心ニ中華民國人モ相當
ノ紡績ヲ持ツテ居リマスガ、擲テ、加
ヘテ從來日本ガ經營致シテ居リマシタ
綿絲紡績工場ガ、彼處ニ無抵テ殘ツテ
居リマス、現在日本ノ内地ノ紡績數
ト、中華民國ニアリマス鍾數ヲ比較致
シマスレバ、大同小異ノ程度ト私ハ考
ヘテ居リマス、而モ日本ノ紡績ハ賠償
ノ對象ニ依リマシテ幾分ハ廢體ヲ命ゼ
ラレマシテ、「フィリピン」ニ行キマス
カ、「インド」ニ行キマス、中國ニ行
キマスカ分リマセヌガ、相當ノ打擊ヲ
受ケルコトハ分リ切ツテ居リマシマス、
而モ戰時中相當ノ引外シヤツ
テ居リマシマス、ソコデ支那ニ
花ヲ栽培スルコトハ、大東亞戰爭ヲ通
ジテ日本ノ全生命ヲ賭シテ、支那大陸
ヲ綿業化シタ譯ハ各位御存ジノ通りデ
ス、支那ニハ綿絲、棉アリ、而モ日
本ニ西敵スルヤウナ工場ヲ持ツテ居
ト致シマスレバ、其ノ原料ヲ日本ニ供
給スルヨリハ、自國デ鍾イダガ宜シ
イ、斯ウ云フ結果ニナリマス、而モ日
本ノ工業ハ向フヘ參リマシテ過去數
星霜、日本内地ニ於テヤツテ居リマシタ
以上ノ技術ヲ向フヘ移植致シマシテ、
現在其ノ技術ヲ向フヘ殘シテ居リマ
ス、ソレガ將來日本人ノ手ニ歸リマス
レバ何等申スコトハゴザイマセヌガ、
全部中國人ノモノトナリマス以上ハ、
茲ニ考ヘテ及ボシテ戴カシマス、今
政府委員ノ御話ニナリマシタヤウニ、
大シタコトハナイ、マダ販路ハ擴ガル
デアラウ、斯ウ云フ漫然タル御考ヘテ

以テ、日本ノ綿業ヲ今日中心ニ育成強
化セラレルト致シマシマス、將來ハ大
變ナ問題ニナルト云フコトヲ、私ハ此
ノ際政府ニ警告ヲ發スルト同時ニ豫言
ヲ致シテ置キマス、而モ日本ノ滿ノ開
題デアリマスガ、是モ御案内ノ通り、
臺灣ハ日本ノ種ヲ日支變ヲ通ジ、大
東亞戰爭ノ前期ニ於テハドンノ中國
ヘ特ツテ參リマシテ、桑ノ植エ方、栽
培ノ方法ニ至ルマデ、細部ニ至ツテ日
本ハ向フニ教ヘテ歸ツテ居リマス、而
モ從來ハ太絲シカ鍾ゲナカッタ中國人
ハ、日本ノ技術ヲ修得シテ非常ニ細イ
絲マデ鍾グヤウニナツテ居リマス、サ
ウ云フ點カラ考ヘマス、日本ノ綿絲
業モ將來考ヘナケレバ、世界市場ノ
開ケタ後ニ於テハ、相當危機ニ瀕スル
ト云フコトモ分リ切ツテ居リマシマス、
モウ一ツ惡イコトハ、中國ガ早
急ニ工業化ト云フコトヲヤルコトニナ
リマスレバ、ソレニ要スル資本、技
術、機械、設備等ハ、日本ハ其ノ方面
ノ工場ガ今日爆碎セラレテ居リマス
シ、賠償ノ對象ガ引外サレル關係ニナ
リマスカラ、生産ガナイ、必然的ニ歐
米ニ其ノ糧ヲ求メルコトハ分リ切ツテ
居リマシマス、サウナルト彼等ト
シテハ其ノ反對給付トシテ、生絲、茶
ヲ是等方面ニ出シテ行クコトモ分リ切
ツテ居リマシマス、サウスルト日本ガ從
來歐米ニ出シテ居ッタ茶、生絲ノ市場
ハ、歐米ニ於テモ競合スル、斯ウ云フ
結果ニナリマスノデ八方塞リデアリマ
ス、是ハ杞憂デハナク、現實ナンデス
カラ、斯ウ云フ所ヲ十分ニ御勘考戴
テ政府ハドウ云フ方針ヲ以テ綿絲紡績
ヲ中心トシテ再建セラレ考ヘテ持ツ
テ居ラレカ、モット底ノモノヲ承ツ
テ置キタイ、モット惡イコトハ先般モ

指摘致シマシタ通り、東洋ノ維新ノ
維新ハ農業デアリマシテ、是モ御存知ノ
通り半封建的デ、水田農法デ、零細
農業デ、農村ニ於ケル人口過剩ハ日本
ト類似デス、此ノ農業ノ基礎ノ上ニ東
洋ノ商業工業ガ成立致シテ居リマシ
マスカラ、此ノ點ニ付テモ十分政府
ハ御考ヘテ綿絲紡績ヲ置キマセヌト、本
當ニ開ケタ時ニ、日本ハ歐米資本主義
ノ奴隸ニナツテシマス、私ハ左様ニ考
ヘテ居リマス、一ツノ好イ話ガアリマ
スカラ話シテ置キマスガ、昭和六七年
頃ト思ヒマス、滿洲事變ノ善後措置ト
シテ、當時飯倉君ガ農林省ノ課長ヲシ
テ居リ、眞鍋ト云フ技師ガ居リ、是ガ
日本ノ減産運動ヲ資源局ノ參與會
ニ提案致シテ居リマシテ、「アメリカ」
デハ戰後小麥ノ畑ガ段々殖エマシタ
ガ、減産ヲ致シマシタ

○塚田委員長代理退席、委員長著
席
之ヲ日本ガ眞似テ、日本ノ田圃ヲ減
ス、滿洲ノ水田ヲ設計スルニ當ツテ
ハ、日本ノ農業ハ立チ行カヌカラ、減
産シテ滿洲ニ米ノ田ヲ作ル、斯ウ
云フ所マデ突キ進ンデ、農林省ニ提案
シタコトヲ私ハ記憶致シテ居リマス、
日本ハ今全ク反對ノ立場ニ立ツテ居
マス、中國ニ於テ減産シテ呉レナケ
レバ、日本ハ凡ソ面ニ於テ立チ行カ
ヌ、日本ハ當時トハ反對ノ方向ニ政
策ヲ向ケテ行カケレバ、將來滅亡ヲ
見ル、斯ウ云フコトニナリマス、カ
歴史ハ繰返シマス、過去ヲ振返ツテ、
日本再建ノ今日コソ、政府ハハツキリ
シタ對策ヲ執リ、是ナラ大丈夫デ、國
民ヲ率ヒテ立ツコトガ出來ルノダト云
フ綿業對策ヲ、政府ノ口カラハツキリ
國民ニ闡明顯ヒタイ、是ナクシテ我々

ハ如何ニ星島商工大臣、陸國務大臣ガ
聲ヲ聞ラシテ、將來綿絲紡績ヲ中心ニ
日本ノ再建ヲ圖ルノ道ト仰シヤイマシ
テモ、納得スルニ行キマセヌ、納得
行カヌモ、ハ如何ニ致シマシテモ國民
トシテ推進致スコトハ出來マセヌ、其
ノ點ヲ商工大臣ニ代ツテ御答ヘテ戴キ
マスレバ結構デアリマスガ、若シ御答
ヘ出來マセヌケレバ、御傳ヘ戴キマシ
テ商工大臣カラハツキリシタ御答辯ヲ
伺ヒタイト考ヘテ居リマス

○吉田(一)委員 只今ノ加藤委員
ノ御話ハ商工大臣ニ能ク御傳ヘ致シマ
ス、一言申上ゲテ置キマスガ、仰セ
通り纖維産業ノ再建ノ前途ニハ東洋各
市場トモ各種ノムツカシイ問題ガアリ
マス、日本ノ立場カラ考ヘテモ、戰災
デ相當ヤラレテ居ル所ヘ、戰時中ノ戰
力化ノ意味ヲ轉用サレ、其ノ各種機械
ハ相當破壞サレテ居ル譯デアリマス、
隨テ再建自體ガ非常ニ困難ナ狀況デア
リマス、ソコデ取敢テ政府ハ纖維産業
再建委員會ト云フモノヲ設ケマシテ、
關係各方面ノ御助力ヲ得マシテ、關係
各省、民間ノ方々ヲ入レタ大委員會デ
ゴザイマシテ、此處デ對策ヲ審議致シ
テ居リマス、此ノ邊デ大體基礎的ナト
申シマスガ、取敢テ對策ヲ練リマシ
テ、更ニ之ヲ安定本部等ニ御審議ヲ願
フ基礎案トシテ是ガ作ラレモト考
ヘテ居リマスガ、先ヅ其ノ邊ニ政府ハ
著手致シテ居ル譯デアリマス、全般
的ナ問題ニ付キマシテハ、何レ又大臣
カラ御答ヘ申上ゲタイト思ヒマス

○加藤(一)委員 ソレデバ其ノ問題ハ
オ預ケト云フコトニ致シマシテ、更ニ
御伺ヒ致シマス
、全般のナ問題ト致シマシテ、商工業
ハ日支事變、大東亞戰爭中ニ相當轉廢

致シマシタガ、此ノ轉廢業者ノ處理ハ
ドウヤウニナツテ居リマセウカ、ソレ
カラ臨時物資需給調整法ガ成立致シタ
其ノ日ニ轉廢業者ガ組合又ハ其ノ他ノ
民主的ニ組織セラレタ産業團體ニ加
盟致シテ居リマセヌケレバ、永劫未代
商賣ガ出來ヌヤウニ相成ルノカドウ
カ、此ノ二點ヲ御伺ヒ致シマス

○小出政府委員 第一點ノ御尋ネノ戰
時中企業整備其ノ他ニ依リマシテ轉廢
業者致シタ業者ノ今日ノ狀況デゴザイマ
スルガ、戰時中ニ於キマシテハ所謂軍
需産業方面ヘ動員致シマスル爲ニ、工
業ノ方面ニ於キマシテモ、特ニ商業
ノ方面ニ於キマシテハ、非常ニ強力ナ
企業整備ヲ行ヒマシテ、其ノ爲ニ全國
的ニ凡ル業種ニ互リマシテ、相當多
數ノ轉廢業者ヲ見タノデゴザイマスル
ガ、終戰ト共ニ是等ノ轉廢業者ハ、再
ビ元ノ職場ニ戻ラウト云フ傾向ガ非常
ニ強イノデアリマス、特ニ戰時中實施
シテ居リマシタ、企業許可令ト云フ營
業ノ免許制度ノ基礎ニナツテ居リマス
ル勅令ガアツタノデゴザイマスルガ、
此ノ企業許可令ニ依リマシテ、數百ノ
業種ガ企業許可制ヲ布カレテ居ツタノ
デアリマス、終戰後經濟民主化ノ線ニ
沿ヒマシテ、此ノ企業許可令ノ指定業
種ヲ極度ニ壓縮致シマシテ、現在商工
省關係ニ於テハ僅カニ纖維製品ノ小賣
業、石炭、石油ノ販賣業ノ外ハ全部營
業ハ自由ニナツテ居リマス、ノミナラ
ズ、企業許可令モ國家總動員法ニ其ノ
基礎ヲ置イテ居ル以上ハ、今月末ヲ以
テ消滅致シマスノデ、今後ハ全企業
ノ開始ハ凡ル業種ニ付テハ一少クモ
商工省關係ニ於テハ自由ニナツテ來
ル譯デアリマス、隨テ一旦轉廢業者
シタ者モ今日續々事業ヲ開始致シテ

居リマス、併シナガラ勿論ソコエハ戰
災ニ依ツテ店舗ヲ失ツタリ、或ハ事業
資金ノ獲得ガ出來ナカツタリ、色々ナ
臨路ハアリマスガ、兎ニモ角ニモ營業
ノ再開ト云フコトニ付テハ、今日全然
自由ニナツテ居リマス

○小出政府委員 中小商工業ト一口ニ
昔カラ殆ド常識ノヤウニ言ハレテ參ッ
タノデアリマスガ、果シテ中小ト云フ
ノハドウ云フ範圍デアルカト云フコト
ニ付キマシテハ、色々議論ガアラウカ
ト思ヒマス、學者ノ分類等ニ依リマシ
テモ、例ヘバ工業關係デ申シマスレバ、
商工省デ從來カラ行ツテ居リマス工場
統計ニ基キマシテ常時使用シテ居リマ
ス工員ノ數、絶エズ使ツテ居ル工員ノ
數ヲ基礎ニシテ分ケル分ケ方、是ガ一
番普通ノヤウニナツテ居リマス、其ノ
前ニ於キマシテ例ヘバ百人以下ヲ中小
ト見ルトカ、或ハ二百人以下ヲ中小ト
見ル、或ハ三百人以下ヲ特ニ小工業ト
見ルト云フ風カ分類スル人モアリマ
ス、大體是ガ代表的ナ分ケ方ニナツテ
居リマシテ、我々モ大體概念的ニハ少
クトモ大キクテ三百人程度マデヲ中小
ノ工業ノ範圍ニ入レマシテ、當時使用
工員ガ三十人以下ト云フヤウナ所ヲ小
工業ト云フ風ニ考ヘテ居ルノデゴザイ
マスガ、唯申スマデモナク工員ノ數ダ
ケデ之ヲ分類スルコトハ非常ニ不合理
ナ事態ガ起ツテ來ル場合ガ多イノデア
リマシテ、例ヘバ業種ニ依リマシテ非
常ニ違ヒガゴザイマス、機械工業デ申
シマスレバ、比較的其ノ生産ノ内容カ
ラ見マシテ工員ノ數ハ餘計要ル譯デア
リマスケレドモ、之ニ反シマシテ化學
工業ノ方ニ於キマシテハ、寧ロ設備ガ
中心デアリマシテ、非常ニ大キナ化學
工業ノ工場デアリマシテモ、案外使ツ

テ居ル工員ノ數ハ非常ニ少クテ濟ムト
云フ風ナ事態ガゴザイマスルノデ、之
ヲ業種別ニヤハリツレムノ分ケテ考ヘ
ルコトガ必要デアラウカト存ジマス、
隨ヒマシテ本當ニ合理的ニ中小商工業
ノ範圍ヲ決メヨウト致シマスレバ、使
用工員ノ數、資本金額、ソレカラソコ
ニ投下シテアリマス設備ノ内容、ソレカ
ラ生産額ト云フヤウナ各種ノ方面カラ
綜合的ニ之ヲ考ヘナケレバイカヌコト
ニナラウカト思ヒマス、ソレカラ商業
ノ方ニ於キマシテモ、例ヘバ資本金額
ニ依ル分ケ方トカ、或ハ賣上金額ニ依
ル分ケ方ト云フ風ニ色々ノ面カララウ
ト思ヒマス、商業ノ方ニ於キマシテハ
大體大部分ノモノガ、特ニ小賣業者等
ハ百貨店等ヲ除キマス、殆ド全部ガ
中小商業業者ト考ヘラレル譯デアリマ
ス、是ハ或ハ御答ヘニナラナイヤウナ
御答ヘニナルガト思ヒマスガ、結局結
論ニ於テハ、ソレノ業種ヲ具體的
場合ニ應ジマシテ各種ノ條件ヲ綜合シ
タ、結局經濟常識的ナ點ニ歸著セザル
ヲ得ナイノデハナイカ、斯様ニ考ヘテ
居ル譯デアリマス

○加藤(一)委員 私ガ今其ノ定義ヲ伺
ヒマシタ理由ハ、今度商工協同組合法
案ノ提案理由書ニアリマス通り、商工業
ノ合理化ヲ圖ルト云フコトニ一應ノ理
由ガアリマスルガ、合理化ノ問題デ御
伺ヒ致シマシタガ、ソレノ邊ニ經營方
針ハ時間及ビ努力ノ節約、設備ノ發達
スルニ從ヒマシテ、勞働者一人當リノ生
産額ノ無限デアルト云フ定義ガ、ソレノ
テ居ルヤウデアリマス、左様ニ致シ
マシテ人デモ機械化ノ立派ナモノガ
出來マスレバ、其ノ業ハ適當出來ルト

午後一時二十分開議
○竹田委員長 引續キ會議ヲ開キマ
ス——加藤君

○加藤(一)委員 午前中ニ引續キマシ
テ續行致シマス、モウ一ツ全般のノ問
題デ御伺ヒ致シテ置キタイト思ヒマ
ス、中小商工業ト云フ定義デアリマス
ルガ、是ハハツキリ御明示戴キタイト
思ヒマス

○小出政府委員 中小商工業ト一口ニ
昔カラ殆ド常識ノヤウニ言ハレテ參ッ
タノデアリマスガ、果シテ中小ト云フ
ノハドウ云フ範圍デアルカト云フコト
ニ付キマシテハ、色々議論ガアラウカ
ト思ヒマス、學者ノ分類等ニ依リマシ
テモ、例ヘバ工業關係デ申シマスレバ、
商工省デ從來カラ行ツテ居リマス工場
統計ニ基キマシテ常時使用シテ居リマ
ス工員ノ數、絶エズ使ツテ居ル工員ノ
數ヲ基礎ニシテ分ケル分ケ方、是ガ一
番普通ノヤウニナツテ居リマス、其ノ
前ニ於キマシテ例ヘバ百人以下ヲ中小
ト見ルトカ、或ハ二百人以下ヲ中小ト
見ル、或ハ三百人以下ヲ特ニ小工業ト
見ルト云フ風カ分類スル人モアリマ
ス、大體是ガ代表的ナ分ケ方ニナツテ
居リマシテ、我々モ大體概念的ニハ少
クトモ大キクテ三百人程度マデヲ中小
ノ工業ノ範圍ニ入レマシテ、當時使用
工員ガ三十人以下ト云フヤウナ所ヲ小
工業ト云フ風ニ考ヘテ居ルノデゴザイ
マスガ、唯申スマデモナク工員ノ數ダ
ケデ之ヲ分類スルコトハ非常ニ不合理
ナ事態ガ起ツテ來ル場合ガ多イノデア
リマシテ、例ヘバ業種ニ依リマシテ非
常ニ違ヒガゴザイマス、機械工業デ申
シマスレバ、比較的其ノ生産ノ内容カ
ラ見マシテ工員ノ數ハ餘計要ル譯デア
リマスケレドモ、之ニ反シマシテ化學
工業ノ方ニ於キマシテハ、寧ロ設備ガ
中心デアリマシテ、非常ニ大キナ化學
工業ノ工場デアリマシテモ、案外使ツ

午後一時二十分開議
○竹田委員長 引續キ會議ヲ開キマ
ス——加藤君

○加藤(一)委員 午前中ニ引續キマシ
テ續行致シマス、モウ一ツ全般のノ問
題デ御伺ヒ致シテ置キタイト思ヒマ
ス、中小商工業ト云フ定義デアリマス
ルガ、是ハハツキリ御明示戴キタイト
思ヒマス

○小出政府委員 中小商工業ト一口ニ
昔カラ殆ド常識ノヤウニ言ハレテ參ッ
タノデアリマスガ、果シテ中小ト云フ
ノハドウ云フ範圍デアルカト云フコト
ニ付キマシテハ、色々議論ガアラウカ
ト思ヒマス、學者ノ分類等ニ依リマシ
テモ、例ヘバ工業關係デ申シマスレバ、
商工省デ從來カラ行ツテ居リマス工場
統計ニ基キマシテ常時使用シテ居リマ
ス工員ノ數、絶エズ使ツテ居ル工員ノ
數ヲ基礎ニシテ分ケル分ケ方、是ガ一
番普通ノヤウニナツテ居リマス、其ノ
前ニ於キマシテ例ヘバ百人以下ヲ中小
ト見ルトカ、或ハ二百人以下ヲ中小ト
見ル、或ハ三百人以下ヲ特ニ小工業ト
見ルト云フ風カ分類スル人モアリマ
ス、大體是ガ代表的ナ分ケ方ニナツテ
居リマシテ、我々モ大體概念的ニハ少
クトモ大キクテ三百人程度マデヲ中小
ノ工業ノ範圍ニ入レマシテ、當時使用
工員ガ三十人以下ト云フヤウナ所ヲ小
工業ト云フ風ニ考ヘテ居ルノデゴザイ
マスガ、唯申スマデモナク工員ノ數ダ
ケデ之ヲ分類スルコトハ非常ニ不合理
ナ事態ガ起ツテ來ル場合ガ多イノデア
リマシテ、例ヘバ業種ニ依リマシテ非
常ニ違ヒガゴザイマス、機械工業デ申
シマスレバ、比較的其ノ生産ノ内容カ
ラ見マシテ工員ノ數ハ餘計要ル譯デア
リマスケレドモ、之ニ反シマシテ化學
工業ノ方ニ於キマシテハ、寧ロ設備ガ
中心デアリマシテ、非常ニ大キナ化學
工業ノ工場デアリマシテモ、案外使ツ

午後一時二十分開議
○竹田委員長 引續キ會議ヲ開キマ
ス——加藤君

○加藤(一)委員 午前中ニ引續キマシ
テ續行致シマス、モウ一ツ全般のノ問
題デ御伺ヒ致シテ置キタイト思ヒマ
ス、中小商工業ト云フ定義デアリマス
ルガ、是ハハツキリ御明示戴キタイト
思ヒマス

○小出政府委員 中小商工業ト一口ニ
昔カラ殆ド常識ノヤウニ言ハレテ參ッ
タノデアリマスガ、果シテ中小ト云フ
ノハドウ云フ範圍デアルカト云フコト
ニ付キマシテハ、色々議論ガアラウカ
ト思ヒマス、學者ノ分類等ニ依リマシ
テモ、例ヘバ工業關係デ申シマスレバ、
商工省デ從來カラ行ツテ居リマス工場
統計ニ基キマシテ常時使用シテ居リマ
ス工員ノ數、絶エズ使ツテ居ル工員ノ
數ヲ基礎ニシテ分ケル分ケ方、是ガ一
番普通ノヤウニナツテ居リマス、其ノ
前ニ於キマシテ例ヘバ百人以下ヲ中小
ト見ルトカ、或ハ二百人以下ヲ中小ト
見ル、或ハ三百人以下ヲ特ニ小工業ト
見ルト云フ風カ分類スル人モアリマ
ス、大體是ガ代表的ナ分ケ方ニナツテ
居リマシテ、我々モ大體概念的ニハ少
クトモ大キクテ三百人程度マデヲ中小
ノ工業ノ範圍ニ入レマシテ、當時使用
工員ガ三十人以下ト云フヤウナ所ヲ小
工業ト云フ風ニ考ヘテ居ルノデゴザイ
マスガ、唯申スマデモナク工員ノ數ダ
ケデ之ヲ分類スルコトハ非常ニ不合理
ナ事態ガ起ツテ來ル場合ガ多イノデア
リマシテ、例ヘバ業種ニ依リマシテ非
常ニ違ヒガゴザイマス、機械工業デ申
シマスレバ、比較的其ノ生産ノ内容カ
ラ見マシテ工員ノ數ハ餘計要ル譯デア
リマスケレドモ、之ニ反シマシテ化學
工業ノ方ニ於キマシテハ、寧ロ設備ガ
中心デアリマシテ、非常ニ大キナ化學
工業ノ工場デアリマシテモ、案外使ツ

云フコトハ是デ明カデアリマス、ソコ
デ中商工業者等ノ定義が必要ニナル
譯デアリマス、政府ハ今後ノ日本ノ合
理化ニ於キマシテ、今申上ゲマシタヤ
ウナ「フオード」ノ經營方針ヲ日本ニ採
擇シテ、「アメリカ」ガ第一次世界大戰
後ニ於キマシテ、濫ルヤウナ失業業者
ガ甚ニ滿チタ時ニ、安易ナル失業救済
ニ趨ラズシテ、機械化ヲ以テ此ノ失業
ヲ救済シタ、サウ云フコトデ多クノ物
ヲ生産シテ、而モ濫利デサウシテ一般
ノ購買力ヲ盛ンシ致シマシテ、「アメ
リカ」ノ今日ノ復興ヲシタヤウニ「ニ
ュー・デール」政策デハ讀ミ取レルノデ
アリマス、今後日本ノ産業復興ニ當
リマシテモ、理想ハ唯一ノ人ノ工員ニ依
ツテ全工場ヲ動かサヤウナ、機械化設
備ヲ技術的ニ發達セシメテヤル御意思
ガアルカ否カニ、私ノ質問ハ懸ツテ居
ルノデアリマス、サウ云フ意味合デ中
小工業、其ノ他ノ大企業等ノ定義ヲ將
來御考ヘニナルヤウナ御意リガアルカ
ドウカ、是モ併セテ此ノ際承ツテ置キ
タイノデアリマス

○小林政府委員 只今加藤委員ノ御述
ベニナリマシタコトハ洵ニ結構ナ御意
見デアリマシテ、技術ノ高度化云云フ
コトハ、將來我が國ノ商工業ノミナラ
ズ、農業方面凡ル方面ヲ通ジテ最も
力ヲ盡サナケレバナラヌ所デアラウハ
思ヒマス、從來此ノ點ニ於テ我が國ハ
非常ニ後レテ居リマシテ、殊ニ農村方
面ナドニ於ケル機械力ノ利用ト云フコ
トハ、非常ニ後レテ居ルヤウニ考ヘマ
ス、是ハ勢力ノ過剩デアルト云フヤウ
ナコトモ自ラ禍ヲジテ、其ノ爲メ機械
力ノ利用ト云フヤウナコトガ後レテ來
ル傾向ガアツタヤウニ思フシ、又將來
勞力ガ剩ツタ時代ニハサウナリ易イノ

デアリマスルガ、農業方面ト雖モ十分
ニ機械力ノ利用シテ行クト云フコトガ必
要デアラウト思ヒマス、是ガ非常ニ日
本ノ農村文化ヲ高メル理由ニモナラウ
ト思ヒマス、況ヤ工業ノ方面ニ之ヲ使
ス、僅カナ人ヲ以テ機械力ニ依ツテ仕
事ヲスルト云フコトハ、最も必要ナコ
トデアラウト考ヘマス、殊ニ近來、技
術ノ高度化ト云フヤウナコトハ、非常
ニ院內ニ於テモ叫バレル所デアリマシ
テ、我々ハ徹頭徹尾ハ賛成ヲスル者
デアリマス、出來得ル限り凡ル方面
ニ於ケル技術指導ト云フヤウナコト
ヲ、政府ニ於テモ計畫ヲ立ツテ、是非
一ツ非常ナル努力ヲ以テ御希望ノヤウ
ニヤツテ参リタイ、斯ウ考ヘテ居リマ
ス

○加藤委員 ソコデ各論ニ入りマ
ス、以上ノ全般の質問ニ並行致シマシ
テ、以下細部ニ互リマシテ御伺ヒ致シ
タイノデアリマスガ、仰ト申シマシテ
モ國務大臣、星島商工大臣ガ御述ベ
ニナツテ居リマスヤウニ、今後ハ中小
工業ヲ中心ニ日本ヲ再建シナケレバ
ナラヌト云フ宿命ガ、日本ニ課セラレ
テ居ルヤウニ思ヒマス、ソコデ私ハ、此
ノ中小工業ガドウ云フ譯デ日本ニ將來
中心トナラナケレバナラヌカト云フ理
由ヲ一應私ノ意見トシテ此處デ述ベサ
シテ置キマシテ、政府ノ御考ヘモソコ
ニ一致スルカドウカラ御伺ヒ致シマシ
テ、國民ニモ之ヲハツキリト認識シテ
戴クヤウニ速記録ニ留メテ置キタイノ
デアリマス

先ヅ聯合軍ガ日本ニ進駐シテ参リマ
シテ、第一「ボツダム」宣言忠實實行
ノ建前カラ要求致シマシタコトハ、軍
隊ノ解散ト云フコトデアリマス、ソレ
カラ重工業、軍需工業ノ解體、一部廠

設ノ撤去、左様ニシテ直接的ニ日本ヲ
非武裝化スルト云フコトガ、第一デア
リマス、第二ニハ日本ノ社會カラ軍國
主義ノ發生ヲ容易ナラシメルヤウナ要
素ヲ取除カウト云フコトガ考慮セラレ
マシタ、其ノ具體的ノ措置トシテ先ヅ
農地ノ解放ヲ實行セシメマシテ、農村
ニ於ケル軍國主義發生ノ基盤ヲ根本的
ニ撓ギ取り、一方産業財界ニ於キマシテハ
財閥ヲ解體シテ、從來動モスレバ軍國
主義ノ重要ナル柱トナツテ居リマシタ
所ヲ根ゴソギ搖ガシテシマフ、斯ウ云
フ所ニ「ボツダム」宣言ノ忠實實行ノ建
前カラ、日本ニ聯合軍ハ要求シテ居ル
底意ガアルヤウニ自分ハ考ヘマス、ソ
コデ此ノ事業ハ昨年八月十五日以後進
駐軍ガ日本ニヤツテ來マシテ、著々實
效ヲ得、約一年餘ニナリマシテ今日ニ
及ンデ居ルコトハ、我々共ニ能ク知ツ
テ居ル所デアリマス、此ノ見地カラ將
來中小工業ヲ中心ニ日本産業ヲ開發復
興シナケレバナラヌト云フ結果ガ生レ
テ來ルノデアリマス、此ノ點ハ國民、
政府共ニ此ノ際ハツキリ認識シテ掛カ
リマシテ、以下商工協同組合法案ニ付
キマシテノ凡ル施策ヲ考究スルハ必
要ガアルト考ヘマスガ、政府ノ御考ヘ
ハドノヤウニナツテ居リマセウカ、簡
單デ宜シウゴザイマスカラ一應御答ヘ
テ願ヒマス

○小林政府委員 洵ニ加藤委員ノ御述
ベニナツタ通りデアルト考ヘマス
○加藤委員 ソコデ中小工業ハ今
朝程申上ゲマシタ通り、從來是ガ國民
ノ生活物資ヲ造リ、或ハ又輸出貿易品
ヲ造ツテ居リマシタ關係デ、今日御配付
ニナツテ居ル政府ノ資料ニ依リマシテ
モ、破壊率ハ相當デゴザイマス、ソ
コデ現在及ビ將來ニ互ツテ國民生活及

ビ貿易振興上、此ノ破壊率ヲ以テ致シ
マシテハ大變大キナ問題ガ茲ニ包藏シ
レバ眼先ノ問題デケル考ヘマシテ、中
小工業ノ復興對策ヲ研究スルヤウナ氣
配ガナキニシモアラズト考ヘテ居リマ
ス、今回ノ商工協同組合法案ハ正ニ其
ノ通りデアリマス、政府ハ此ノ商工協
同組合法案ニ依リマシテ、商工業者ガ
本當ニ救ハレルト御考ヘニナツテ居ル
カドウカ、我々ノ見ル所ヲ以テ致シマ
スレバ、此ノ法案ニ依リマシテハ非常
ニ難問題デアルト考ヘテ居リマス、意
見ニ互リマスガ、何トシテモ商工業ノ
育成開發ト云フコトハ、ソレ自體ノ問題
デケデハ今日解決ハ難ナラヌト考ヘテ
居リマス、是ハ日本經濟ノ全體乃至ハ
世界經濟ノ一環トシテ物ヲ御考ヘ戴キ
マセト、大變ナ問題ノ方向ニ行クコ
トハ必然デアリマス、先程モ政府ノ意
思ヲ尋ネマシタガ、私ハ日本ノ貿易ガ
將來トノ程度マデ許サレカト云フコ
ト、ソレニ依ツテ日本ノ産業ノ構造ガ
ハツキリ決マリマスカラ、ソコデ農業
ト工業トノ關係モ組合セモハツキリ致
ス譯デアリマス、前提ガ茲ニアリマシ
テコソ商工業或ハ農業、國全體ノ産業
ガ跛ニナラズ圓滿ニ解決サレルト思ヒ
マスガ、今回商工協同組合法案ヲ御立
テニナリマス時ニ、サウ云フ考ヘヲ以
テ立案ニナツテ居ラレト致シマスレバ、
若シナツテ居ラレト致シマスレバ、
法案ノ何處ニサウ云フ精神ガ盛ツテア
ルカ、此ノ點ヲモウ一度ハツキリシテ
置キタイト思ヒマス

○小林政府委員 我が國ノ中小商工業
者ヲ初トシ、商工業者ノ將來ハドウ云
フ風ニ向ツテ行ツタラ宜イカト云フヤ
ウナコトニ付キマシテハ、洵ニ加藤委

員ノ御述ニナツタ通りデアリマス、現
在聯合軍ノ管理下ニ於キマシテ、又貿易
ノ許サレナイ今日ニ於テ、我が國ノ商
工業ノ行クベキ道ヲ確定スルト云フコ
トハ極メテ困難デアリマス、サウ云フ
自由ナル貿易ガ行ハレル時代ニナリマ
スレバ、固ヨリ我々ノ考ヘル所ガ本
ニ依ツテ非常ニ伸張サレルニ至ルデア
ラウト考ヘマス、併シナガラ現在ニ於
キマシテハ、大體現在ニ於ケル情勢ニ
適ヤウニシテ參ルヨリ外ハナイノデ
アリマス、今回提案致シマシタ商工協
同組合法案ニ於キマシテモ、サウ云フ
具體的ナ場合ハ彼此決メテ居ル譯デ
ハアリマセマスガ、如何ナル場合ニモ順
應出來ルヤウニ、其ノ組織デケハ作ツ
テ參リタイト云フコトカラ、一ツノ進
ムベキ方向ヲ示シテアルノデアリマ
ス、此ノ協同組合法案ハ、全體ヲ御覽
ニナレバ御分リニナル通り、何處ニハ
キリシタモノガアルカト問ヒ詰メラ
レバ、甚ダ其ノ答ヘニ困ルノデアリ
マス、併シナガラ、若シ此ノ組合ト云
フモノガ非常ニ有效ニ使ハレテ行クナ
ラバ、ソレコソ其ノ效力ハ測リ知ルベ
カラザル偉大ナルモノガアルト思フ、
又之ヲ善用シナケレバ殆ド體ヲ吸ツテ
居ルヤウナモノデアリマシテ、アツテ
モナクテモ宜シイト云フヤウナモノニ
終ルカモ知レマセヌ、中ニハ之ヲ惡用
シテ惡イ方面ニ使フヤウナ組合ガナ
イトハ言ヘマセヌ、サウ云フモノハ政府
ハ出來ルデケ善導致シマシテ、此ノ組
合法ガ本當ニ活キテ使ハレルヤウニ致
シタイモノト考ヘテ居ル次第デアリ
マス、要スルニ、本當ニ立派ナ組合ガ
出來テ、之ヲ構成スル組合員諸君ガ之
ヲ有效ニ使フナラバ、此ノ組合法ニ依
ツテ得ル利益ト云フモノハ、極メテ大

縮ラウト云フ方針ノ下ニ大分前カヲ變
行シテ居リマシテ、餘程其ノ點ハ減
テ來タト思ハレルノデアリマスケレ
モ、マダ十分行ツテ居ラヌコトハ御
ノ通りデアリマシテ、洵ニ遺憾ニ思
ノデアリマス、是ハ國民ノ道義ガ失
タト云フ點カラデモアリマセウ、今
ハ十分取締リ、サウシテ國民ノ良心
觀ヘテ行キタイ、餘リ窓カラ出入リ
ルト云フヤウナコトハ、平時ニ於テ
リ得ルコトデナイト思ヒマスシ、幸
今回爭議ガ解決致シマシタノデ、色
配置ノ轉換ヲヤリマシテ、餘ツテ
者ハサウ云フ方面ニ使ツタラ宜イ
ウト云フ御説、御尤モデアリマス、
來ルダケ短カイ期間ニ再ビ今マデ
タヤウナコトヲ繰返サナイヤウニ、
分ナル努力ヲ拂フ積リデアリマス、
ノ爲ニハドウシテモモウ少シ列車
ヤシテ行キタイ、乗降リガ樂ニナ
スルト、何モ好ンデ窓カラ出入リ
者ガナイヤウニナルト私ハ想像シ
ルノデアリマス、幸ヒニ石炭ノ方
少増産ニナツテ居ルヤウデアリマ
デ、商工當局トモ相談ヲ致シマ
幾ラカデモ石炭ノ配給ヲ殖ヤシ
テ、列車ノ數ヲ殖ヤシ、切符ノ
モノモ無制限ニ賣ルヤウニシテ、
ノ旅行ガ樂ニ出來ルヤウニシタ
ヒマス、此ノコトハ改メテ計畫
デモナク、既ニサウ云フ考ヘノ
ウ云フ方針ヲ進ンデ居リマスル
餘リ豈イ將來デナク、解決スル
私ハ考ヘテ居リマス

○加藤(一)委員 能ク了承致シマ
ター―商工大臣ニ御伺ヒ致シマスガ、
屢々臨時物資需給調整法案デ、鐵
業、主トシテ綿業デアリマスガ、サ
ウフモノヲ中心ニ日本ノ産業ヲ育

ル、斯ウ云フ御話ガアリマシタガ、左様致シマスニ付キマシテハ、原料ガ必要ト云フコトニナリマス、ソコデ政府委員ノ今朝程ノ御答辯ハ、國交調整ノ曉ニハ、「アメリカ」ノ方カラモ、地ノ利ヲ得マシテ相當棉花モ戴クヤウニナリ、又ナルヤウニシナケレバナラス、斯ウ云フ御話ガゴザイマシテ、私モレバ庶幾シテ已ミマセヌガ、一應東亞ヲ考ヘマスルト、日本ニ西敵スルヤウナ鍾數ノ紡績工場モ、中國ニ今日現存シテ居リマス、而モ其ノ技術ハ日本人ガ過去幾星霜、營々トシテ作ツタ技術ヲソコニ殘シテ居リマス、左様エナリマスト東亞ノ販路ニ付キマシテハ、相當日本ハ削減セラレ、而モ印度ニ於キマシテハ戰時中「ランカシヤ」、濠洲カラ相當移駐サレテ居リマス、又相當ノ移駐ノ傾向モ見受ケツ、アル狀況デアリマス、尙更販路ハ縮小シテ來ルドラウ、ソレニ據テ加ヘマシテ、生絲ハ大東亞戰爭、日支事變ヲ通ジマシテ、華中蠶絲ハ餘所ナク日本ノ蠶卵紙ニ依リ、而モ桑畑マデ日本式ニ植エ、育テルコトモ教ヘテ、太糸絲シカ鍾數ナカツタモノヲ、細絲マデ鍾數ルヤウニ向フニ技術ヲ教ヘテ歸ツテ居リマス、御案内ノ通り中國國民ハ北ニ北京政府ガ出來、南ニ南京政府ガ出來マセウトモ、一向平氣ナンデス、現在中共ガ蔣介石ノ軍ト鬭爭開始、喧嘩ヲ致シテ居リマスガ、國民ハ戰亂ニ依ル苦痛ハゴザイマセウガ、一向平氣デアリマス、何等痛痒ヲ感ジナイ、北ニ政府ガ出來、南ニ政府ガ出來マセウトモ、此ノ商賣人ガ南ニ行キマシテ商賣ヲヤル、南ノ商人ガ北ニ來テ商賣ヲヤルト云フコトガ大體中國ノ國民性デアリマス、現在鬭爭シテ居ルコトヲ目途ニ、高ラ

括ツテ何等ノ對策ヲ講ジテ居ナイト云フコトハ、悔ヲ將來ニ貽スコトハ勿論デアリマスケレドモ、私ノ考ヘト致シマシテハ、商工大臣並ニ國務大臣ガ、屢々日本ノ纖維工業ヲ中心ニ産業開發ヲヤルト云フ仰セデアリマスガ、ソコノ消息ヲハツキリ認識ヲ致シマシテ掛リマセト、一時的ノ復興ハ出來マスガ、恒久未代日本ヲ救フ纖維工業ノ復興ハ罷リナラヌト自分ハ考ヘテ居リマス、此ノ點ニ對シマスル商工大臣ノ御考ヘヲ御伺ヒ致シタイと思ヒマス。○星島國務大臣 若シ必要ナラバ詳シイ數字ヲ以チマシテ、纖維局長カラデモ御答ヘサセタラドウカと思ヒマスガ、丁度今纖維局長ハ他ノ用ガアツテ出テ居リマスカラ、何レ委員會ニ來ルト云フコトデ實ハ私參ツタノデアリマシテ、大綱大體私ヨリ御答ヘ致シタイと思ヒマス、加藤君ノ仰セノ通り、日本ハ今年度ノ見返リ物資ト致シマシテハ、殆ド纖維品ガ六〇〇〇位出テ行ク譯デアリマス、併シ金高カラ言ヘバ纖維品ニナル譯デアリマス、ソレニ依ツテ小麥粉其ノ他ノ食糧ノ輸入ヲ受ケテ居ル譯デアリマス、今後ノ方針トシテハ、自轉車トカ、時計トカ、色々考ヘテ進メテ居リマスケレドモ、相當數盤ヲ得マスルノハヤハリ纖維品デアリマス、又是ガ一番復興易イヤウニ考ヘラレマスノデ、當局ト致シマシテモ之ニ主力ヲ注イデ行キタイ、斯ウ云フヤウナ關係カラ紡績工場等ニ付テハ特ニ意ヲ用ヒテ行キタイ、事變前一千二百萬錠アツタ申シマスガ、是ハ其ノ中少クトモ一、二割ノ稼働出來ナカツタノモ數ヘテ居ツタヤウニ思ヒマスノデ、今日實働百萬錠、百五十萬錠ト言ツテ居リマスケレドモ、少クトモG・H・

Qトノ色々ノ御話合デ、今ノ所マダ最後ノ決定ニハ至リマセヌケレドモ、戰前ノ三分の一、四百萬錠程度ハ日本ガ復舊シ得ルコト云フコトヲ認メテ呉レテ居ルヤウデス、サウシテ今日ハ本當ニ動イテ居ルノハ百萬錠前後ト私ハ思ヒマス、ソコデ日本ニ食糧ヤ色々ナモノヲ送ツテ來マス見返リトシテハ、是レ以外ニ糧マツタモノハナイモノデアリマスカラ、先般御話ガ糧マリマシテ、今年度ハ三十四、五萬トシテ棉ヲ取敢ヘズ送ツテ來ルコトニナリマシタ、既ニ神戶其ノ他ニ今日約八十萬俵著イテ居リマス、非常ニ活況ヲ呈シテ居ルト思ヒマスガ、殘念ナコトニ食糧事情或ハ最近勞働問題等デ、民主化ノ履キ違ヘ等ガアリマシテ、日本ノ再建ノ爲ニ一生懸命ニ働カケレバナラヌ際ニ、比較的農村ガ落著イテ居ル關係カ、工場等ニ女工員ヲ得ルノガ非常ニ困難ヲ致シテ居ル、或ハ假令集マツテ來マシテモ直グ歸ツテシマフト云フヤウナ關係デ、アノ豫定計畫ノ半數ニモ達シナイ、五〇〇〇生産ガ出來ナイノデ、送ツタ棉ハ其ノ糧倉庫ニ積ンデアルト云フヤウナ、實ニ今困ツタ問題ガ起リマシテ、アトハ少シ送ルコトヲ止メルカモ知レスト云フヤウナコトガアル譯デアリマス、甚ダ殘念ノ至リデアリマスガ、併シ是ハ食糧事情等ガ良クナリマスレバ、私ハ逐次復活シテ來マシテ、少クトモ豫定ノモノダケハ消化シ得ルドラウ、斯様ニ考ヘテ居ル譯デアラウ、印度棉モ若干入レテ宜シイト云フコトニナリマシテ、今印度棉ト米棉ト巧ク合ハシテ紡績スル、一ツノ試驗ナドヲ致シテ居ルヤウナ所マデ進ンデ居ル譯デアリマスガ、ソレニ又濠洲ヨリ十三萬俵ノ毛ヲ入レテ參ルト云

フヤウナコトモ起ツテ來マシタノデ、我が纖維界ハ將來前途ニ非常ナ光明ヲ見テ居ル譯デアリマスガ、如何セン現状ト致シマシテハ、石炭ヤ食糧ノ不足デ以テ、ドウモ思フ通りニ參ツテ居ラヌデアリマス、ソコデ只今加藤君ノ仰セノヤウニ、相當數量中華民國內ニ於キマシテ、日本ノ資本家或ハ共同のナリタノ關係デ、相當ノ紡績ガ働イテ居タト云フコトニナツテ居ルデアリマサガ、是等ハ非常ニ理解ノアル蔭政權ノ下ニ於キマシテハ、或ハ日本ノ技術ヲ入レ、相當ノ人ヲ養フテ之ヲ指導シテ居ルヤウナ、モ聞イテ居リマス、極メテ圓滿ニ總テノ仕事ガ遂行サレルノデアリマス、中ニハ滿蒙、中華色々ノ紡績業者ノ方ガ歸ツテ見エテ、日本内地ニ於テ再び其ノ技術、其ノ紡績ヲ活カシタイト言ウテ、色々ト研究サレテ居ルヤウナ譯デアリマスカラ、此ノ東亞諸國全體ノ非常ナル衣料不足難ニ對シマシテハ、各方面カラ是ノ復興ヲ圖ツテ行カケタヤナラス、今ハ「ランカシヤ」等方ドウダトカ、或ハ支那ノ紡績ト競争ト云フヤウナコトハ姑ク考ヘル必要ハナイドラウ、兎ニ角現在日本ニアリマスモノガ、凡ソ四百萬錠マデハ如何ニ早ク復活スルカ、是ハ紡績ノ生産モ許可サレテ居リマスシ、食糧問題ヲ解決シテ、少クトモ現在殘ツテ居ル紡績機ハ全能率ニ、晝夜二交替デモ三交替デモシテ之ヲ働カシテ、今送ツテ貰ツテ居ル棉デモ足ラナクテ困ルト云フヤウナ所マデ、目的ヲ達成スルコトガ先決問題デアリマス、其ノ後ニ於キマシテ、オ互ヒガ眞ニ目覺メマシテ、從來ノ世界ニ覇ヲ唱ヘタ日本ノ纖維産業ヲ本腰デ掛ツタラ負ケハセ

又、唯願フコトナラバ、民主主義ノ履キ違ヒヲ致シマシテ、サウシテ勞働能率ヲ下ゲタリ、或ハ一般物價面ニ付キマシテ、全體ニ非常ナ損ヲ招クヤウナコトノナイヤウニ、巧ク指導シテ行キマスレバ、少クトモ前途ニ光明ガアルト思フノデアリマスガ、只今仰セノヤウナ印度棉等ノ輸入ニ付テ、或ハ東亞諸國ニ付キマシテ、將來自由貿易ニナツタ場合ニ、日本ノ纖維ト云フモノガ、再び事變前ノ榮榮ヲ見ルヤウニ、今カラ十分ニ心シテ用意シテ置カケレバナラヌカト、斯様ニ考ヘテ居ル譯デアリマス、加藤君ノ御意見ノアル所ヲ十分尊重シテ參リタイ、斯様ニ存ジテ居ル次第デアリマス。○加藤(一)委員 能ク分リマシタ、次ニ御伺ヒ致シマスルガ、中小工業ヲ育成スルト云フコトハ今御話ノ通りハツキリ致シマシタガ、將來中小工業ト大企業トノ關係ヲ如何ニ御調節ニナリマスカ、例ヘバ自轉車ノヤウナモノニ例ヲ取リマスレバ、加工團體ニ於キマシテ相當程度細分化ガ出來ル譯デアリマサガ、其ノ細分化ニ依リマシテ、中小工業ニ有利ナ立場ヲ御與ヘニナルヤウナ御考ヘガアルカナイカ、ソレカラ中小工業ノ適スル業種ニ付キマシテハ、大企業ノ獨占ヲ禁止スルヤウナ、法律的措置ヲ御講ジニナル意思ガアルカ、行數的ニサウ云フコトヲオヤリニナル御考ヘガアルカ、大東亞戰爭ノ末期ニ於キマシテ、大變日本デ行ハレマシタ大企業ト中小工業ト下請關係デアリマサ、將來大企業ヲナクシテ、中小企業ヲ育成シテ行クト云フコトニナルト、ヤハリ下請關係制度ガ殘ルト思ヒマス、斯ウ云フモノノ合理的組織ノ組織ト云フコトモ必要ダト思ヒマス、斯ウ云フ

點ニ對シマシテ中小工業ヲ育成スル根柢ガハツキリ致シマセスト、從來ノヤウナ、輸ヲ又踏ムコト必然ト自分ハ考ヘテ居リマス、是ハ大臣デナクテモ宜シウゴザイマスカラ、政府委員ノ方デ大臣ニ代ツテ、御方針ガハツキリシテ居リマスレバ御伺ヒ致シタイ、若シハツキリシテ居リマセヌケレバ、行クノサウ云フコトハ調整ヲスル、斯ウ云フコトデモ宜シウゴザイマスカラ、此ノ點ノ關係ヲ十分認識致シヤウニシテ置イテ戴キタイと思ヒマス

○星島國務大臣 中小工業ノ何ト言ヒマスカ、一ツノ線ト言ヒマスカ、五百人以下ノ勞務員ヲ使ツテ居ルモ中小工業ト言ヘマスシ、イヤ百人以下デナケレバ中小工業ト、一言ヘナイト云フ見方ガアリマシテ、先般本會議デハ御質問ニ對シマシテ、私共ハ答辯ニ困ツテ、イ、加減ナコトヲ答辯シテ居ルノデスガ、今實ハ經濟安定本部ニ於キマシテ、中小工業ノ對策協議會ト云フ、會ノ名前ハ一寸今ハツキリシマセヌガ、サウ云ツタヤウナモノヲ設ケマシテ、サウシテ政府ガ中小工業ノ振興ヲ圖ルノデアリマスガ、ソレヲドノ線ニ從ツテアルカト云フ最後ノ確定ヲシタイ、大體材料ハ今マデ我々ガ話シマシタノデ、或ハ金融方面、或ハ協同組合ヲ通シテ——自轉車工業ニ例ヲ取ツテ見マシテモ、一々部分品ニ付テソレゾレ勝手ニヤラシテ、最後ヲ纏メル所ヲ、協同組合ノ方デヤラストカ云フヤウナコトモ老ヘマスルシ、或ハ從來ノ下請制度ニモ、一面其ノヨサモ非常ニアツタノデス、事變前能率ガ上ツタノハ大體下請制度デス、唯其ノ間ニ、搾取ノ弊害モアリマスガ、サウ云フ所ヲ能ク是正シヤル、昔ノ親分の搾

取ノ所サヘ巧ク是正シマスレバ、日本ノ下請制度モ可ナリ宜イ點モアルノデアリマスルカラ、ソコデサウ云フ點ヲ解決致シマシテ——寧ロ自分ハ現在殘ツタモノハ全部中小工業ダト、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、少シデモ大キイモノガ殘レバ、ソレハ「アンチ・トラスト」トシテ將來利用出來ル考ヘデス、是ハ「ボツダム」宣言受諾ニ伴フ件カラ行キマシテモ、當然之ヲ整理シテ掛ラナケレバナラヌカラ、不日之ニ關スル法律モ、次ノ臨時議會ニ於キマシテ御協議ヲ願フヤウナコトニナルダラウト思ヒマス、ソレ等ト照合セマシテ今後ノ日本ノ行クベキ姿、而モ世界水準ニ負ケナイヤウナ、中小工業者ガ集マツテ大キナ工業ニモ負ケナイダケノコトヲアルト云フ所ヲ狙ヒトシテ、而モソレガ實ニ民主的ナ所ヲ狙フト云フ所ヘ持ツテ行キタイノデアリマシテ、大體ハ安定本部會議ノ其ノ別派ノ委員會決定ヲ受ケルコトト存ジマスガ、サウ云フ氣持ノ下ニ今折角準備出來マセヌカラ、是ハ個々ノ取扱ノ濟ム濟マイニ拘ラズ、或ハ金融方面ニ付キマシテモ、既ニソレハ指導致シマシテ、唯言葉ノミニ終ラヌヤウニ致シタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○加藤(一)委員 能ク分リマシタソレカラ次ニ御伺ヒ致シタイ點ハ、終戰後政府ハ技術者ノ調査ト、熟練勞働者ノ軍需産業等カラ追ハレマシタ關係者ノ御調査ガ出來テ居ルカ、出來テ居ナイカ
(委員長退席、塚田委員長代理著席)
ソレカラ今軍需産業方面ニ於キマシ

テハ、賠償ノ對象ニナルモノハ相當ゴザイマセウガ、ソレヲ拔キニ致シマシテ、アト殘存スル設備ノ調査ガ出來テ居ルカドウカ、若シ出來テ居ルナラバ、早急ニオヤリ戴クコトヲ願ヒタイノデアリマス、出來テ居ルト致シマスレバ、是等ヲ中小工業ノ再建ノ爲ニ再配分セラレル御計畫ガアルカ、之ヲ御伺ヒシタイト存ズルノデアリマス

○星島國務大臣 今度ノ賠償物資ニ依リマシテ、マダ賠償ノ最後ノ線ハ決マリマセヌカラアリマスケレドモ、取ラレモノガ今ノ線ニ依レバ是程取ラレ、此ノ線デ巧ク決マレバ是程殘ルト云フコトガ、今商工省內ニ整理部ト云フノガアリマシテ、商工省內ニ於テハ一番大キク色々施策ヲ持ツテヤツテ居ルガ、ソコデ大體調査ハモウ終ツテ居ル譯デアリマス、サウシテハ是非殘シテ欲シイト云フヤウナコトモ既ニ色々數字ヲ以テ、材料ヲ以テ懇請シテ居ルヤウナ譯デアリマスカラ、加藤君ノ要求セラレルヤウナモノモ、勿論御報告出來ルト思フノデアリマス、併シ最後ニ撤去サレテ殘ツタモノヲ、或ハ産業設備營團——是ハ今回假稱デアリマスガ、産業復興營團、若シハ産業再建營團ト云ツタヤウナ、名前ニ變ヘマシテ、サウシテ實ハ此ノ議會ニ御協議ヲ願ヒタイト思ツタノガ、到底間ニ合ヒマセヌケレドモ、ソレ等ガ從來ノ大型ナ戰時型ヲ變ヘマシテ、中商工業型ニ引直シテ、サウシテ設備ヲ作ツテハ貸シ與ヘル、或ハ設備ヲ補助シテコララシメタルト云フ、色々ナ方法ニマデ延ビテ行キマシテ、單ナル復興金融ニ依ツテ金融面ノ措置以外ニ、仕舞サシテ一ツ助ケタイ、其ノ方式ハ全部中商工業型ニ引直シテ行クヤウニ

今折角準備中デアリマス、尙ホ技術ニ付キマシテハ今回商工省ノ官房ニ技術室ト云フモノヲ設ケマシテ、是ハ「エンジニア」ノ尊重ト共ニ、日本ノ科學的ナ色々施設ヲ其ノ室ヲ通シテヤリタイ、或ハ失業對策等ニ付キマシテモ、賠償物資等ニ依ツテ失業スル「エンジニア」一ツツ有效ニ、能率のニ之ヲ巧ク按配シタイト云フヤウナコトヲモ、併セテ研究シテ、ソレニ進ンデ行キタイト斯様ニ考ヘテ居ル譯デアリマス

○加藤(一)委員 次ニ商工大臣ニ承リタイノデアリマスルガ、官房ニ技術室ヲ御作リニナリマスコト、洵ニ私ハ結構ナコトト思ヒマス、ソコデ此ノ技術室ニ於テ立案ガ出來マセウガ、ソレヲ今度下部ニ實行スル場合ハ、ヤハリ府縣工業試驗所ヲ御使ヒニナル御意思ト思ヒマスガ、其ノ點ハ如何デアリマスカ
○星島國務大臣 マダ其ノ邊マデハ少シ私共頭ニ入ツテ居リマセヌ、何レ必要トアリマスレバ、サウ云フコトモ十分考慮致シマシテ進ンデ行キタイト思ヒマス、マダ殊ニ技術方面トハ、文部省トノ關聯ハ大臣ノ間ニハ非常ニ付イテ居リマスケレドモ一ツモ實行ニ移ツテ居リマセヌ、議會デモ濟ミマシタラ、其ノ方面ト巧ク結合ハシテ進ンデ行キタイト斯様ニ存ジテ居リマス

一條件ニナル譯デアリマス、機械設備ニ致シマシテモ人間ノ技術ニ於キマシテモ、之ヲ向上スルト云フコトガ先決問題デアリマス、左様ニ考ヘマスルメニ當リマシテ、商工大臣才見ニナリマセヌノデ政務次官ガ御尋オ致シタノデアリマスガ、私ハ國土及資源、徹底ノ利用開發ト云フコトガ、第一ニ技術ノ目標ニナラナケレバ、第二ニ技術ノ消費生活ニ於キマシテハ合理化改善ヲスル、所謂此ノ間モ隨國務大臣ガ本席ニ於キマシテ御話ニナリマシタヤウニ、聯合軍ノ今日ノ食糧ヲ見ルト、含水炭素ヲ含ンデ居ルノガ相當アル、是ハ日本人ガ以テ學ベキダ、サウシテ農所ノ仕事ヲ非常ニ「セーブル」致シマシテ、婦人ニモ教養ノ途ヲ與ヘルコトガ必要ダ、斯ウ云フ御話ガアリマシタガ、洵ニ私ハ其ノ通りダト考ヘマス、消費生活ノ改善合理化ト云フモノモ、今後ノ技術指導ノ目標デナケレバナラナイ、其ノ上ニ今申シマサウニ低イ勞力ノミヲ以テ立ツコトハ出來マセヌデ、此ノ技術水準ノ高度化致シマシテ、輸出貿易ノ維持振興ヲ圖ルト云フコトガ、今後殘サレタ日本ノ最重要事項ト考ヘテ居リマス、ソコデ第三章第十二條ノ第三號ニアリマス研究ト云フ所デス、斯ウ云フ所ニ商工大臣ノ官房技術室ノ御配慮ガアルヤウデゴザイマスガ、後デ結構デゴザイマスカラ、之ヲ如何ニ具體化シテ商工協同組合下部方面ニマデ技術ノ滲透ガ出來ルカ、サウ云フ面ノ目標ヲ以テ致サレルノデアリマスガ、其ノ點ヲ御伺ヒ致シテ置キタイ、斯ウ思ツテ御伺ヒシテ居ル譯デアリマス、此ノ場デ御答辯願ヘマスレバ、結構デアリマスガ、

後政府委員ノ方カラ御答辯ト云フコトデアリマスレバ留保致シマス

○星島國務大臣 加藤君ノ仰セノヤウナ御趣旨ニ副フヤウニ之ヲ活用シテ、オウシテ進シテ行キタイト思ヒマス、此ノ所謂日本ノ技術水準ト云フモノガ、今マデハ所謂安イ愚イデアアツタ、是ガ良イ物ヲ安ク行ク爲ニハ、勞働賃金ヲシカ抑ヘテ、搾取のナコトヲ以テ行カナレバ、世界ニ負ケテシマツテ居ツタノデスガ、サリトテ今日日本ガ無贈ニ最低勞働賃金法ノ如キモノヲ決メテサウシテ出來タ物ガ高クテ惡ケレバ、是ハ問題ニナラス、世界ニ對スル商品ニナラスノデス、併シマデノ日本ノ生活水準ト云フモノハ、歐米ノ人ト較ベテ其ノ正味ハ安イト思ヒマス、ダカラ現在日本ノ内地ニ於テノ相當ノ社會生活ノ水準カラ行キマスレバ、十分ノ優遇ヲ致シテモ、私ハ競争ヲヤツテ行ケルモノト思ヒマス、併シ惡クシマス、無暗ニ權利思想バカリガ發達シマシテ、サウ云フ方面ハ大分高クナツタワ、出來ル物ハ惡クナツタワト云フコトニナツタノデハ、是ハ見返リ物カ、一應御聽カセ願ヒタイト思ヒマス

ツテ居リマス

○加藤(一)委員 ソコデ技術研究ノ關係デモウ一點商工大臣ニ御伺ヒ致シテ置キマスルガ、中間工業試驗組織ト云フモノヲ御作リニナル意思ガゴザイマスカドウカ、金ハ相當掛ルト思ヒマス、是ハ從來御案内ノ通り、日本ノ産業家ト云フモノハ安易ニ歐米カラ技術ノ導入ガ出來タ譯デアリマスガ、金ヲ拂ヘバ何デモ買ヘタト云フ時代ハモウ今日ハ過ギマシテ、日本ハ單獨ニ焦土カラ立上ルノデアリマスカラ、歐米ニ負ケナイヤウナ技術ヲ持ツコトガ必要ト考ヘマス、何デモ向フニアルカラ買ヘト云フ式デハ、金モ續キマセヌシ、日本人ノ頭デ不足ナ物ヲ有效ニ生産スルヤウナ技術ヲ習得シナケレバナラヌ、自分デ持ツト云フコトガ大切ナデアリマス、ソレニハ中間工業試驗組織ト云フモノガ私ハ一番必要ト考ヘル、如何ニ費用ガ掛リマセウトモ、軍備ヲ抛棄致シマシタ今日、日本ト致シマシテハ其ノ負擔ニ堪ヘルコトモ勿論考ヘ得ラレル次第デアリマス、サウ云フ方面ニ對スル御考ヘガアルカドウカ、一應御聽カセ願ヒタイト思ヒマス

別ニ、ソレノ研究所指導機關ト云フモノヲ設ケテ、之ヲ一ツ活用シテ行キタイ、斯様ニ思ツテ居ル譯デアリマス

○加藤(一)委員 ソレカラ先般本會議デ御伺ヒ致シマシタガ、商工大臣ニ御答ヘラ載ケヌデ洵ニ不滿デアツタノデアリマス、ソレハ「フオード」ノ經營方針ニ付デアリマス、今回ノ商工協同組合法案ニハ、最後ニ合理化ト云フコトガ書イテアリマス、合理化運動ト云フノハ、ヤハリ、日本ニ昭和四、五年頃輸入セラレマシタ「フオード」ノ合理化ノ線ニ沿ツテ——世界各國何處ヲ見マシテモ今採リ上ゲルベキ資料ハナカラウト思ヒマスノデ、アノ線デアリナナル御考ヘデアリマスカドウカ、其ノ點ヲ一ツ御明示戴キタイ

○星島國務大臣 加藤君ノ仰セガ、一ツノ「フオード」システムヲ、大量生産主義トカ、流れ作業主義デ人ヲ省クコトヲ中心トシタル行キ方ト云フ風ニ解釋致シマスナラバ、必ズシモ私ハサウハヤレナイト思フノデアリマスガ、サウ云フ意味デナシニ、個々ニ分レタ小工業デモ協同體ノ力デ以テ「フオード」システムニ負ケナイヤウナ、詰リ大量生産ニ負ケナイヤウナ——一ツノ工場デ一ツノ「シャフト」デ以テ車ヲ廻ハス譯ニハ參リマセヌケレドモ、ソレガ分レノニナツテ居リマシテモ、最終ノ所デハソレニ負ケナイ一ツノ行キ方ガアルダラウ、例ヘバ自轉車ヲ例ニ引キマスレバ「サドル」ハ「サドル」、或ハ「ハンドル」ハ「ハンドル」、銘々一ツノ三分レテ小サク生産シテ居リマシテモ、最後ニソレヲ集メテ總メルト云フヤウナ所ヲ、又一聯ノ地方的ニズツト散在シテ居ルモノヲ、最後ニ集メテ一ツノモノニ仕上ゲテ行クト云フヤ

ウナ、其ノ採リ入レ方ヲ「フオード」システムニ倣ヘバ、私ハアナタノ仰シヤルヤウニ、「フオード」システムノ良イ方面ヲ十分採リ入レルト云フヤウナコトハ出來ルト思フ、唯一ツノ大キナ工場ニ集メテ來テ、サウシテ多量ノ勞務者ヲ使フ代リニ非常ニ機械的ナ流れ作業トシテ、「ベルト」作業デズツト行クヤウナコトハ望メナイ、其ノ點ニ於テ若干ノ無理ガアル、ケレドモ日本デハ、一ツニ集ツマラナイデゾレノ家庭工業ニ近イヤウナモノデアラシテモ、其ノ間ニ一脈ノ連絡ガアレバ「フオード」ノ行キ方ニ負ケナイ埋メ合セガ出來ルダラウ、斯様ニ意味ニ於キマシテ、若シ出來レバ此ノ協同組合ヲサウ云フ方面ノ共同施設ニ利用シタラドウダラウカト云フ考ヘヲ持ツテ居ル譯デアリマス、必ズシモ丁度御尋ネニ「ピント」ガ合ハヌ答辯ガモ知レマセヌケレドモ、大體サウ云フ氣持ヲ以テ進ンダラ日本ノ爲ニナルダラウ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○加藤(一)委員 洵ニ結構ト考ヘマス、次ニ先般御伺ヒ致シマシタガ「ブレトン・ウツズ」協定デ、日本ガ國際協定ニ參加スルコトハ必然デスガ、其ノ時ニ金爲替本位制ヲ採擇スルコトハ考ヘラレマス、ソレデ現在採金政策ハドウヤツテオイデニナリマスカ、モウ一ツハ國ガ開ケマス時ニ一番重要ナノハ、日本ノ物價水準ダト思フ、是ハ商工大臣ニ御尋ネスルヨリ國務大臣ニ御伺ヒシタ方ガ宜イト思ヒマスガ、御答ヘゴザイマセヌケレバ、國務大臣ノ出席ヲ求メテ御答ヘヲ願ヒマス、物價水準ヲドノ線ニ置イテ國ヲ開ク御考ヘデアリマス、是ハ平價切下ゲ其ノ他ノ關係ガ相當出テ參ラウト思ヒマス

○星島國務大臣 ソレハ洵ニ大キナ難カシイ問題デ、ソレガ難カシイカラコソ、經濟安定本部會議ヲ作リ、サウシテ安定部長官ガ物價廳長官ヲ兼ねテ、表裏一體トナツテヤラウ、其ノ安定本部會議ニハ無論商工大臣、農林大臣モ入ツテ行ツテ、全體ガ綜合的ナル結論ヲ見出シタイ、斯様ナ譯デアリマス、併シソレニ臨ムベキ私ノ用意如何ト云フ御問ヒナラバ、若干ノ答ヘハシナケレバナラス、今回米ノ値ハマダ決定發表ニ至リマセヌ、或ハ六百圓ト云ヒ、五百五十圓ト云ヒ、サウシテ消費價格ハ四百圓ト云ヒ、四百五十圓ト云ヒテ居リマスガ、ソレヲ今ナゼソナニ練ツテ居リマスカ、ヤハリ結局ハ物價ノ總テノ水準ハ昔ニ返ツテ米ヲ基準トスル、其ノ次ハ工業デ云ヘバ石炭デ行キマスガ、先ツ米デ結構デアアル、先ツ米ノ値ヲ決メテ、ソレニ勞働賃金ヲ合セテ行ク、ソレニ生鮮食料品ヲ合セテ行ク、ソレニ織維品ヲ合セテ行ク、斯ウナルト此ノ米ヲ幾ラト決メルコトガ一ツノ根本デ、是ガ決マツタ後ヲ均ラシテ行ツテ、今ノ物價ノ凸凹ヲ直シテ行クベキデヤナカト、斯様ニ考ヘテ居リマス、私ハ若シ會議ガ開カレタラ、サウ云フ意見ヲ以テ行キタイ、斯ウ云フ意見ハ大體常識論トシテ、今ノ日本ノ情勢カラ云ヘバ、其ノ邊ヲ一ツノ標準トシテ凸凹ヲ直シテ行クヨリ手ガナイト思フ、ソコデ此ノ間モ生活保護法デ二百五十圓、アレハ假ニ米ノ値ヲ上ゲレバ、モウ直上ゲケレバナラス、ダカラ先ツ何カノ標準ヲ一ツ置イテ、ソコカラズツト全體ノ調子ヲ合

セテ行クト云フ所デ安定ヲサセタイト
云ヲヤウナ希望ヲ持ツテ居ル譯デアリ
マス、何レ米ガ其ノ一ツノ標準ニナリ
マスレバ、一ツサウ云フ風ナ政策ヲ執
ツテ商工省ノ物價方面ニ對スル對策モ
次イデ左様ニ決メテ行キタイ、斯様ニ
考ヘテ居リマス

ソレカラ金ハ今回豫算ヲ戴キマシタ
ヤウニ、一時金ガモウ一寸目先役ニ立
タナクナツタモノデスカラ、産金政策
ハ抛棄シテ居ツタヤウナ譯デスガ、マ
ダ今日ハ世界ノ貿易ハ物々交換デ始
金ハ必要トシナイノデアリマスアレド
モ、ソレノ日本ガ自由貿易ニナツタ
時分ニハ、何レニシマシテモ金ハ必要
デアリマスカラ、今回産金ノ獎勵ト云
ヒマスカ、從來ニ歸リマシテ、採鑛ノ
上ニ、或ハ色々ナ産金政策ノ上ニ、相
當ノ高率ナ補助金政策ヲ執リマシタノ
モ、其ノ金ヲ尊重スル意思カラヤツタ
ノデアリマシテ、相當豫算ヲ戴イテ居
ル譯デアリマス

○加藤(一)委員 今ノ物價水準ノ御考
ヘ方ハ海ニ御尤モト思ヒマスガ、此ノ
點ニ付キマシテハ何レ騰國務大臣ニモ
御伺ヒ致シタイト思ヒマスカラ、一應
騰國務大臣ノ質問ハ留保致シテ置キマ
ス

次ニ御伺ヒ致シタイコトハ、工業ノ
再建ニ當リマシテハ物資ノ配給ト云フ
コトガ非常ニ重要視セラレテ居ル譯デア
リマス、商工大臣ハ屢々御答辯ニ相成リ
マシタヤウニ、商工協同組合ニ對シ物
資ノ配給ヲ受ケルヤウニ、又物資ノ配
給ヲヤウナ機關ニ御指定ニナルヤ
ウニ、臨時物資需給調整法御話ニナ
ツテ居リマス、ソコデ問題ガアリマス
ノデ、私ハ一番自分デ分ツテ居リマス
ル石油ノ問題ニ付キマシテ御伺ヒ致シ

タイノ事アリマス、石油ノ配給ハ從
來アリマシタヤウニ、農山漁村ニ對ス
ル七萬三千「キロ」ノ一ツノ枠ハ其ノ儘
存置セラレマシテ配給ヲオヤリニナリ
マスカドウカ、之ヲ石油統制配給株式
會社ニ一元的ニオヤリニナルノカドウ
カ、ソレカラ切符ハ從來商工省ガ出シ
テ居ル切符モアリマスシ、警視廳ガ出
シテ居ル切符モアリマス、船舶運賃會
社前渡シヲシテ居ル切符モアリマス、
斯ウ云フ切符ヲ如何様ニシテ自今ハ處
理セラレル御方針デアルカ、又是ガハ
ツキリ致シマセヌト、戰時中ニ於キマ
スルヤウナ態タラカガ、石油面ニ於
キマシテ運搬モ成立チマセヌシ、産業
モ成立タナイ、斯ウ云フ結果ニナルノ
ガ必然デアリマス、一應其ノ點ヲ御伺
ヒ致シテ置キマス、ソレカラモウ一點
ハ商工大臣モ既ニ御案内ノ通り、大東
亞戰爭中ニ政府民間共ニ總力ヲ結集致
シマシテ、石油ノ増産計畫ヲ實施致シ
マシタ、何ト致シマシテモ三十萬「キ
ロ」シカ國產原油ハ出ナカッタノデア
リマス、所ガ現状ヲ見マスルト、戰時中
ニ設立致シマシタ日本石油初メト致
シマシテ、七ツノ石油會社ガ其ノ儘ニ
殘存致シテ居リマス、石油統制配給株
式會社ガアルト思ヒマスレバ、原油輸
送株式會社ガ生レテ居リマス、石油統
制配給株式會社ノ下ニハ一千二垂ント
スル配給諸社ガ又ツク付イテ居リマ
ス、而モ今日轉讓業者ガ復歸ヲセント
スル動向ガ、極メテ濃厚ニ動イテ居リ
マス、此ノ國產原油ノ現狀ヲ眺メマシ
テ、是ダケノ大キナ機構ヲ抱ヘテ、何
等政府ハ御施策ニナツテ居ナイヤウニ
見受ケマスルガ原油入手ノ確信モ御
付キニナリマシタカ、又製品入手ノ見
透シガ御付キニナリマシタカ、此ノ點

ヲ伺ツテ置キタイト思ヒマス
モウ「ツハ、前ノ質問ニ關聯致シマ
スルガ、今後ノ國內ノ配給組織ハ、從
來通りノ配給組織デオヤリニナルノ
カ、モット運送タ方向ノ配給組織ヲ御
採リニナリマスノカ、今日貿易廳ガ一
手ニ輸入ノ關係ヲヤツテ居ラレマスル
ガ、將來ハ民間ニモ石油ノ輸入ヲ御任
セニナル御意思ガアルカドウカ、斯ウ
云フ點ニ付キマシテ、石油ヲ中心ニ、
後ノ準備ニ付キマシテ、御伺ヒ致シテ
置キマス

○星島國務大臣 今月限り廢止ニナ
リマスル色々ナ統制會社等カラ見マ
シテ、各方面ノ配給機構或ハ色々ナ機
構ヲ廢止シナケレバナラヌト思ヒマ
ス、其ノ中デモ石油ノ關スルモノハ、
實ハ少シ複雑過ぎテ、只今仰セノヤウ
ニ現ニ既ニ手ヲ染メマシテ、二、三ノ
モノヲ或ハ合併シテ行クヤウナ施策ヲ
致シテ居リマス、私マダ詳細ノ報告モ
得テ居リマセヌノデ、何レ後程鐵山局
長カラ御答ヘサセタイト思ヒマス、殊
ニ今日ノ配給機構ハ確力ニ改善シナケ
レバナラヌ、空切符ガ多イト云フコト
モ聞イテ居リマスノデ、末端ノ方ハ協
同組合法ニ依ツテ旨ク行クノデハナイ
カト思ヒマスガ、中央ノ機關ガ少シ複
雜過ぎテ多岐ニ瓦ツテ居ル、而モ實力
ハ戰時中ノ如ク多量ニ購入モ出來ナイ
ノニ、非常ニ大キナ機構ニナツテ居ル
ト云フヤウナコトモアリマスノデ、既
ニ業者自ラモ目覺メ、是ハ何トカシタ
イト云フノデ、寄リノ相談ヲシテ、
或ル部分ハ既ニ纏メテ居ルヤウナ次第
デアリマス、殊ニ原油ノ輸入ニ付キ
マシテハ、是ハ既ニ懇請ノ手續ヲ執ツ
テ居リマシテ、從來日本ニ若干ト雖モ
製油ノ經驗ガアリ、技術ガアルノデア

リマス、或ハ鑿井ノ機械スラ造ツテ居
ル工場ガアリマスルカラ、輸入其ノモ
ノノ開始ハ出來ルダケヤツテ行カナケ
レバナラヌト思ヒマスルガ、原油ノ輸
入ヲ仰イテ之ヲ製油スル技術モ整ヒ、
ソレニ依ツテ副産物モ生ジ、又ソレニ
依ツテ大キナ意味ニ於ケル、所謂何ト
言ヒマスカ、將來ニ對スル對策モ私ハ
考ヘルベキ必要ガアルト思ヒマスノ
デ、旁々從來事業變前ニ原油ノ取引ヲシ
テ居ル「アメリカ」等ノ會社トモ若干ノ
連絡ヲ保チマシテ是非ハ元ニ復シテ
ヤラシタイ、併シソレニハ個々ノ今申
シマシタヤウナ複雜ナ色々ナ競争ニ依
リマシテ無駄ヲ致サセルヨリモ、若干
ノ統制ヲ加ヘテ、サウシテヤラス方ガ
宜イ、斯様ニ考ヘテ、寄リノ相談ヲ
致シテ居リマス、或ル程度マデ既ニ御
發表シテモ宜イト云フヤウナモノモア
ラウト思ヒマスルガ、ツイ私多忙ニシ
テマダ發表スルヤウナ材料ガアリマセ
ヌ、今此ノ委員會ノアル間ニ事務當局
カラ御答ヘ致サセルヤウニ致シマス

○加藤(一)委員 ソレカラ御伺ヒ致シ
マスルガ、中小工業ニ關係致シマシ
テ、中小商業ノ問題デアリマス、終戰
後軍需産業ノ解體ニ伴ヒマシテ、資本
ガ要リマセヌカラ、安易ナル露店商業
ガ非常ニ今日勃興致シマシタ、私ハ昭
和四五年頃ノ商業ノ氾濫期、而モアノ
當時ヨリモット慘メナ姿デ今後商賣人
ガ饑出スルト云フコトヲ豫想致シテ居
リマス、之ニ對スル政府ノ健全ナル指
導方針ハ、此ノ商工協同組合ニアルヤ
ウニ思ツテ居リマスガ、何ト致シマシ
テモ店舗ガ見付カリマセヌト健全ナル
商業ト云フモノハ育成出來ヌト思ヒマ
ス、都市デ申シマスルト、都市ノ復興

ハ朝鮮行ノ方ハ殆ト半減スルヤウニナ
ツタノデアリマスガ、併シ又一面鐵鋼
其ノ他ニ付キマシテ、粘結炭ガ要リマ
スノデ、約月產三萬「トン」程度ノモノ
ハ開採炭ノ輸入ヲ受ケルヤウナ話合ニ
ナツテ、今若干進ミツ、アルト同時
ニ、或ハモット此ノ量ヲ殖ヤシテ、新
聞ニモ出マシタヤウニ十萬「トン」程度
ノモノヲ粘結炭ヲ持ツテ來ル、又是ト
同數量ノモノヲ送ルト云フヤウナコト
モ話合ヲシツ、アルノデアリマシテ、
サウ云フコトハ今回ノ色々ナ石油政策
ノ實施ト共ニ、決シテ新聞ノ單ナル噂
デヤナクシテ、實際ニ進デ行カレル
ヤウニ多分圓滿ニ話合ガ進デ居ルモ
ノト思ツテ居リマス

ガ先決問題、家ヲ建ツテヤル、是ガナ
クシテハ全部露店商業へ走ルコトハ勿
論デアリマス、勿論斯ウ云フ面ニ對ス
ル經濟安定本部ノ企畫等モゴザイマセ
ウガ、商工大臣ト致サレマシテ如何ナ
ル御方針ヲ將來之ニ對處セラレテ、之
ヲ誘導セラレマスルカ、御漏ラシ戴キ
タイト思ヒ居リマス

○星島國務大臣 全ク仰セノ通りデア
リマシテ、唯閣下イケナイトバカリニ
彈壓スレバ、消費方面ニ於キマシテハ
非常ニ不便ノ感ヲ參ツテ、既ニ何ト
カ障礙等ノ所謂青空市場ハ或ル程度
デ非常ニ便利デアリカラ復活セヨトノ
聲サヘアルノデアリマス、ソコ當局
ト致シマシテモ本當ノ意味ノ商業ノ發
達ヲ冀ヒタイノデアリマスガ、唯是ガ
元ノ所謂共食生活ニ入ツタノデハ意味
ヲ成シマセヌノデ、農業會堂ノ生産
者ト直結シタ一ツノ市場ヲ設ケルト
カ、或ハ商人ノ協同組合ヲ作ツテ、一
定ノ地ニ「マーケット」ヲ持ツテ、而モ
ソレ等ガ間取引ヲシナイデ相當ナリ潤
得、一般ノ消費者カラモ非常ニ便利ナ
モノデアルト云フヤウナコトハ、十分
手ヲ打タナケレバイケン、或ハ所謂
露店商ノ如キモ組織化サレマシテ、サ
ウシテ非常ニ一面ニ於テ便宜ヲ與ヘテ
居リヤウナ譯デアリマスルン、又百貨
店等ノ如キガ順次復活致サレマシテ、
日用品ニ代ルベキモノハ十分ヤラス
云フヤウナ點ニ、商業方面ニ相當ノ施
策ヲ實行シナケレバナラス、斯様ニ思
フテ居ル譯デアリマス、之ニ對シマ
シテハ内務當局モ非常ナリ協力ヲ以テ、
各方面、地方長官ト十分ノ連絡ヲ保
チマシテ、所謂一面彈壓シテ闇市場ヲ
封ズルト共ニ、一面中小以下ノ商業、之
ヲ一ツモット能ク利用シナケレバナラ

ス、斯様ナ方面ニ意ヲ注イデ行キタ
イ、斯様ニ思フテ居ル譯デアリマス
○加藤(一)委員 最近將來ノ貿易ニ臨
ミマシテ三井、三菱ガ又暗躍シテ居ル
ヤウニ見受ケテ居リマスガ、國民ノ興
論ヲ聽イテ見マスト、誰ガヤリマシテ
モ同ジコトデアリマセウガ、今日一寸
聞エガ惡イヤウニ私ハ見受ケマス、石
油界ニ付キマシテハ特ニ其ノ感ヲ深ク
感得シテ居リマス、我々國民自體ノ中
ニ於キマシテ誰ガ戰爭犯罪人デア
ル、彼ガ追放者デア
ル、斯ウ云フコトヲ私
ハ言ヒタクアリマセヌ、是ハ日本人ノ
不幸デアリマスカラ御互ヒ日本國民
ト致シマシテ、戰爭ノ責任ヲ受ケルコ
トハ勿論私モ考ヘテ居リマス、併シナ
ガラ聯合軍ノ進駐ノ例ア、云フ制度ガ
執ラレマシテ我々ノ先輩ハ政界カラ追
ハレ、我々ノ他ノ官吏ハ官界カラ追
ハレ、或ハ軍人ハ全部處罰セラレ、追放
セラレル、斯ウ云フ狀況デアリマシ
テ、一應三菱、三井ト云フモノモ財界
カラ其ノ性格トシテ追放セラレタ以上
ハ、是ガ暗躍、又ハ表面ニ躍リ出マシ
タルト云フコトハ、將來ノ日本ノ再
建ニ對シマシテ相當惡影響ヲ及ボスヤ
ウニ自分ハ考ヘテ居リマス、此ノ點ニ
對シマシテ政府ハ如何様ナル御考ヘ
以テマシテ指導セラレテ居リマスカ、
取分ケ紙ノ統制株式會社ノ如キハ、三
井ノ暗躍ガ過去ニ於キマシテ甚大ナモ
ノガアリマシテ、アノ株式ト云フモノ
ハ何レ統制會社ノ解散ニ當リマシテハ、
相當私ハ問題ガアルト思フテ居リマス、
私モ紙ニ關係致シテ居リマス、一人デ
アリマスカラ、是ハ注視ノ限ヲ以テ見
テ居リマスガ、斯ウ云フ點ニモ相當難
色ガアル所デアリマスノデ、政府ノ御
考ヘラ戴クト同時ニ、日本人トシテ排

斥スル譯デア
ルゴザイマセヌガ、一應何
等カノ政策ヲ御執リニナルコトガ目下
ノ必要事項デハナナカ、斯ウ考ヘマシ
テ敢ヘテ商工大臣ノ御意思ヲ承ツデ置
ク譯デアリマス、率直ナ御答ヘラ戴キ
タイト思ヒマス

○星島國務大臣 三井、三菱ガ事變前
並ニ戰時中、色々ナ「エキスパート」ヲ
集メテ、サウシテ資本ノ力、色々ナ力ヲ
以テヤツテ居ツタノデアリマシテ、如
何ニ今日財界ガ解體セラレタト言ヒマ
シヌモ、其ノ部下ニ使ハレテ居ツタ人
達ハ「エキスパート」デアリ、經驗ヲ持
ツテ居ル譯デアリマスカラ、是等ノ人
ガ今後ノ仕事ノ爲ニ、三井ヲ名乗ラ
ズ、三菱ヲ名乗ラズニヤラレルコトハ
私ハ結構ナコトダト思ヒマス、ソレガ
ツイ經驗ガアリ、力ガアルモノデアリ
マスカラ、第三者カラ見マスト又三井
ガ復活シタ、三菱ガ復活シタト、多少
ノ誤解ヲサレル點モアルカト思ヒマ
ス、併シ中ニハ又本當ノ意味デ暗躍シ
テ居ル奴ガ「カモ知レヌ」是ハ仰セ
ノヤウニ監視シテ財界ノ復活ヲナサヌ
ヤウニ方法ヲ講ジナケレバナラス、併
シ「願コ、マデ」メス」ヲ入レタナラ
バ、其ノ人ハ或ハ三井ニ居ツタカモ
知レナイ、或ハ三菱ニ居ツタカモ知
ナイガ、三井財閥、三菱財閥ト云フモノ
ハ從來ノヤウニ銀行ヲ持チ、倉庫ヲ持
チ、商社ヲ持チ、製造會社ヲ持チ、運
送會社ヲ持ツト云フヤウナコトハ最早
行ハレヌコトデアリマス、而モソレハ
今回ノ解體ニ依リマシテ、全部ガ民主
的ナモノニナリマシタ時ニハ、是ハ日
本國民ト致シマシテ其ノ經驗ト力ヲ以
テ、出來ルダケ産業ノ復活ニ處シテ戴
キタイ、徒ラニ追放呼バハリマセヌデ
モ宜イダラウ、御趣旨ノヤウニ中ニハ

表面民主化シタ形デ、トモスレバ鋒先
ヲ現ハシテ從來ノ型ヲヤルカモ知レマ
セヌ、今ノ紙ノ例其ノ他色々ナ例ガア
ルト思ヒマスガ、ソレ等ニ對シマシテ
ハ、十分監視ノ限ヲ以テ行キタイ、斯
様ニ考ヘテ居リマス

○加藤(一)委員 結構ナ御答辯デ満足
致シマス、宜シク御願ヒシテ置キマ
ス、次ニ私ハ金融ノコトニ付テ御伺ヒ
シテ戴キタイノデアリマス、金融ハ從
來ノ如キ商業金融カラ生産金融ニ移ル
コトハ勿論必要ト考ヘマス、商工大臣
ハ之ニ對シマシテハ全面的ニ御同意ヲ得
ルモノト云フ前提ヲ置間ヲ致シタイ
ノデアリマス、從來日本ノ銀行ハ動モ
スレバ大企業ニ結託シマシテ、中小商
工業及ビ農業ノ金融ヲ等閑ニ附シテ來
タト云フヤウナ向キガアリマス、是モ
商工大臣ハ全幅御認メ戴ケルト考ヘマ
ス、ソコデ今度ノ復興金融公庫法案ヲ
議會ニ御提出ニナリマシテ、モウ既ニ
協賛ニナル職取リニナツテ居リマセウ
ガ、是ハ當面ノ三年ノ間ノ問題デアリ
マスカラ、之ニ依リマシテ金融ヲナサ
ルコトモ考ヘラレマスガ、エテシテ重
點産業ト云フ名目ニ隠レマシテ、大キ
イ方面ニ金融ガ廻ハルト云フコトハ、
日本ノ從來ノ經驗カラ微シテモ明カナ
所デアリマスカラ、私ハ重點産業ノ弊
害ヲ説ク積リハゴザイマセヌガ、サウ
云フ方面ニ出サズニ、ドレラブツタ切
リマシテモ、日本ノ産業ハ片チンバデ
シカ發達致サナイノデアリマス、全體
ノ綜合計畫ヲ御作り戴キマシテ、取分
ケ中小商業者ト農村方面ニ金融ガ圓
滑ニ廻ハリマスヤウニ御配慮シテ戴キ
マセウシ、商工中央金庫モアルヤウニ
聞イテ居リマスガ、ソレハソレトシ

テ、モット突進シテ、地ニ
ス銀行ヲ御作り願ヒマシテ、ソレト同
時ニ工業ノ地方分散化モ御作り戴ケマ
セウシ、又農業ノ格段ナル民主經營化
モオヤリ戴ケルヤウニ、取分ケ此ノ金
融方面ニ付テハ御高麗ヲ願ヒタイト私
ハ考ヘテ居リマス、政府ノ御考ヘハド
ノヤウニナツテ居リマセウカ、一應御
伺ヒ致シタイ次第デアリマス

○星島國務大臣 仰セノ通りデアリマ
シテ、今回ノ復興金融ノ如キハ取敢ズ
當面重點ノ方面ニ放出シナケレバナ
ラスト思ヒマスガ、併シ一般ノ中小商
工業其ノ他ニ付キマシテハ、ヤハリ金
融資本ノ考ヘカラ中々急ニ拂拭出來
モアリマスノデ、何トカ是ハ協同組合
等ノ一ツノ綜合機關ニ依リマシテ、商
工組合中央金庫等カラ流レテ行キマス
分別ヲシマシテ、實ハ此ノ議會ニモソ
レヲ提案シタイト思ヒマシタケレド
モ、其ノ相談ガ纏マラナカツタノデア
リマス、次ノ機會ニハ必ラズ——全體
カラ言ヒマスレバ集マル金ガアル譯デ
アリマスカラ、農業ノ方面カラ見マシ
テモサウデアリマスカラ、之ヲ再ビ小
サイ方面ニシテ、活用出來ルヤウニ
流シテ行キタイ、一應重點ノ金融ガ
一瓦リ濟ミマスレバ、今度財界ノ整理
ガ濟ンダ後ニ於テ、一應普通銀行ト云
フモノヲウント活用シナケレバナラ
ス、ソレヲ活用ヲサセテ一般ノ小金融
ヲ十分ヤラス、ソレカラハ商工組合ヲ
活用スルト云フヤウナ所ヘ伸バシテ行
カナケレバナラス、今回ノ復興金融ノ
分ハ特ニ早クアルコトト、サウシテ重
點ニヤラナケレバナラヌノデアリマス
ケレドモ、全體ガ重點々々ト云フコト
ニナツテ、一般ノ方ガ止マルヤウデバ

テ、モット突進シテ、地ニ
ス銀行ヲ御作り願ヒマシテ、ソレト同
時ニ工業ノ地方分散化モ御作り戴ケマ
セウシ、又農業ノ格段ナル民主經營化
モオヤリ戴ケルヤウニ、取分ケ此ノ金
融方面ニ付テハ御高麗ヲ願ヒタイト私
ハ考ヘテ居リマス、政府ノ御考ヘハド
ノヤウニナツテ居リマセウカ、一應御
伺ヒ致シタイ次第デアリマス

○星島國務大臣 仰セノ通りデアリマ
シテ、今回ノ復興金融ノ如キハ取敢ズ
當面重點ノ方面ニ放出シナケレバナ
ラスト思ヒマスガ、併シ一般ノ中小商
工業其ノ他ニ付キマシテハ、ヤハリ金
融資本ノ考ヘカラ中々急ニ拂拭出來
モアリマスノデ、何トカ是ハ協同組合
等ノ一ツノ綜合機關ニ依リマシテ、商
工組合中央金庫等カラ流レテ行キマス
分別ヲシマシテ、實ハ此ノ議會ニモソ
レヲ提案シタイト思ヒマシタケレド
モ、其ノ相談ガ纏マラナカツタノデア
リマス、次ノ機會ニハ必ラズ——全體
カラ言ヒマスレバ集マル金ガアル譯デ
アリマスカラ、農業ノ方面カラ見マシ
テモサウデアリマスカラ、之ヲ再ビ小
サイ方面ニシテ、活用出來ルヤウニ
流シテ行キタイ、一應重點ノ金融ガ
一瓦リ濟ミマスレバ、今度財界ノ整理
ガ濟ンダ後ニ於テ、一應普通銀行ト云
フモノヲウント活用シナケレバナラ
ス、ソレヲ活用ヲサセテ一般ノ小金融
ヲ十分ヤラス、ソレカラハ商工組合ヲ
活用スルト云フヤウナ所ヘ伸バシテ行
カナケレバナラス、今回ノ復興金融ノ
分ハ特ニ早クアルコトト、サウシテ重
點ニヤラナケレバナラヌノデアリマス
ケレドモ、全體ガ重點々々ト云フコト
ニナツテ、一般ノ方ガ止マルヤウデバ

全體ノ進行ヲ審シマスカラ、其ノ點ハ十分留意シテ行キタイト思ヒマス
○加藤(一)委員 金融問題等ニ付テハ、陸海軍大臣ト大蔵大臣トニ對スル質問ヲ留保致シマシテ次ニ移リマス、屢々私ハ斯ウ云フ席上デ政府ニ質問シテ居リマス、又御願ヒモ致シテ居リマスガ、統計ト云フモノガ、非常ニ日本國民ノ氣質ト致シマシテハ受ケガ悪いノデアリマス、ドウモ統計ト云フモノヲ能ク見ルト云フ習慣モ付イデ居リマセヌシ、之ヲ作ルト云フ習慣モ日本人ハ缺ケテ居ルヤウニ私ハ考ヘマス、取分ク消費統計ト云フモノガ日本ニ缺如致シテ居リマスノガ、今日ノアリノ儘ノ姿デアリマシテ、復興ノ關係ガ非常ニ遲レテ居リマス、斯ウ云フ面ニ私ハ其ノ大部分ノ責任ガアルヤウニ思受ケテ居リマス、ソコデ何ト致シマシテモ今回ノ再建ニ當リマシテハ、消費統計式ノ統計資料ヲ整備スルコトガ目下ノ急務ト考ヘマスノデ、政府ハ其ノ御意思ガアルカドウカ、之ヲ伺ヒマス、勿論國務大臣モ、科學的統計資料ニ基礎ヲ置イタ今後ノ復興ヲアルト云フオ題目ヲ唱ヘテ居リマスガ、ソレモ結構デアリマス、併シマダ商工大臣カラ其ノ御考ヘヲ聽イテ居リマセヌノデ、商工大臣ノ御考ヘモ一應承ツテ置キタイ、勿論各方面カラ資料ガ出揃ヒマセヌト、如何ニ安定本部ガ大キナコトヲ申シマシテモ、一ツモ揃ハスコトハ明カデアリマス、一應御伺ヒ致シマス
ソレト並行致シマシテ、度量衡ノ統制ト規格統一ト云フコトモ、私ハ最も必要ダト考ヘテ居リマス、度量衡ノ關係ニ於キマシテハ、此ノ間モ我々ノ先輩ノ北サシカラ御話ヲ承リマシテ、私ハ成程立派ナ御考ヘデアルト感心致シ

マシタガ、何モ十進法デ行ク必要ハナシ、日本ノ十二進法モ宜シイ、十二ノ配分ハ二デ割レバ六ニナル、六ノ配列モアレバ、三ノ配列モアル、四ノ配列モアル、非常ニ便利ナ數字デス、千支モ十二デ出來テ居リマスシ、一年モ十二箇月デアル、十進法ニ依ルノミガ宜イノデハナクテ、日本式ノ十二進法モ宜シイ、斯ウ云フ點ハアリマスルガ、一應私ハ或ル部面ニ付キマシテハ度量衡ノ統一モ必要ト考ヘテ居リマス、又是ガゴザイマセヌト、第三章事業ノ十二條ニ書イテアリマスル検査ト云フコトガ區々ニナリマシテ、旨ク成果ガ收マラスト云フコトモ考ヘテ居リマス、從來日本ノ工場其ノ他ノ検査制度ノ不備ナル點モ、此ノ度量衡ノ統一ガナカッタコトニ基因スルコト大半デアルトモ私ハ考ヘテ居リマスノデ、此ノ間ノ關係ハ如何様ニ御考ヘニナツテ居リマスルカ、御答辭戴キタイノデアリマス
○星島國務大臣 統計ノコトニ付キマシテハ全ク仰セノ通りデアリマス、殊ニ私ハ今回進駐軍ガ日本ニ見エテカラ以來ト云フモノハ、非常ニ其ノコトヲ教ヘラレノデアリマシテ、何カニツケテ今マデ日本ノ統計ガ成ツテナイ、尤モ金モ掛ケテナイシ、人手モ掛ケテ居ナカッタガ、殊ニ日本人全體ガ斯ウ云フコト今マデ興味ガナク、訓練ガナインカ、或ハ偽リヲ言ヒツケテ居ルノカ、本當ノコトガ分ラヌト云フコトハ残念デアリマス、的ヲ外レテ行クト云フヤウナコトハ、正確ナ統計ガナイカラデアリマス、ソコデ今回商工省ニ於キマシテハ統計局ヲ設ケテ、少クトモ産業一般ニ關スル凡スル統計ヲシテ、其ノ數字ヲ以テ安定本部ノ方ニ材料ヲ

渡シテ、ソコデ本當ノ最後ノ審議ヲサスト去フヤウナ資料ヲ十分ヤラネバナラス、殊ニ内務省ノ國土計畫ノヤウナモノハ、本當ノ統計ヲ以テ又安定本部ヲ助ケルト云フコトデ行クベキデ、取敢ス今ノ御趣旨ニ依ツテ商工省内ニモ統計ニ關スル一局ヲ設ケテ行キタイ、斯程ナ熱意ヲ持ツテ居ルノデアリマス、併シ是トテモ非常ニ金ト人ヲ要スルノデアリマシテ、末端ノ色々ナ組合等ノ助力ヲ仰ガネバ到底出來マセヌ、一ツノ組織協會デアリデモ、私察スルニ、一年ニ九百人カノ人モ全體デハ使ツテ居リマセウジ、検査部ヲ入レ、バモツト多イデセウガ、金高ニシテモ大變ナモノデス、之ヲ今般維局ニ入レテ一機構ニシタ所デ、迎モソレハ大キナ豫算ニナリマスカラ、現在ノ日本ノ財政デハ許サレマセヌ、ソコデ何トカ人モ殖ヤシテ貰ヒ、金モ殖ヤシテ貰ツテ、サウシテ一ツ相當ナ成績ヲ擧ゲテ見タイ、各省トモソレヲヤツテ居リ、ソレヲ集合セタモノニ大キナ一ツノ安定本部ヲ中心ニ各省ノ實際ノ統計ヲ以テ、最後ノ立案ヲスルコトニナレバ、間違ヒノナイモノガ出來ルト思ヒマス、是非御趣旨ニ副フヤウニヤツテ行キタイト思ヒマス
度量衡ノ問題ハ、是ハ是カラ一ツ調査會ヲ設ケテ、最後ノ結論ヲ見出スヤウニナラダラウト思ヒマシ、御説ノ通りデアリマス、大體私ハ「メートル」法一本デ行ツテ宜イト思ヒマスガ、既ニ尺貫法ノ問題ガ議會デ決議サレテ居リマスカラ、ウツカリ手モ付ケラレマセヌケレドモ、現ニ三角大體御趣旨ニ副フヤウニヤツテ行クベキダ、斯程ニ考ヘテ居リマス
○加藤(一)委員 此ノ點ニ付キマシテ

モウ一點ダケ私ノ御願ヒヲ政府ニ申シテ置キマス、終戦後日本ノ官廳カラ「マツメーサー」司令部ノ方ニ出シマシタ資料ガ、各省トモ區々デアリマシテ、例ヘバ肥料ノ問題等ノ如キ、農林省ノ出シタモノト商工省ノ出シタモノト食糧ヒガアツタヤウニ聞イテ居リマス、又業者ガ出シタモノト、上級官廳ノ商工省ノ出シタモノト食糧ヒガアル、又運動スル面ニ於キマシテキ、各行人ニ依ツテ資料ノ出シタ方ガ違フ、日本政府並ニ日本國民ハ何ヲシテ居ルカト言ツテ、當時肥料問題ガ非常ニ喧シイ時デアリマシタガ、聯合軍ノ方デ受納シナカッタ私ハ聞イテ居ルノデアリマス、左様ナコトガナイヤウニ、日本國ノ資料ハ、商工大臣ガ御出ニナリマセウガ、農林大臣ガ御出シナリマセウガ、誰ガ持ツテ參リマセウガ、上ハ總理大臣カラ、下ハ車夫馬丁ノ輩ニ至リマスマデ、誰ガ使ヒ致シマシテモ、同一ノ資料ヲ以テ同一ノコトガ説明出來ル、斯ウ云フノガ日本ノ産業ノ復興並ニ日本人ノ本領ヲ、各方面ニ十分知悉セシメル所以デアルト考ヘテ居リマス、自今ハ、今商工大臣御説示ニナリマシタ通り、各省トモ統計局ノ新設ノ用意ガアルヤニ聞クノデアリマスガ、此ノ非常時乘切リノ場合ニノミ、安定本部ヲ中心トシテ其ノ資料ヲ活カスコトナク、「ノルマル」ナ狀態ニナリマシテモ、日本全體ニ互リマシテ、例ヘバ鐵ノ問題ハ商工省一本、其ノ鐵ノ資料ヲ持ツテ參リマスナラバ、如何様ナル場所ニ何人ガ參リマシテモ證明ガ出來ル、斯ウ云フ底ノ資料ヲ一ツ御趣旨戴キヤウニ希望致シマス
最後ニモウ一點デアリマスガ、商工協同組合ト、商工經濟會法廢止ニ伴ヒ

マシテ新タニ設立ヲ決定セラレテ居リマス商工經濟會議所デスカ、是ノ思想ガ一貫シテ居ナイヤウニ自分ハ考ヘマス、先般商工省ノ方カラ御配り戴キマシタ商工會議所ノ定款例ヲ見マス、戰時中ノ指導者原理ト云フモノハ拂拭サレテ居ルヤウニ思ツテ居リマス、ソレ以前ノ商工會議所ノ指導精神ト云フモノハ全部今度ノ定款例ニハ盛り込マレテ居リマス、所ガ今朝何ツテ居リマス、此ノ商工協同組合ト云フハ、今日一種變ツタ指導原理、協同原理ニ依ツテ生レ出タヤウニ私ハ感得致シタノデアリマス、ソコデ私ハ兩者ノ間ニ思想的混淆ガアルノデハナカラウカ、一口ニ民主主義、民主主義ト申サレマスガ、此ノ二ツノ會議所、或ハ組合ニ於キマシテモ、既ニ民主主義ノ行キ方ニ於テ相當ノ食糧ヒガアリマス、而モ實質上之ヲ眺メマス、商務局長ガ以前御話ニナリマシタ通り、此ノ商工會會議所ハ大企業業ノ入り得ル、中小商工業業ノ入ル、斯ウ云フ仰セデアリマス、左様致シマスレバ、其ノ間ニ利害得失ハ自然的ニ起キテ來ル譯デス、其ノ利害得失ヲ圓滿ニ調整スルノガ會議所ノ使命デアルト申サレ、バソレマデアル、觀ツテ商工協同組合ヲ眺メマス、是ハ中小商工業業者ガ寄ツテタツテ居リマスカラ、日本全國各地域ニ設ケラレマス商工會會議所ト、此ノ組合ト「メンバー」ノ上ニ於テ性格ノ相違ガ出來テ參リマス、同じ中小商工業者ガ、片ヤ組合、片ヤ會議所ニ入ツテ、指導者原理ノ違フモノノ運當ヲ受ケルノデアリマスカラ、同じヤウナ民主主義ト云フモノデ、中小工業ガ將來伸ビテ行ク譯ニハ參ラスト思フ、ソコ

デ末端ニ於キマシテハ民主主義ノ履キ
違ヒガ起ツテ参リマセウシ、又政策遂
行ノ政府ニ於キマシテモ、將來民主主
義ノ勵行ノ上ニ於キマシテ、相反スル
二ツノ傾向ガ生レテ來ヌトモ限ラヌト
思フ、而モ今尙工大臣ガ御指摘ニナリ
マシタ通り、將來ハ、又現狀ニ於キマ
シテモ、農村方面ノ關係ト組合ハ密接
ニ連繫シテ行カナケレバナラヌト云フ
御言葉ガ只今出タ譯デアリマス、ソレ
カラ考ヘテ見マス、農林省方面ハ、
農山漁村ノ關係ニ於キマシテハ、協同
組合一本デ蓋リ潰シテ行カウト云フ考
ヘヲ持ツテ居ルヤウデアリマスガ、其
ノ間ニ於キマシテモ會議所方面トノ摩
擦相剋ガ、中小商工業大企業トノ間ニ
起キテ來ルト考ヘル、此ノ點ニ付キマ
シテ御考ヘガゴザイマシタラ商工大臣
ノ口カラ我々ニ御明示戴キマシテ、誤
ラヌヤ、ニシテ戴キタイト考ヘマス
○星島國務大臣 前ノ統計ノ御注意ハ
謹ンデ承リマス、本當ニ新シイ政治ノ
基礎トシテ、各統計ヲ一ツ本調子ニ經
メテ、ソコカラ發足シタ企畫ヲヤツテ
行キタイ、斯様ニ考ヘマシテ、是ハ安
定本部ニ於キマシテモ何レ其ノ積リデ
準備ヲサレテ居ルコト思ヒマス、殊
ニ産業省デアアル商工省ハ、十分サウ云
フ方面ニ、此ノ際統計局サヘモ設ケ
テヤラウト云フデアリマスカラ、御
趣旨ニ副ツテヤリタイと思ヒマス、今
ノ商工會議所ト協同組合ノ方ノコトニ
付キマシテハ、一ツ十分圓滑ニ旨キヤ
ツテ行キタイ、殊ニ商工會議所ノ中ヘ
モ、協同組合ヲ代表セラルモノガ旨
ク入レルヤウナ調子ニ持ツテ行キタイ
ト去フヤウナコトモ考ヘテ居リマス
ガ、是ハ立案ノ時ニ關係シテ居リマシ
テ課長ヨリ詳シク説明サセタイと思ヒ

マス
○小出政府委員 御話ノ通り、商工經
濟會法ハ今度廢止ニナリマシテ、其ノ
後ニ社團法人ノ商工會議所ヲ作ル、斯
ウ云フ豫定ニナツテ居リマシテ、既
ニ本省ニ於テ許可致シタ會議所モボ
ツボツ出來テ居ル譯デアリマスガ、此
ノ會議所ト今度ノ協同組合トノ間ニ、
何カ考ヘ方ニ矛盾混濁ガアルノデハナ
イカ、斯ウ云フ御話ノヤウデアリマス、
御承知ノヤウニ商工協同組合ハ一ツノ
事業體デアリマシテ、利害關係ノ密接
ナ中小商工業者ガ集マリマシテ、お互
ニ協同デ經濟事業ヲシテ行ク、一ツノ
資本金ヲ以テ事業ヲ運營シテ行ク、一
種ノ事業團體デアリマス、之ニ對シテ
商工會議所ハ、都市ナリ府縣ノ一定ノ
地域ヲ單位トシテ、其ノ地域ノ中ニア
ル複雜ナ商工業者、或ハソレ等ノ團體
ヲ綜合致シマシタ一ツノ地域團體デア
リマシテ、根本的ニ其ノ性質ガ違フテ
居ル譯デアリマス、併シナガラ何レ
ニシマシテモ、商工協同組合ノ組織運
營ハ、經濟民主化ノ線ニ從ヒマシテ、
純然タル所謂民主的ニ組織サレタ團體
ト云フコトニナリマス、商工會議所
ノ方モ、御承知ノ通り全ク加入脱退等
モ自由デアリ、經費ノ強制徵收等モ致
サナク極メテ民主的ナ團體ニ、今般政
組サレタ譯デアリマシテ、何レモ經濟
民主化ノ線ニ沿ツテ形造ラレテ居ルト
云フ點ニ於テハ、兩者ノ間ニ何等矛盾
ハナイト思ヒマス、殊ニ會議所ト協同
組合トノ關係ニナリマス、會議所ノ
中ニハ大企業者モ會員トシテ入り、中
小商工業者モ會員トシテ入り譯デアリ
マスガ、其ノ場合ニ中小商工業者ガ單
獨デ加入スルコトガ、色々經費等ノ點
カラ困難デアルヤウナ場合ニハ、協同

組合ト云フ組合單位デ團體加入スルコ
トモ可能デアリマセウシ、其ノ間ノ調
整ハ十分出來ルヤウニ考ヘテ居リマ
ス、何ト申シマシテモ、商工業者ノ團體
ハ農業關係ト違ヒマシテ單純デハゴザ
イマセヌ、農業ノヤウニ一定ノ地域ニ
即シタ單純ナ形態ノ業界トハ違ヒマシ
テ、色々ナ複雜ナ形態ノモノガゴザイ
マシテ、或ハ組合ガアリ、或ハ大企業者
ガアリ、或ハ任意團體モアルシ、乃至
ハ貿易關係モゴザイマス、關聯スル
金融關係モアリマス、要スルニ、
一地域ヲ單位トシテ、其ノ地域ノ内ニ
於ケル商工業界全體ノ綜合的ナ意見ヲ
反映スル、是ガ商工會議所デアリマ
シテ、其ノ中ノ或ル一ツノ構成「メン
バー」トシテ協同組合ト云フモノガ存
在シ得ル譯デアリマス、事業團體ト地
域團體ト云フモノノ關係ニナツテ居リ
マスルノデ、サウ云フヤウナ關係ニ於
テ、業者ノ間ニハ何種摩擦スル所ナク
運營ガ出來ル、斯様ニ考ヘテ居リマス
○加藤(一)委員 丁致シマシタ、是
デ質問ヲ打切りマスガ、條文ニ付キマ
シテハ後デ御修正ヲ願ハナケレバナラ
ヌヤウナ箇所モゴザイマセウカラ、ソ
レハ又此ノ機會ニ譲リマシテ質問ヲ打切
リマス、唯最後ニモウ一點ダケ商工大
臣ニ御願ヒガゴザイマス、此ノ席デ洵
ニ恐縮デアリマスガ、靜岡縣靜岡郡
ニ輕金屬ノ窒素肥料ノ工場ノ新設ノ件
デゴザイマス、此ノ點ハ如何様ニ相成
ツテ居リマセウカ、肥料需給逼迫ノ今
日非常ニ緊急問題デアルト考ヘマスノ
デ、一應最後ニ御同致シテ置キタイ
○星島國務大臣 肥料ノ増産ニ付キマ
シテハ、從來ノ戰爭中ノ工場ヲ轉換シ
テ増産ヲ圖リタイ、斯様ニ考ヘテ調査
ヲ致シテ居ルデアリマス、全體ノ資

材等ノ配給ノ關係上、各方面ノ調査ヲ
致シテ居リマシテ、今仰セノ蒲原ノ如
キモ其ノ候補ノ一ツニ加ハツテ居ルコ
トハ確カデゴザイマスガ、未ダ最後ノ
結論ニハ達シテ居リマセヌ、ソコヘ持
ツテ來テ、今回硫酸ノ工場ノ非常ニ大キ
ナ設備ノ撤去ノ指令ガアリマシタノ
デ、ソレヤ是レヤ今非常ニ研究ヲ致
シテ、全體ノ肥料生産ニ逆潮ナカラシ
メンコトヲ期シテ居ルデアリマス
ガ、今此處デ具體的ニ蒲原ノ工場ハド
ウナルト云フコトヲ、御答ヘ申上グル
コトノ出來ナイコトヲ遺憾トスル次第
デアリマス
○加藤(一)委員 是デ終リマス
○塚田委員長代理 原健三郎君
○原(健)委員 大分時間ガ經ツテ居リ
マス、成ベク簡單ニ御質問致シキ
ス、各條文ニ付テハ又後日ノ機會ニ譲
リマシテ、總體的ナコトニ付キマシテ
數點御同致シテ置キタイと思ヒマ
ス、一體、協同組合主義ハ資本主義ニ
立ツモノデアルノカ、或ハ社會主義ニ
立ツモノデアルノカ、資本主義ヲ肯定
スルモノカ否定スルモノカ、或ハ修正
スルモノカ、更ニ、本法案ハ商工業者
ノ協同組合ヲ總括スルモノデアアルガ、
工業ノ場合ハ別トシマシテモ、本來利
潤ヲ否定スル協同組合主義ヲ商業者ニ
適用シテ、果シテ矛盾ニ陷ルコトハナ
イカ、斯ウ云フ觀點カラ協同組合ト云
フモノノ本質ニ付テ御答辯ヲ承リタイ
デアリマス
○吉田(博)政府委員 今回ノ商工協
同組合ハ特別ノ主義ヲ標榜シテ居ルモノ
デハゴザイマセヌ、附則ニモアリマス
ルヤウニ、現在ノ商工組合法ニ依リマ
ス共同施設組合ヲ、其ノ儘今度ノ協同
組合ニ看做スト云フ規定ガゴザイマ

ス、是ナドモ一ツノ例デア
日マデノ實情ニ即シマシテ、現在アリ
ノ儘ノ産業ノ上ニ、一ツノ協同事業ト
云フモノデ、中小商工業ノ經營ノ合理
化、事業ノ刷新ヲ圖ツテ行カウト云フ
點ガ要點デゴザイマシテ、之ニ依リマ
シテ社會主義化ヲ圖ルトカ、或ハ資本
主義ヲ維持スルカ、或ハ資本主義ノ
缺點ヲ修正シテ行クト云ツタヤウナ、
特別ノ主義ヲ持ツテ居ラヌデゴザイ
マス、又營利ノ目的トシナイ協同組合
主義ニ依ツテ、商工業者ノ組合ヲ作ル
コトハ矛盾ヲ生ジテ居ルノデハナカラ
ウカ、斯ウ云フ御質問デアリマス
ガ、是モヤハリ商工業者ノ中ノ事業ノ
一部ヲ共同致スコトニ依リマシテ、中
小ノ商工業者ノ持ツテ居ル不利益ナ點
ヲ補ツテ行クト云フ點ニ主眼ガアルノ
デゴザイマシテ、總テ事業ノ一部ヲ共
同ニスルコトニ依ツテ、中小商工業者
ガソレノ獨立シテ仕事スル形デハ
非常ニ脆弱デアルノデ、ソレヲ強化シ
テ行カウト云フ點デアリマス、能ク賢
ヘニアリマスガ、一本ノ矢ハ折レ易イ
ガ、數本ヲ束ネレバ強クナルト云フ一
般ノ原則ニ依ツテ、多數ノモノガ相寄
リ相益ゲテ、其ノ共同ノ力ヲ以テ事業
界ノ刷新ヲ圖ツテ行ク、サウシテ延イ
テハ廣クハ日本産業ノ改善ニ貢獻ヲシ
テ行ク、是ガ此ノ組合制度ノ眼目デゴ
ザイマス
○原(健)委員 一定ノサウ云フ主義ニ
拘泥シナイト云フコトハ分ツタノデア
リマス、ソレデ第一條ニアリマスヤウ
ニ、組合員ノ事業ノ經營ノ合理化ヲ圖
ル爲ニ、斯ウ云フ商工協同組合ヲ設立
スルト云フコトニナルノデアリナラバ、
協同組合ナンカト云フ非常ニ紛ラハシ
イ名前ヲ付ケル必要ハナイ、唯商工組

合テ結構デハナイカト思フノデスガ、其ノ點ハ如何デスカ

○吉田(補)政府委員 仰ゼノ通り言葉ノ上ニハソレヲ付ケナケレバナラヌト云フ理由ハナイノデゴザイマスガ、從來中小商工業ニ關シマスル色々ナ組合制度ガ出來テ多シマシテ、幾多ノ變遷ヲ經テ來タノデアリマス、今度ノ新シイ組合モ或ハ普通ノ商工組合ト云フ名前デモ宜カッタノカ知レマセムガ、從來ノ商工組合トハ内容ガ多少違ヒマシテ、所謂「コーペラチオン」協同ノ力ニ依ツテ立ツテ行ク仕事ダケニナリマシタ、從來ノ組合ハ色々ナ統制事業等モ加ヘマシテ、一ツノ業界ガ改善ノ仕事ニヤツテ居ッタノデアリマスガ、其ノ内容ガ大分變リマシタ機會ニ、新シイ組合デアルト云フ印象ヲ明確ニ致シマス爲ニ、名前モ茲ニ其ノ本質ヲ現ハシマシテ、共同事業、共同施設ト云フモノニ本質ガアリマス點ヲ、名前ノ上ニモ擧ゲマシテ、茲ニ協同組合ト云フ名稱ヲ用ヒタ謹デゴザイマス

○原(健)委員 ドウモ協同ト云フ名前ヲ用ヒタ理由ノ根據ガ薄弱ナルコトヲ痛感スル者デアリマス、ソレハソレト致シマシテ、次ニ私ハ本組合制度ハ、今後ノ中小商工業對策ノ一ツトシテ重要ナ役割ヲ持ツモノデアリマスガ、此ノ制度ダケデハ中小商工業ノ問題ノ總テガ解決セザルコトハ無論言フマデモナイノデアリマス、ソレデ此ノ制度ト併セテ行フベキ施策ハ多クアルト思フノデアリマス、一體政府ハ今後我が國産業ノ基礎デアアル中小商工業對策ヲ、ドウ云フ構圖ニ基イテ推進ショウトスルノデアアルカ、ソレヲ伺ヒタイ、商工大臣其ノ他カラ色々ノ機會ニ聽イタノデアリマスガ、中小商工業ヲ盛ンシ

タイト云フ掛聲トカ熱意ハ、度々聽イテ分ツテ居ルノデアリマス、サウ云フ熱意ヲ聽クノデハナクテ、一體中小商工業ヲ振興ショウト云フ對策ノ構圖如何ト云フコトヲ御尋ネシタイノデアリマス

○吉田(補)政府委員 中小商工業ノ對策ト云フモノハ色々アルノデゴザイマス、我が國ノ産業ノ基礎ハ中小商工業デゴザイマスルガ、其ノ數ガ非常ニ多イコト、又其ノ組織ガ非常ニ脆弱ナ組織ト申シマスカ、其ノ規模ガ非常ニ脆弱ナ形ヲ執ツテ居リマス等ニ依リマシテ、中小商工業ニ對シテナスベキ對策ト云フモノハ實ニ澤山考ヘラレルノデゴザイマス、一番根本ノモノハ、只今モ仰セノ通り組織化ノ問題デゴザイマシテ、商工協同組合法ヲ作リマス所以ガ茲ニアルノデゴザイマス、只今申シマシタヤウニ脆弱ナ形ノ小サイ企業ト云フモノモ、或ル程度之ヲ束ネテ、組織化致シマスルコトニ依ツテ強度ヲ増スト云フコトニナリマスノデ、中小商工業ノ新タナル施設ト云フコトヲ考ヘマス上ニ於テ、ドウシテモ組織化ラデゴザイマス、數ノ多イモノ、脆弱ナモノヲ救ヒ、一々別ナ施設ヲスルト云フコトヲ考ヘマシテモ實行ガ不可能デアリマス、サウ云フ意味カラ致シマシテ、先ツ小サイ方々ハ一ツノ組合組織化ラシテ戴キマシテ、其ノ上ニ色々ナ仕事ヲ考ヘテ行ク、中小商工業ノ對策ヲ考ヘテ行クト云フコトガ先ツ基礎ナル譯デゴザイマスガ、其ノ一ノ問題ト致シマシテハ、先ツ金融ノ問題デアラウト考ヘマス

(塚田委員長代理退席、委員長著席)

先程商工大臣ハ復興金融庫ノ問題ニ御觸レニナッタノデゴザイマスガ、今回ノ補償打切ノ措置法ニ依リマシテ、金融ニ關シマスル方面ハ、大キナ商工業モ勿論デゴザイマスルガ、中小商工業ガ非常ニ打撃ヲ受ケテ居リマス、之ヲ回復致シマスル爲ニハ、ドウシテモ金融ノ途ヲ中小商工業ニ付ケテ上ゲネバイラヌノデアリマス、ト云ヒマシテモ數ノ多イ中小商工業ノ金融ヲ付ケルコトハ不可能デゴザイマスカラ、之ヲ商工協同組合ト云フ組合ニ對シマシテ金融ヲ付ケテ行クコトガ、一番一般的事柄デアルト考ヘマシテ、政府ハ復興金融庫法ヲ施行シ依リマシテ、商工組合中央金融庫全國各本店支店全部ニ代理業ヲ認メテ貰ヒマシテ、復興資金之ヲ通ジテ融通スル途ヲ開イタノデゴザイマス、此ノ補償打切ニ伴ヒマシテ生ジマシタ金融機關ノ預金ノ封鎖等ニ對シマスル爲ニ、新シイ事業資金ハ、總テ復興金融庫ヲ通ジテ貸シヤウナ譯デアリマスガ、此ノ資金ノ流れ途ヲ、ヤハリ商工組合中央金融庫ノ本店ヲ通ジマシテ、組合ノ方ヘ通ズル、是ガ一番ノ根本ノ問題デゴザイマス、將來ノ問題ト致シマシテハ先程加藤委員カラノ御質問モアリマシタガ、此ノ復興金融庫ノミナラズ、各種ノ金融機關ト云フモノヲ組合ニ直結致シマシテ、ソコニ自然ニ金融ガ流れテ行クト云フ途ヲ作りマスヤウニ、指導シテ行カネバナラヌモノト考ヘテ居リマス

其ノ次ニ考ヘラレマスルコトハ、經營ノ内容ノ合理化ノ問題デゴザイマス、是ハ商工協同組合ノ本來ノ仕事デアリマスガ、原材料ノ共同購入、或ハ

製品ノ共同販賣、或ハ或ル工程ノ一部ヲ共同設備ニ依リマシテ共同ニスル、斯ウ云フヤウナ共同施設ノ設置デゴザイマス、之ニ付テハ從來トモ斯ウ云フモノヲ作りマス場合ニハ、補助金或ハ低利資金等ヲ融通シテ居ッタノデアリマスガ、今後ハ斯ウ云フ補助金制度ヲ設ケルコトガ色々ナ方面ノ影響カラ致シマシテ困難デゴザイマスルノデ、政府ハ之ニ代ルベキ何等カノ施策ヲ講ジマシテ、組合等ニ於テサウ云フ施設ヲ設ケマスル場合ノ援助ヲ行クコトガ必要ダラウト考ヘテ居リマス、一應出來ルナラバ組合ガ金融ヲ受ケマシテ、サウ云フ設備ヲ作ルコトガ望マシイノデゴザイマスルガ、サウ云フコトノ事情ガ許ジマセヌ場合ニ於テハ、又特ニ最近ノ色々ナ物價高ノ見地カラ致シマスルコト、サウ云フモノガ非常ニ困難デアアル今日ニ於キマシテハ、何カニ代ルベキモノヲ設ケマシテ、中小商工業ノ經營上ノ合理化ヲ圖リ得ル設備ヲ作ツテ行クコト云フコトニ、重シク思イテ行カネバナラヌモノト考ヘテ居リマス、是等ノ仕事ハ成ベク早イ機會ニ之ヲ具體化致シマシテ、議會ノ協賛ヲ得テ實行ニ移シタイト考ヘテ居ラデゴザイマス

次ニ其ノ技術ノ向上ノ問題デゴザイマス、是ハ御承知ノヤウニ中小商工業ハソレ自體貧弱ナ經營ノ内容デゴザイマスノデ、宜イ技術者ヲ雇入レマシテ指導ヲ仰グト云フコトモ困難デゴザイマスルシ、又資本ガ少イ關係デ宜イ設備ヲ作ルト云フコトモ困難デゴザイマス、サウ云フヤウナ狀況内ラ致シマシテ、ドウモ自分デ適當ナ「デザイン」ヲ考ヘテ、新シイ商品ヲ作ツテ行クト云ッタヤウナコトモ、非常ニ今マデハ後

レテ居ッタノデゴザイマシテ、是ガ將來各種産業等ニ及ボス影響モ、随分中小工業トシテハ不利ヲ立場デアルト考ヘマスノデ、今後ハ組合等ニ於キマシテ、適當ナ技術者ノ指導ヲ受ケルヤウナコトヲ考ヘテ行キタイト思ツテ居リマス、幸ヒ戰時中ニ相當我が國ノ機械工業等ハ高度ノ進歩ヲ致シマシテ、是等ノ適當ナ技術者ガ、今日巷ニ隨レルト申シテハ少シ多過ぎマスガ、各方面ニ十分ニ供給シ得ル狀況デ、寧ろ失業ノ狀況ニナツテ居リマスノデ、是等ノ人ノ組合等デ雇入ヲ致シマシテ、指導ヲ仰グ、或ハ商工會議所或ハ地方自治團體等ニ是等ノ人ヲ借リマシテ、商工業者ノ實地ノ指導ヲシマシテ、斯ウ云フコトニ依リマシテ技術的ノ水準ヲ高メテ行ク、斯ウ云フコトガ非常ニ中小工業ノ將來ノ振興ニ、大キナ影響ヲ及ボスモノト考ヘテ居リマス

次ニ、從來開屋ノ中小商工業ト云フモノハ不可分ノ關係ニアツタニ拘ジズ、今日マデノ組合制度ノ機構カラ申シマスルト、開屋ノ組合ト中小商工業ノ組合トハ別個ニ組織ヲ致シテ居ツテ、オ互ヒニ利害相反スルヤウナ組織化ヲシテ參ツタノデゴザイマスルガ、今後ハ寧ろ開屋ヲ持ツテ居ル金融ノ力カラ、中小商工業ノ中ニ取入レルコトニ致シマシテ、例ヘバ協同組合ノ組織致シマスル場合ニハ、原材料ヲ扱ツテ居ル開屋ト、中小商工業ト一ツノ組合ニ組織化致シマシテ、原材料ノ購入ノ部面ヲ其ノ開屋ガ擔當シ、之ヲ同ジ組合員デアリマス中小商工業者ニ加工サセマシテ、又其ノ出來タモノヲ買上ゲテ之ヲ賣ル、サウ云フ金融的ナ仕事ヲシテ居ッタ開屋等ヲ、自分ノ同ジ業體ニ包攝スルコトニ依ツテ、中小商工業者ノ金

融上ノ賜點ヲ直スト同時ニ、製品ヲ進
シテ自分改造成シナガラ賣リ擴メルカ
ヲ付テ行クコトニナルノデハナカラ
ウカト考ヘマス、又小サイ工場今後ノ
勞働問題ニ付テモ、非常ニ對處易イ
形ニナツテ居ルノデハナイカ、大キナ
工業ニ付キマシテハ勞働者ノ間ニ對
シマシテモ、色々ナ配慮ガ行カヌノ
デアリマスガ、所謂中小工業デ少イ勞
働者ヲ扱ツテ居リマスル處ニ於テハ、
事業主ノ凡ユル配慮ガ勞働者ノ間ニマ
デ宜ク行渡リマシテ、色々ナ勞働問題
ノ起リマスヤウナコトヲ未然ニ防止ス
ルコトガ出來マシテ、本當ニ勞資協調
ノ形ニ於テ、仕事ガ進シテ行クヤウナ
意見モゴザイマスルノデ、是等ニ付キ
マシテハ、寧ロ中小商工業者ノ方ニ、勞
働問題ニ付テ、適當ニ理解ヲセシムル
ヤウニ指導シマスルコトニ依ツテ、
中小商工業ノ本當ニ強イ形ノ經營體
シテノ完成ヲ圖ルヤウニ、指導シテ行
キタイト考ヘテ居リマス

ト云フヤウナコトカラ致シマシテ、是
等ノ人ヲヤハリ組合ニ組織化ヲ致シマ
シテ、自由連鎖店「ボランタリー・チ
エーン」ト云ツタ形ノ經營法ヲ執リマシ
テ、商品ノ共同施設ヲ行ヒ、販賣ガ同
ジヤウナ「マーケット」ヲ持ツテ同ジヤウナ
「マーケット」ノ店ヲ各地ニ設ケテ、賣リ擴
メテ行クト云ツタ強サヲ以テ、信用ヲ
維持シテ行クト云フコトヲ考ヘテ行ク
コトモ結構デアラウト考ヘテ居リマス
シ、工業者ニ付テ申シマシタヤウニ、
問屋ヲ同ジヤウニ小賣商ノ中ノ一員ト
シテ、商業組合ノ中ニ包攝致シマシ
テ、卸賣業者、所謂經營者カラ共同購
入等ヲ致シマシテ、其ノ問屋ガ協同組
合ノ仕事ヲ引受ケテ、之ヲ同ジ組合員
ニ流ス、斯ウ云フコトカラ致シマシテ、
經費ノ節約、其ノ他色々圖ツテ行キタ
イト考ヘテ居リマス、其ノ外政府ト致
シマシテハ、戰時中非常ニ低下致シマ
シタ商業道德ノ回復、是ガ延イテ商
人ノ信用ノ回復ニモナル譯デゴザイマ
スルガ、斯ウ云フ本當ノ根本ノ方面
ニモ「メス」ヲ入レマシテ、商業者ガ本
當ニ全消費者カラ、愛サレル商業者ト
云フモノヲ作り上ゲマス上ニ於テノ修
養ノ普及ト云フヤウナコトニ、政府ト
シテモ今後努力ヲ致シテ參リマシテ、
斯ウ云フコトヲ併セマシテ中小商工業
ノ全般ノ振興ヲ圖リタイト考ヘテ居リ
マス、但シ是等ノコトハ逐次ノ具體
化致シマシテ、帝國議會ノ御協賛ヲ得
ツ、實施ヲシテ參リタイト考ヘテ居ル
次第デアリマス

次ニ御尋ネ致シタイコトハ、從來ノ
組合ニ對シテハ免稅ガアツタリ、低利
資金或ハ補助金等ノ特典ガ與ヘラレテ
居ツタノデアリマスガ、本法案ニ依ル
組合ニハ、僅カニ營業稅ノ免除ガ規定
セラレテ居ルニ過ギナイノデアリマ
ス、中小ノ工業ニ對スル政策ニ付テ
ハ、多分ニ社會政策ヲ加味シナケレバ
ナラヌト思フノデアリマス、中小工業ニ
對スル社會政策ノ對策ハ、ドウ云フ
ヤウニ考ヘテ居ラレルカ此ノ點ヲ御伺
ヒシタイノデアリマス

○吉田(博)政府委員 只今仰セノ通
リ、此ノ新シイ協同組合ニ對シマシテ
ハ、例ヘバ稅金等ノ問題ハ營業稅ダケ
ノ免除ニ相成ツテ居リマス、從來ノ商
工組合等ノ中デ、統制組合ハ法人稅ナ
リ、或ハ所得稅等ノ免除ガアツタノデ
ゴザイマスガ、今回ノ協同組合ハ營業
稅ダケノ免除ニ相成ツテ居リマス、是
ハ同ジ商工組合ノ中デモ、協同施設
組合ハ同ジ稅利法人ニ近イ性質ヲ持
ツラ居リマス關係デ、營業稅ダケヲ免
除スルコトニナツテ居リマス、其ノ點
前ト同ジヤウナコトニ相成ツテ居リマ
ス、一般的ニ申シマシテ、中小商工業
者ノ團體デアアル協同組合ニ對シテハ、
色々ナ社會政策ト云フ言葉ガ出マシタ
ガ、色々ナ政府ノ援助ガ必要デアアルコ
トハ申サマデモアリマセス、但シ政府
ノ援助ハ今後ヤハリ補助金ト云フ形デ
參ルコトハ、色々ノ關係方面モゴザイ
マシテ、困難デゴザイマスルノデ、補
助金ト云フ形デ之ヲ助成シテ行クコト
ハ困難デアリマスガ、政府ト致シマシ
テハ、之ニ代ル色々ナ方法ヲ考ヘタイ
ト、今豫定ヲ致シテ居ルノデゴザイマ
ス、一ツハヤハリ資金ノ融通ニ付キデ

ゴザイマシテ、是ハ先般來商工大臣モ
仰セノ通り、只今一應ハ復興金融庫
ヲ通ジテ、復興金融庫ノ資金ヲ商工
組合中央金庫デヤラス例ノ方法デアリ
マス、低利資金ト云フ金利ノ問題ハ、
今日餘リ重要ナ問題デアゴザイマセ
ス、資金ノ流通ニ於テハ、先ヅ商工
組合中央金庫ト云フモノヲモウ少シ強
化致シマシテ、其ノ資金モ潤澤ニ、又
貸出ノ方法モ割合ニ簡易ニ行クヤウニ
之ヲ改正致シタイト考ヘテ居リマス
テ、是モ成ベク早イ機會ニ、新ラシイ
改正法律案ヲ次ノ議會ニ提出スルコト
ヲ考ヘテ居リマス、又補助金ト云フモ
ノハ、今日先程申シマスルヤウニ、非
常ニ困難ナ情勢デゴザイマス、豫算モ
多額ニ互リマスシ、色々ナ關係困難
デアリマスガ、之ニ代リマシテ、本當
ニ中小工業ノ經營ノ合理化ニ必要ナ施
設ト云フモノハ、或ル程度政府ガ之ヲ
助成シテ行クコトヲ考ヘテ行カケレ
バナラヌト存ジテ居リマス、組合ノサ
ウ云フ施設ニ對スル色々ナ既存ノ工場
等ニ付テハ、今度ノ整理等ニ依リマシ
テ、サウ云フ工場ガ不要ニ歸シマス、
サウ云フモノハ一應政府ガ預リマシ
テ、之ヲ適當ニサウ云フ所ヘ貸付ケテ
行クト云フヤウナコトモ、仕事トシテ
考ヘラレル譯デゴザイマシテ、補助金
ノ交付以外ノ仕事デ、之ニ代ルヤウナ
助成ノ方法ヲ考ヘテ行キタイ、斯様
ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、是等ニ
付キマシテモ、總テハ議會ノ協賛ヲ
經ル必要ガゴザイマスルノデ、只今相
當立案モ致シテ居ルモノモゴザイマ
ス、確定次第御審議ヲ仰グヤウニ致
シタイト考ヘテ居リマス

○原(健)委員 大體其ノ點ハ能ク分リ
マシタ、此ノ法案ヲ讀ム私ノ一寸感
シタコトハ、此ノ法案ニ依ル
域内ノ同業者間ニ同ジヤウナ組合ガ多
數設立スルコトモ出來ル、ソレカラ業
界ノ調整ヲ必要トスル時、却テ相互ノ
小數黨派ガ泥仕合ヲシテ、收拾付カ
ナイ云フ危險ガ必ラズアルノデアリマ
ス、是ハ同一地域ニ於テ非常ニ組合ヲ
作リタイト云フ意向ガ盛ンデ組合ヲ作
ル場合ガアリマス、サウカト思フト、
反對ニコンナ組合ナドハ必要ガナイト
云ツテ、全然作ライナ所ガアルト思
フデアリマス、ソレデ此ノ間ニ濫立ス
ル場合ニハドウスルカ、又全然政府ガ
之ヲ懲罰ヲセズニ放ツテ置イタ場合
ニ、自發的ニ作ライナ場合ハドウスル
カ、是ハ任意ニ作レトナツテ居ルガ其
ノ時ニ於ケル調節ヲドウ云フ風ニヤ
レルカ、伺ヒタイ

○吉田(博)政府委員 仰セノヤウニ、
業界デハ今日マダ的確ニ進ムベキ途ヲ
確認シテ居ラヌヤウデアリマス、隨
ヒマシテ、只今仰セノヤウニ、或ル土地
ノ或ル仕事ニ於キマシテハ、非常ニ澤
山斯ウ云フモノヲ作ツテ、何カヤツテ
賣ハフト云フ露攝キヲ示シテ居ラレル
所モゴザイマスシ、又所ニ依ツテハ、
政府ハ之ニ對シテ大シタ仕事モヤツテ
呉レナイカラ、マア暫ク様子ヲ見ヨウ
ト云フ、日和見ノ態度ヲ執ラレル所
モアラウト思ヒマス、ヤハリ政府トシ
テハ、中小工業ト云フモノガ、國ノ
中樞ノ基礎的ナ業態デアルト云フコト
ニ相成ツテ居リマスル今日ト致シマシ
テ、一日モ早ク其ノ組織化ヲ圖リマシ
テ、殊ニ生産ノ少イ今日ニ於テ、サウ
云フ組織化ヲ致シマシテ、將來伸ビ
基盤ニスル、例ヘバ設備等ガ十分ニ出
來テ居リマセヌ今日、非常ニ合理化サ
レタ共同設備等ヲ作ツテ行クヤウニ仕

第六類第二十三號 臨時物資需給調整法案委員會議錄 第十回 昭和二十一年九月二十三日

次ニ商業ノ問題デゴザイマスルガ、
商業ハ御承知ノ通り只今ハ物資ガ非常
ニ逼迫致シテ居リマス關係上、特殊ノ
配給ノ形ヲ取ツテ居ルモノデアリマ
ス、食糧當國其ノ他ノヤウナ一元配給
ト云ツタモノヲ執ツテ居リマスルガ、
斯ウ云フ形デ將來トモ永續スル譯ノモ
ノデハゴザイマセス、當然將來ハ國民
ノ必需品ガ潤澤ニ供給サレルヤウニナ
リマスレバ、商業者ト云フモノハ各々
自由ナ活動ヲ致シマシテ、物ノ配給、
消費等ヘノ圓滑ナル配給ト云フモノ
ヲ、圖ツテ行カネバナラスモノデア
ルト考ヘテ居リマスルガ、是等ノ仕事
ニ對シマシテモ、國家ノ將來ノ問題デ
ゴザイマスルケレドモ、小サイ形ノ場合
デハ中々其ノ組織ガ旨ク永續性ガナイ

ト云フヤウナコトカラ致シマシテ、是
等ノ人ヲヤハリ組合ニ組織化ヲ致シマ
シテ、自由連鎖店「ボランタリー・チ
エーン」ト云ツタ形ノ經營法ヲ執リマシ
テ、商品ノ共同施設ヲ行ヒ、販賣ガ同
ジヤウナ「マーケット」ヲ持ツテ同ジヤウナ
「マーケット」ノ店ヲ各地ニ設ケテ、賣リ擴
メテ行クト云ツタ強サヲ以テ、信用ヲ
維持シテ行クト云フコトヲ考ヘテ行ク
コトモ結構デアラウト考ヘテ居リマス
シ、工業者ニ付テ申シマシタヤウニ、
問屋ヲ同ジヤウニ小賣商ノ中ノ一員ト
シテ、商業組合ノ中ニ包攝致シマシ
テ、卸賣業者、所謂經營者カラ共同購
入等ヲ致シマシテ、其ノ問屋ガ協同組
合ノ仕事ヲ引受ケテ、之ヲ同ジ組合員
ニ流ス、斯ウ云フコトカラ致シマシテ、
經費ノ節約、其ノ他色々圖ツテ行キタ
イト考ヘテ居リマス、其ノ外政府ト致
シマシテハ、戰時中非常ニ低下致シマ
シタ商業道德ノ回復、是ガ延イテ商
人ノ信用ノ回復ニモナル譯デゴザイマ
スルガ、斯ウ云フ本當ノ根本ノ方面
ニモ「メス」ヲ入レマシテ、商業者ガ本
當ニ全消費者カラ、愛サレル商業者ト
云フモノヲ作り上ゲマス上ニ於テノ修
養ノ普及ト云フヤウナコトニ、政府ト
シテモ今後努力ヲ致シテ參リマシテ、
斯ウ云フコトヲ併セマシテ中小商工業
ノ全般ノ振興ヲ圖リタイト考ヘテ居リ
マス、但シ是等ノコトハ逐次ノ具體
化致シマシテ、帝國議會ノ御協賛ヲ得
ツ、實施ヲシテ參リタイト考ヘテ居ル
次第デアリマス

○原(健)委員 各方面ニ互ツテ非常ニ
詳細ナル御説明ヲ戴キマシテ、今後ノ
中小商工業者ニ對スル政府ノ對策ノ
「アウト・ライン」ヲ端ルコトガ出來
テ、本法案ノ審議ニ非常ニ便宜ヲ與ヘ
ラレタコトヲ感謝スルモノデアリマス
次ニ御尋ネ致シタイコトハ、從來ノ
組合ニ對シテハ免稅ガアツタリ、低利
資金或ハ補助金等ノ特典ガ與ヘラレテ
居ツタノデアリマスガ、本法案ニ依ル
組合ニハ、僅カニ營業稅ノ免除ガ規定
セラレテ居ルニ過ギナイノデアリマ
ス、中小ノ工業ニ對スル政策ニ付テ
ハ、多分ニ社會政策ヲ加味シナケレバ
ナラヌト思フノデアリマス、中小工業ニ
對スル社會政策ノ對策ハ、ドウ云フ
ヤウニ考ヘテ居ラレルカ此ノ點ヲ御伺
ヒシタイノデアリマス

○吉田(博)政府委員 只今仰セノ通
リ、此ノ新シイ協同組合ニ對シマシテ
ハ、例ヘバ稅金等ノ問題ハ營業稅ダケ
ノ免除ニ相成ツテ居リマス、從來ノ商
工組合等ノ中デ、統制組合ハ法人稅ナ
リ、或ハ所得稅等ノ免除ガアツタノデ
ゴザイマスガ、今回ノ協同組合ハ營業
稅ダケノ免除ニ相成ツテ居リマス、是
ハ同ジ商工組合ノ中デモ、協同施設
組合ハ同ジ稅利法人ニ近イ性質ヲ持
ツラ居リマス關係デ、營業稅ダケヲ免
除スルコトニナツテ居リマス、其ノ點
前ト同ジヤウナコトニ相成ツテ居リマ
ス、一般的ニ申シマシテ、中小商工業
者ノ團體デアアル協同組合ニ對シテハ、
色々ナ社會政策ト云フ言葉ガ出マシタ
ガ、色々ナ政府ノ援助ガ必要デアアルコ
トハ申サマデモアリマセス、但シ政府
ノ援助ハ今後ヤハリ補助金ト云フ形デ
參ルコトハ、色々ノ關係方面モゴザイ
マシテ、困難デゴザイマスルノデ、補
助金ト云フ形デ之ヲ助成シテ行クコト
ハ困難デアリマスガ、政府ト致シマシ
テハ、之ニ代ル色々ナ方法ヲ考ヘタイ
ト、今豫定ヲ致シテ居ルノデゴザイマ
ス、一ツハヤハリ資金ノ融通ニ付キデ

ゴザイマシテ、是ハ先般來商工大臣モ
仰セノ通り、只今一應ハ復興金融庫
ヲ通ジテ、復興金融庫ノ資金ヲ商工
組合中央金庫デヤラス例ノ方法デアリ
マス、低利資金ト云フ金利ノ問題ハ、
今日餘リ重要ナ問題デアゴザイマセ
ス、資金ノ流通ニ於テハ、先ヅ商工
組合中央金庫ト云フモノヲモウ少シ強
化致シマシテ、其ノ資金モ潤澤ニ、又
貸出ノ方法モ割合ニ簡易ニ行クヤウニ
之ヲ改正致シタイト考ヘテ居リマス
テ、是モ成ベク早イ機會ニ、新ラシイ
改正法律案ヲ次ノ議會ニ提出スルコト
ヲ考ヘテ居リマス、又補助金ト云フモ
ノハ、今日先程申シマスルヤウニ、非
常ニ困難ナ情勢デゴザイマス、豫算モ
多額ニ互リマスシ、色々ナ關係困難
デアリマスガ、之ニ代リマシテ、本當
ニ中小工業ノ經營ノ合理化ニ必要ナ施
設ト云フモノハ、或ル程度政府ガ之ヲ
助成シテ行クコトヲ考ヘテ行カケレ
バナラヌト存ジテ居リマス、組合ノサ
ウ云フ施設ニ對スル色々ナ既存ノ工場
等ニ付テハ、今度ノ整理等ニ依リマシ
テ、サウ云フ工場ガ不要ニ歸シマス、
サウ云フモノハ一應政府ガ預リマシ
テ、之ヲ適當ニサウ云フ所ヘ貸付ケテ
行クト云フヤウナコトモ、仕事トシテ
考ヘラレル譯デゴザイマシテ、補助金
ノ交付以外ノ仕事デ、之ニ代ルヤウナ
助成ノ方法ヲ考ヘテ行キタイ、斯様
ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、是等ニ
付キマシテモ、總テハ議會ノ協賛ヲ
經ル必要ガゴザイマスルノデ、只今相
當立案モ致シテ居ルモノモゴザイマ
ス、確定次第御審議ヲ仰グヤウニ致
シタイト考ヘテ居リマス

○原(健)委員 大體其ノ點ハ能ク分リ
マシタ、此ノ法案ヲ讀ム私ノ一寸感
シタコトハ、此ノ法案ニ依ル
域内ノ同業者間ニ同ジヤウナ組合ガ多
數設立スルコトモ出來ル、ソレカラ業
界ノ調整ヲ必要トスル時、却テ相互ノ
小數黨派ガ泥仕合ヲシテ、收拾付カ
ナイ云フ危險ガ必ラズアルノデアリマ
ス、是ハ同一地域ニ於テ非常ニ組合ヲ
作リタイト云フ意向ガ盛ンデ組合ヲ作
ル場合ガアリマス、サウカト思フト、
反對ニコンナ組合ナドハ必要ガナイト
云ツテ、全然作ライナ所ガアルト思
フデアリマス、ソレデ此ノ間ニ濫立ス
ル場合ニハドウスルカ、又全然政府ガ
之ヲ懲罰ヲセズニ放ツテ置イタ場合
ニ、自發的ニ作ライナ場合ハドウスル
カ、是ハ任意ニ作レトナツテ居ルガ其
ノ時ニ於ケル調節ヲドウ云フ風ニヤ
レルカ、伺ヒタイ

○吉田(博)政府委員 仰セノヤウニ、
業界デハ今日マダ的確ニ進ムベキ途ヲ
確認シテ居ラヌヤウデアリマス、隨
ヒマシテ、只今仰セノヤウニ、或ル土地
ノ或ル仕事ニ於キマシテハ、非常ニ澤
山斯ウ云フモノヲ作ツテ、何カヤツテ
賣ハフト云フ露攝キヲ示シテ居ラレル
所モゴザイマスシ、又所ニ依ツテハ、
政府ハ之ニ對シテ大シタ仕事モヤツテ
呉レナイカラ、マア暫ク様子ヲ見ヨウ
ト云フ、日和見ノ態度ヲ執ラレル所
モアラウト思ヒマス、ヤハリ政府トシ
テハ、中小工業ト云フモノガ、國ノ
中樞ノ基礎的ナ業態デアルト云フコト
ニ相成ツテ居リマスル今日ト致シマシ
テ、一日モ早ク其ノ組織化ヲ圖リマシ
テ、殊ニ生産ノ少イ今日ニ於テ、サウ
云フ組織化ヲ致シマシテ、將來伸ビ
基盤ニスル、例ヘバ設備等ガ十分ニ出
來テ居リマセヌ今日、非常ニ合理化サ
レタ共同設備等ヲ作ツテ行クヤウニ仕

向ケマスコトガ、將來中小工業ヲ維持育成スル上ニ非常ニ便利デアリ。譯デアリマスカラ、ソレ等ノ點ヲ府縣ヲ通ジテ業者ノ指導スル積リデ居リマス、併シナガラ、要ハヤハリ業者ノ方ガ、協同組合ニ依ツテ自己ノ業界ヲ強化シ、自己ノ事業ヲ「プロモード」スルト云フ確信ノ出來ルコトガ要點デゴザイマシテ、サウ云フ意味カラ申シマスルト、ヤハリ政府トシテハ、サウ云フ模範的ナ組合ヲ先ヅ強力ニ指導致シマシテ、ソレニ依ツテダリノ中小商工業者ノ方々ガ之ニ倣ツテ、右ヘ倣ヘツシテ戴ク、斯ウ云フコトニ一番重點ヲ置イテ行クベキモノデヤナカト考ヘルノデアリマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ、模範的ナ組合ヲ育成スル爲ニ、從來ノ商工組合法ノ下ニ於テモ、協同施設組合等モゴザイマス、今後商工協同組合ニ直ク變更スル譯デゴザイマスガ、サウ云フ適當ノモノ或ハ統制組合ノヤウナ共同事業ヲヤリマシテ、色々々實績ヲ擧ゲテ居ルモノモゴザイマス、サウ云フモノヲ今後モ更ニ大ニ培養致シマシテ、斯ウ云フ形デ行ケバ、自分ノ仕事モ將來伸ビ得ルノダト云フ確信ヲ得テ戴クコトガ、一番必要デラウト思フノデアリマシテ、私共ハ寧ロサウ云フ代表的ナモノヲ維持育成シテ行ク、殊ニ地方的ニ維持育成致シマシテ、之ニ右ヘ倣ヘラシテ貰フト云フコトガ、先ズ第一ニ必要デラウト考ヘマス、サウ云フ方針デ、府縣廳ヲ督勵致シマシテ、優良ナル組合ヲ更ニ強化スルヤウナ方針、之ヲ育成シテ行ク方針ト云フコトデ、先ヅ參リマシテ、然後一般のナ組合トシテノ指導ヲヤル、斯ウ云フ風ニ致シタイト考ヘテ居リマス

○原(健)委員 其ノ點ハ分リマシタ、其ノ次ニ御尋ね致シタイノハ、中小商工業對策基盤トシテノ商工組合組織ガ必要デアルト云フコトヲ大體何ツタノデアリマスガ、現在及ビ將來、中小企業ヲ壓迫スル色々々原因ガアリマスガ、其ノ原因ヲ取除カナケレバ、私ハ問題ハ解決シナイト思フノデアリマス、隨テ少クトモ中小企業ヲ壓迫スルヤウナ次ノ點ニ付テ、明確ナ方針ヲ承リタイノデアリマス、第一ハ、百貨店ノ資本的進出ニ對シテ中小業者ヲ保護スル對策ハドウデアルカ、ソレカラ第ニハ、消費組合ノ濫設ハ、消費者ニモ必ズシモ好影響ヲ與ヘナイガ、一般中小業者者、莫大ナ影響ヲ與ヘル、是中業者トノ調節如何、モウ一ツ、農村物資ノ配給ヲ、農業關係團體ニ依ツテ一元化スルト云フ企テガアルヤウニ聞イテ居ルガ、ヤハリ其ノ持場々々任ズベキデアルト思フガ、政府ハ此ノ方面ノ方針ハドウデアルカ、先ヅ此ノ三點ニ付テ御伺ヒシタイト思ヒマス

○吉田(輔)政府委員 只今ノ三點ハ殊ニ中小業者者ニ對スル非常ニ脅威ニナツテ居ル問題デゴザイマス、但シ此ノ問題ハ今日ノ狀況ト將來ノ狀況ト、少シ事情ヲ分ケテ考ヘネバイカヌカト思フノデアリマス、今日ハ所謂非常ニ闊取引ノ多イ時代デ、又關ノ配給等モ澤山ゴザイマシテ、中小業者者ヲ保護スルヨリモ、消費者ヲ保護スル必要ガ切ナル時代デアリマス、隨テコ、暫クノ問題ト致シマシテハ、ヤハリ的確ニ公定價格ナラ公定價格ヲ以テ、物資ガ消費者ニ配給サレル形ニ重點ヲ置カネバイカヌト考ヘテ居ルノデアリマス、サウ云フ意味デ百貨店ナドハ割合ニ公定價格ヲ守ツテ、何ト申シマスルカ、

並ンデ買フ譯デアリマシテ、公平ニ配給セラレルノデゴザイマスカラ、サウ云フ意味ニ於テ所謂青空市場ヨリモ百貨店ノ方ガ割合ニ信用ノ置ケルモノガ公定價格デ入ルト云フヤウナコトヲ考ヘマス、之ヲ無關ニ壓迫スルコトハ、色々々面カラ云ツテドウカト考ヘラレノデアリマス、將來或ル程度物資ガ潤澤ニナツテ參リマシテ、所謂一般ノ小賣商ト云フモノガ、昔ノヤウナ形、或ハソレニ近イヤウナ形ニ還ツテ來マシタヤウナ後ニ於キマシテハ、勿論此ノ二ツノ間ニハ、消費者ノ便利デケンコトデナクテ、仕事ノ上ノ調整ヲ行フ必要ガアラウカト考ヘマス、小サイ方方ハ百貨店ト云フヤウナ大キナ資本ノ商賣ニ對シマシテハ、是ハ先程申上ゲマシタ自由連鎖店ノヤウナ形ニ依ツテ之ニ對抗スル、所謂經濟的ナ形、何ト申シマスカ、組織ヲ作ルコトガ必要デゴザイマス、ウサ云フコトニ依ツテ經營上ノ合理化ヲ圖ル、サウシテ消費者トノ緊リヤ或ル信用ヲ以テ、自由連鎖店ノ必要ガアルト思ヒマス、基礎ニ於テハ自由競争ト云フコトガ基礎デゴザイマヌカラ、無暗ニ小サイカラト云ツテ保護スル譯ニハ行カヌノデアリマシテ、消費者ノ立場モ考ヘネバイカヌノデアリマスカラ、ヤハリ小サイ方々モ自分ノ經營ノ合理化ヲ圖ルト同時ニ、百貨店トノ或ル程度ニ於ケル仕事上ノ調整ト云フコトヲ致シマシテ、百貨店ガ減茶苦茶ニ暴威ヲ振スト云フコトヲ抑ヘテ行クコトガ必要デアラウト思ヒマス、サウ云フコトハ、百貨店店ト云フモノガ今日モゴザイマシテ、是ハ中小業者者ヲ保護スル爲ニ出來マシタ法律デアリマシテ、サウ云フ事態ガ

至リマスレバ、此ノ法律ヲ運用致シマシテ、百貨店ノ行動ニ對シマシテモ或ル程度ノ制限ヲ加ヘル、一面小サイ商業者ノ方モ經營ヲ合理化シ、其ノ商品ノ信用ヲ高メル意味ニ於テ、ヤハリ組合等ノ活動ニ依ル合理化ト云フコトヲ、併セテ行クヤウニ指導シタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、又消費組合ノ問題、是モ先程ノ百貨店ト同ジヤウナコトデゴザイマシテ、消費組合ヲ通ジテ本當ニ安イ良イ物資ガ消費者ニ流レルナラバ、今日ノ場合ニ於テハ是ハ消費組合ヲ抑ヘル譯ニハ行カヌノデハナカラウカト考ヘルノデアリマス、將來ヤハリ物資ガ潤澤ニ出テ參リマシテ、消費者ガサウ自分デワザノ組合ナドヲ作ツテ特別ナル「ルート」ヲ作ラヌデモ、手近ナ所ニ商人ガアツテ、ソコカラ良イ物資ガ直グ買ヘルト云フヤウナコトニナレバ、當然ソレハ解消致スコトニモナリマセウジ、又其ノ時ハ消費組合ノ方々ガ其ノ仕事ノ範圍ヲ縮メテ戴イテ、商業者ニ任シテ戴クコト云フコトガ根本的デアラウト考ヘルノデアリマス、要ハヤハリ自由ニ業者ヲ競争サシテモ、一般ノ商業者ノ方ガ便利デアリマシテ、消費組合ガナクテハナラヌノサウ云フ時代ニ殘ルト云フコトガ必要デアルト致シマスレバ、ソレハ消費組合ノ方ガ、假ニ配給ノ値段ガ一般ノ商人ヨリモ安イト云フコト、商品ヲ集メル力ガ非常ニアルト云フコト、保管ヤ輸送ノ設備ガ十分ニ良イト云フヤウナコト、資金のナ事業ノ基礎ガ著實デアルト云フコト、或ハ商品ノ配給ガ迅速適切デアルト云フコトガアレバ、當然消費組合ガ勝ツ譯デゴザイマスガ、サウ云フコトモヤハリ餅屋ハ餅屋ト云フコトデアリマシテ、一般ノ配給業者ノ方ガ立優ツテ行クダラウト思ヒマスシ、又立優ルヤウニ仕事ヲシナケレバ、消費者ノ立場モナイ譯デアリマスカラ、自然ニサウ云フコトハ調整セラレテ行クコトデアラウト思ヒマス、唯サウ云フ場合ニ飽クマデ小サイ商人ノ方ハ、組合等ニ依リマシテ其ノ經營ヲ合理化スルト云フコトガ必要デアツテ、ヤハリ消費者ノ爲ニモ利益ニナルト云フコトガ根本デアラウト考ヘマス、最後ノ農村物資ノ配給ノ問題デゴザイマスガ、是ハ少シ前ノモノトハ事情ガ違ツテ居ルヤウニモ考ヘマスガ、農村ノ爲ニ農業團體ニ配給ヲ一元化スルト云フ問題ガアリマシテ、今日ノヤウニ物資ノ少イ時代ニ於テハ是モ已ムヲ得ナイ形デアラウト思フノデアリマス、將來ノ農村ニ於テハ、農業者團體ニ物資ヲ扱ハシテ行ク云フ御希望ガアルノデアリマスガ、是ハヤハリ餅屋ハ餅屋ト云フ言葉ガ之ニ確カニ當ルノデアリマシテ、商業者ヲ使ツタ方ガ物ガ便利ニ流レルト云フ點ニ要點ガアラウト思ヒマス、但シ割當ヲ致シマスル仕事ハ、是ハ農村團體ノ方ガ農業者ノ點ヲ能ク知ツテ居ルノデアリマシテ、何處ニドウ云フ物資ガ欲シイト云フ割當ノコトハ、是ハ農村團體デ切符ヲ發行サレルト云フコトガ必要デアリマセウガ、現物ヲ流ス方ノ仕事、是ハ成ベク専門ノ商人ヲ使ツテ戴キタイト思ヒマス、場合ニ依レバ此ノ商人ノ方ヲ農村團體ノサウ云フ配給機關ニ使ツテ戴クト云フヤウナコトデ、仕事ノ上ノ調整ヲ執ル、斯ウ云フコトガ必要デアラウト考ヘマス、斯ウ云フヤウナコトデ、商業者トノ壓迫スル關係ノ調整ヲスルト云フコトデゴザイマスガ、要

ハヤハリ商業者ノ方其ノ經營ヲ合理
化致シマシテ、自由ニ競爭シテ十分
ニ之ニ對抗スル力ガナケレバ、結局長
イ眼デ見レバ大キナ力ニ押サレテ行ク
ト云フコトデゴザイマスカラ、ヤハリ
此ノ協同組合制度ト云フモノヲ十二分
ニ活用シテ戴キマシテ、又政府モ之ニ
相當ニ援助ヲ致シマシテ、其ノ立場ヲ
維持スルコト云フコトニ努力スベキモノ
デアリト考ヘマス

○原健委員 最近第三國ノ資本ガ相
當中小企業ニ入り込シテ居リ、又企
業ニモ入ラウトシテ居リマス、之ニ對
スル政府ノ見透シ並ニ將來ノ方針ハ
ウデアアルカ、御聽キシタイノデアリマ
ス

○吉田(樞)政府委員 第三國ノ資本ガ
我が國ノ産業ニ入ル問題ハ、非常ニ重
要ナ問題デゴザイマス、マダ大キナ産
業ニ付テハサウ云フ問題ハ起ツテ居リ
マセス、又第三國申シマシテモ色々ナ
國ガゴザイマス、併シナガラ東洋以外
ノ國ノ方カラノ資本參加ト云フ問題
ハ、現實ニナツテ居ナイヤウデゴザイ
マス、唯今問題ニナツテ居リマスノ
ハ、ヤハリ中國人、朝鮮人、臺灣人ノ
問題デアラウト思ヒマスガ、今日若干
中小工業ノ方、或ハ特殊ノ商業ノ方ニ
ハ此ノ力ガ入ッテ來テ居ルヤウデゴザ
イマス、併シナガラ現實ノ問題トシテ
考ヘマス時、既ニ入ッテ居ル力、ソ
レヲ排除スルコト云フコトハ今日ノ國際
ノ情勢カラ見テ不可能デゴザイマス、
隨ヒマシテヤハリ東亞ノ近イ所ニ同ジ
ヤウナ生活ヲシテ參ツタ是等ノ人達
ハ、ヤハリ手ヲ繋イデオ互ヒノ利益ヲ
保護シテ行クコトガ宜カラウト考ヘマ
ス、此ノ組合ト云フモノモ、ヤハリ此
ノ第三國人ヲ包攝シナガラ、統制ト云

フ言葉ハ當リマセスガ、共同事業ニ參
加シテ實ツテ、オ互ヒニ事業分野ト云
フモノヲ相侵サズニ進シテ行ク、斯ウ
云フコトニナツテ行クノガ一番望マシ
イ點デアラウト考ヘマス、東亞ニ同ジ
ヤウナ生活ヲシテ居リマスモノハ、今
後オ互ヒニ無茶苦茶ニ競爭シタリ、
オ互ヒニ不當ニ競爭ヲシタリスルコト
ヲ避ケマシテ、ヤハリ相倚リ相扶ケテ
行クコト云フ意味ニ於テ、之ヲ包攝シナ
ガラ日本ノ産業ガ伸ビテ行クコト云フコ
トニナラネバナラヌト考ヘテ居リマス

○原健委員 其ノ次ハ現在統制組合
デハ生産割當トカ、或ハ配給統制ナド
ヲ行ツテ居ルモノガ多イノデアリマ
ス、然ルニ本法案ニ依ル任意ノ協同
組合ニナツタ場合、此ノ統制ハ誰ガ擔
當シテヤルノデアアルカ、又本組合ヲ臨
時物資需給調整法ニ基キテ發シラレル
命令ニ依ル指定機關ニ指定スルコトガ
考ヘラレルガ、加入團體ノ任意ナ組合
ヲ指定スルコトニ缺陷ハナイト思ハレ
ルデアラウカ、又指定スルニ適當ナ組
合ヲ業者ガ任意設立シナカツタ場合ニ
於テ、強制設立ノ方法ガナイカ、此
ノ場合必要ナ統制ヲ行フコトハ出來ナ
イコトニナルガ、斯ウ云フコトニ對シ
テドウ云フ處置ヲサレルデアラウカ、
御伺ヒシタイノデアリマス

○吉田(樞)政府委員 先ツ現在統制組
合ト云フモノガ色々ノ統制ノ體ニ當ッ
テ居ル譯デゴザイマスガ、是ハ今後此
ノ法律ノ施行後三箇月ノ間ニ、當然解
散セラレテ解消スル譯デアリマス、其
ノ仕事ヲ誰ガ擔當スルカト云フ御尋ネ
デゴザイマスガ、是ハ業界ニ依リマシ
テ一律ニ參ラスカト考ヘテ居リマス、
通常ノ場合ニ於キマシテハ統制組合モ
同ジク共同施設等ヲ同時ニ出資シテ居

ラレル組合ハ澤山アルノデアリマス、
サウ云フ場合ニ於テハ當然協同組合ト
云フ形ニ變更セラレテ行クコトト思
ヒマス、サウ云フ場合ニハ、其ノ協同
組合ヲ臨時物資需給調整法ノ第二條ニ
依ツテ、統制ノ仕事ヲ行ラシテ行クコ
トニ考ヘテ居リマス、併シナガラ統制
組合ノ中デ、物資ノ割當ト云ツタヤウ
ニ純然タル統制ノ仕事デケシカヤツテ
居ラヌ組合ニハ協同組合ヲ作ルコトハ
出來ヌノデアリマスカラ、是ハ統制ヲ
ヤル必要カラ、別ニ任意ノ協定ヲ御
作リ願フコトガ必要デアラウト思フノ
デアリマス、物資割當ノ爲ニ其ノ仕事
ガ必要デアルトスルナラバ、新タニサ
ウ云フ協定ヲシテ戴キマシテ、其ノ協
定ヲ物資需給調整法第二條ニ依ツテ指
定シテ、統制機關トシテ行クコトガ必
要デゴザイマス、次ニ加入脱退ガ自由
デアリマスルカラ、組合員ニ入ラヌ人
ガ居ルデヤナカラウカ、サウ云フ者ヲ
指定シテモ色々ナ統制ガウマク行カヌ
デハナカラウカト云フ御尋ネデゴザイ
マスガ、是ハ員外ノ者ニモ割當ガ出來
ルコトニナツテ居リマスノデ、ヤハリ
サウ云フ協同組合、或ハ任意ノサウ云
フ協定ト云フモノヲ指定シテ參リマシ
テ、業界全般カラ申シマス、サウ支
障ハナカラウカト考ヘテ居リマス、又
業者ガ適當ナ組合ヲ作ラヌト云フヤウ
ナ場合ニハ、強制設立ノ方法ガナイカ
ラ、統制ガ行ヘヌデハナイカト云フ御
質問デゴザイマシタガ、ドウシテモ業
者ノ方ガサウ云フ組合ヲ作ラナイト云
フ場合ニハ仕樣ガゴザイマセヌ、成ベ
クナラバヤハリ業界御自身デ自主的ナ
統制ヲヤルヤウナ協定ナリ、組合ナ
リ、一ツノ團體ヲ作ツテ戴クコトガ望
マシイノデゴザイマスガ、ドウシテモ

業界ノ實情カラ、サウ云フモノガ出來
ナイト云フヤウナ場合ニハ、自主的ニ
統制ヲスル能力ガナイト云フ譯デゴザ
イマスカラ、是ハ政府自體必要ナ統制
ヲ自ら直接ヤル、所謂主務大臣自ラ行
フト云フ第一條ノ規定ニ歸ルコトニナ
ルノデハナカラウカト考ヘテ居リマス
○原健委員 大分色々分ツテ參リマ
シテ、中小工業ニ對スル指導ハ今後色
色重要ニナルト云フ結論ヲ得タノデア
リマスガ、ソレデハ本法案ニアル商工
協同組合中央會ニ對シテ、政府ハドウ
云フ指導力助成カ、其ノ他ノコトヲヤ
ラウト云フ御考ヘデアアルカ、ソレヲ承
リタイノデアリマス

○吉田(樞)政府委員 從來ノ商工組合
中央會ハ、此ノ法律ニモアリマスルヤ
ウニ、當然解散ヲ致シマス、新ラシク
商工協同組合ノ中央會ガ出來ル譯デア
リマシテ、サウシテ此ノ組合ハ此ノ法
律ニモゴザイマス通りニ、ヤハリ各組
合ニ對シマスル所ノ協同事業等ノ實際
上ノ積極指導ヲスル譯デゴザイマシ
テ、今後此ノ中央會ニ對スル活動ニ付
キマシテモ、政府ハ非常ニ期待ヲ致シ
テ居ル譯デゴザイマス、併シナガラ從
來ノヤウニ、補助金デ色々ナ仕事ヲヤ
ツテ行クコト云フコトガ、非常ニ困難ナ
狀況デゴザイマス今日カラ致シマス
ト、政府ト致シマシテハ、先ツ中央會
ノ據ツテ立ツ基礎ト云フモノハ、組織
スル組合ノ自發的ナ支持ト云フモノガ
第一デアラウト考ヘテ居リマス、ヤハ
リ組合自身ノ方ガ民主的ニ活動スル
云フ上カラ申シマス、之ヲ組織スル
組合ノ方ガ、之ヲ大イニ支持シテ戴ク
ト云フコトガ必要デアリマシテ、今後
民主的ニ中央會ト云フモノガ動イテ行
キマス爲ニハ、官制のナ、役所ガ作ツ

タ形ノ團體ニスルト云フコトハ、
ク之ヲ避ケテ行キタイト考ヘテ居ル
デアリマス、但シ政府ト致シマシテ
モ、中央會ノヤル業務デ、特殊ノ業務
ニ付テ政府ガ特ニ御願ヒマスルト云フ
モノガアレバ、是ハ其ノ事業毎ニ、場
合ニ依レバ補助金ト云フモノヲ交付ス
ルコトモ適當デアラウト思ヒマス、色
色ナ業界ニ徹底サセルヤウナ仕事ハ、
特別ニ御願ヒマスルト云フヤウナ場合
ハ、其ノ仕事ヲ徹底サセル爲メノ費用
ハ、或ハ補助金トシテ交付スルコトヲ
考ヘ得ル場合ガゴザイマスケレドモ、
一般的ニ中央會自身ヲ作ルコト云フコ
トニ對スル補助金ト云フモノハ、現在ノ
情勢デハ困難デアラウト考ヘテ居リ
マス

○原健委員 先刻モ質問ガアツタノ
デスガ、ハツキリ分ラナカツタノデ、
モウ一度御聽キシタイノデアリマス、
戰時中ニ中小企業ハ所謂企業整備ヲ行
ヒマシテ、轉廢業者ニ對シ殘存業者ニ
於テ共助金ヲ負擔シテ居リマスガ、此
ノ共助金ハ今日國民更生金庫ナドヨリ
ノ借入トナツテ居リマシテ、多クノ同
業者組合ハ此ノ負擔ニ堪ヘラレナイ現
狀ニナツテ居リマス、此ノ共助金ノ借
入金ニ付テ、終戦後ノ現狀カラ見テ、
之ヲ免除又ハ輕減スル意思ハナイカ、
又共助金ヲ受取ル側カラスルト甚ダソ
レニ對シテ不安ヲ持ツテ居リマスガ、
其ノ點ニ付テ明確ナ御答辯ヲ御願ヒ致
シタイ

○小出政府委員 戰時中ニ行ハレマシ
タ各種ノ企業整備ニ依リマシテ、多數
ノ轉廢業者ガ出タ譯デアリマス、此ノ
轉廢業者ニ對シマスル助成ノ方法ノ一
ツト致シマシテ、ソレ等ノ轉廢業者
ト、同業ノ人デ後ニ殘存スル業者ノ方

方が組合其ノ他ノ團體ヲ作リマシテ、轉讓業シテ行ク人達ニ對シマシテ、其ノ所謂暖簾代ト申シマスガ、營業ヲ補償スルト云フ風ナ意味ニ於キマシテ、共助金ヲ出シタ譯デアリマス、其ノ共助金ヲ出シマス財源ト致シマシテ、御話ノ通り國民更生金庫、一部ハ市中銀行カラ借りテ居リマスガ、大體ニ於テ大部分國民更生金庫カラ共助金ヲ借入レテ居リマス、此ノ借入デ居リマス共助金ハ大體長イモノデ昭和十五年以降ニ互リマシテ、其ノ償還ノ期限ガズツ長クナツテ居リマスシ、又終戦ト共ニ色々業界ノ實情ガ變ツテ參リマシテ、償還ノ能力ニモ色々變動ヲ來シテ居リマス、隨ヒマシテ速カニ此ノ共助資金ノ處理ヲドウスルカト云フコトヲ明確ニ致シマセスト、結局中小業者ノ本當ノ立直リガ出來ナイ、戰時中ノ萍ガマダ何時マデモ身體ニクツツイテ居ル、斯ウ云フ風ナ關係ニアリマスノデ、速カニ之ヲ整理致シマス爲ニ、先般政府ニ企業整備共助資金整理審查會ト云フ委員會ヲ設ケマシテ、國民更生金庫ノ理事長ヲ委員長ト致シ、關係方面ノ方委員ト致シマシテ、全體ノ業界ニ付キマシテ企業權別ニ精密ナ調査ヲ行ツテ居リマス、大體於テ現在マデニ於テ業權別ノ目安ガ付キマシタノデ、ソレノ業界ノ實情ニ應ジマシテ、共助金ノ結末ヲ付ケル方針ヲ確立シタイト思ツテ居リマス、其ノ結末ヲ付ケル方針ト致シマシテハ、先ヅ第一ニ償還能力ガ相當アルモノガゴザイマス、是ハ寧ろ終戦後ニナリマシテ、却テ償還能力ガ逆ニ殖エタト云フ風ナ組合モナイデハアリマセヌノデ、サウ云フモノニ付キマシテハ此ノ際出來ルダケ繰上償還ヲ

致シマス、サウ致シマシテ早ク共助資金ノ決済ヲ付ケルト云フコト、ソレカラ逆ニ償還能力ガ非常ニ減少シテ居ルヤウナ組合、戰災ニ遭ツタトカ、或ハ業界全體ガ非常ニ資材其ノ他ノ關係カラ致シマシテ、萎縮シテ居ルト云フ風ナモノモゴザイマスノデ、ソレ等ノ償還能力ノ乏シイ組合、或ハ全然ナイヤウナ組合ニ付キマシテハ、債務ヲ輕減シ、或ハ免除スルト云フ風ナ方針ヲ立テテ居リマス、例へバ償還期限ヲ延長スルトカ、或ハ中間据置期間ヲ設ケルトカ、或ハ債務ノ一部ヲ免除シテヤルトカ、或ハ場合ニ依リマシテハ、債務ヲ全額拂引スルト云フ所マデ行キタイト思ツテ居リマス、併シナガラ是等ノ償還能力ノ判斷ニ付キマシテハ、公正ニ專門ノ委員ノ方ヲソレノ各地方ニ於テモ御願ヒ致シマシテ、精密ナ調査ヲ致シマシテ、本當ニ公正ナ調査ニ基キマシテ、ソレノ償還能力ニ應ジテ合理的ナ解決ヲ致シタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○原(健)委員 ソレハ今調査中ラシイノデゴザイマスガ、一體何時頃發表ノ豫定デゴザイマスカ、非常ニ一般ノ轉讓業シタ人達ハソレヲ氣ニ病ンデ居リマスノデ、其ノ時期ヲ御伺ヒシタイノデアリマス

○小出政府委員 實ハ先程申シマシタ企業整備共助資金整理審查會ガ發足致シマシテ、第一回ノ審議ヲ開始致シマシタガ確カ六月頃デアツタト思ヒマスガ、其ノ當時ノ方針ト致シマシテハ、今年ノ終リマデニ業種別ニソレノ解決ヲ付ケル、解決ヲ付ケルト云フ意味ハ、拂フベキモノハ拂ハセルシ、免除スベキモノハ免除スルト云フ方針ヲハツキリ致シタイ、斯ウ云フ積リデアツ

タノデアリマス、所ガ御承知ノヤウニ其ノ後補償打切りノ問題ガ出テ參リマシタ、國民厚生金庫モ御承知ノヤウニ政府ノ龐大ナル補償ニ基イテ、此ノ資金ノ貸出ヲ致シテ居リマス、隨ヒマシテ國民厚生金庫ニ對スル補償ノ問題、ソレカラ厚生金庫カラ貰ヒマシタ金ノ特殊決済ノ問題ト云フ風ナ、補償關係ノ問題ガ絡ンデ參リマシタ爲ニ、多少ソコニ時間ノ遅レガゴザイマスレバ、補償關係ガ明確ニナリマスレバ、速カニ業種別ニ方針ヲ決定シタモノカラ逐次發表致シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○原(健)委員 次ニ商工政務次官ニ御伺ヒシタイノデアリマス、一體商工省ノ機構ト云フモノハ、未ダニ戰時中ノソレト何等變ラナイモノデアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレデ商工省ノ機構ヲ全面的ニ改革スルノ意思ガアリヤナシヤト云フコトヲ御尋ネシタイノデアリマス、例へテ言ヒマスルト、纖維局ノ中ニ陶磁器トカ硝子トカ、「セメント」トカガ入ツテ居ル、又纖維局ノ纖維課ト云フノガ、新聞雜誌用紙ナドノ割當ナドニ付テモ關係シテ居リマス、而モ其ノ用紙ノ割當ニ當ツテハ、甚ダ以テ我々ノ解セナイヤウナ思想ヲ以テ臨ンデ、用紙ノ割當委員ヲ作ツテ、其ノ思想ニ依ツテ用紙ノ割當ヲヤラレテ居ル、斯ウ云フヤウナ甚ダ以テ我々ノ不滿ニ堪ヘナイヤウナモノガアル、而モ是カラハ戰時中デハナクテ、モウ平和ノナモノニナツテ來タ、又貿易ヲ振興ヲシナケレバナラヌト云フコトニナツテ來タ、サウ云フヤウナ點ヲ勘案致シマシテ、是ハ宜シク商工省ノ機構ヲ全面的ニ改革スル必要ガアルト思フノデアリマス、又經濟安定本

部ト云フヤウナモノモ出來マシタノデ、ソレトモ考ヘ合セマシテ、將來商工省機構ヲ全面的ニ改革スルノ意思アリヤ否ヤ、アルトスレバ如何ナル方面ニ向ツテ改革セントスルノデアルカ、ソレヲ承リタイト思ヒマス

○小林政府委員 終戦後昨年ノ八月ニ十六日、軍需省當時ノ機構ヲ全面的ニ考ヘマシテ、只今ノ機構ニナツテ居リマス、隨テ全面的ニ之ヲ變ヘルト云フ意向ハ今ノ所アリマセヌガ、併シ仕事ノ上ニ色々ノ重要サヲ増シタリスルコトカラ、逐次或ル種ノ部分ニハ機構ヲ改革ヲ行ツテ居リマス、將來トモ仕事ノ上ニ必要トスル意味ニ於キマシテハ、出來ルダケ積極的ニ機構ヲ變ヘテ、實際ノ仕事ニ合フヤウニシテ參リタイト思ツテ居リマス、例へバ最近ニ於キマシテハ窯業課ト云フモノガ、工務局ノ中ヘ置カレマシテ、從來只今原君ノ指摘サレマシタ通り、纖維局ノ日用品課ノ中ニ陶磁器、煉瓦、硝子ナドノ、纖維トハ甚ダ關係ノナイヤウナモノガアツタノヲ、窯業課ノ中ニ入レルト云フガ如キハ其ノ一例デアリマス、又今同ノ賠償物ノ撤去ノ爲ニ、賠償物資局ト云フモノヲ置タコトニ大體ナツテ居リマス、ソレカラ技術ノ必要ダト云フコトカラ、先程大臣ノ言ハレマシタヤウニ大臣官房ノ中ニ技術ニ關スル特別班ヲ置カウト云フヤウナ計畫モゴザイマス、又統計或ハ速報ト云ツタヤウナ重大ナル問題ヲ、モット重大サヲ加ヘ參ラナケレバナラヌ、即チ統計ト云フヤウナモノノ確實ナモノガナケレバ、仕事ガ實際ノ上ニ運營シテ行ケナイト云フヤウナコトカラ、調査課ナドモ是カラ大ニ強化シテタイト云フヤウナ計畫モ今ゴザイマス、

サウ云フヤウナ部分ニ於テ將來隨分改革サルベキ點ガアラウト思ヒマスガ、是ハ仕事ノ實際ノ上ニ應ジマシテ、原君ノ御要望ノ通り大體ニ、率直ニ、一ツ積極的ニ機動的ニ帶ビテ働ケルヤウニ、機構ヲ變ヘテ參リタイト思ツテ居リマス

○原(健)委員 大體總體的ナ質問ハ是デ終リマシテ、各條ニ付テ色々御伺ヒシタイコトガアリマスガ、是ハ又後日ニ讓リタイト思ヒマス

○竹田委員長 ソレデハ本日ハ此ノ程度ニ於テ散會致シマス、明後日午前十時ヨリ開會致シマス

午後四時六分散會